

328

379c

〇
複写



始



124N-7



武市瑞山關係文書

第二

大正
5. 11. 29
購求

日本書紀
卷之四
天武天皇

武市瑞山山水畫



嘉慶元年冬月
若十
瑞山

伯爵田中光顯

武市瑞山文書第二目錄

一 入獄時代

一 補遺

一 附載

笑泣錄

泣血錄

武市瑞山在京日記

田内衛吉入獄自記

目次

自一
至二六七

自二六九
至二八〇

二八一

二八五

三〇三

三五七



北山時雨田内衛吉	三八七
患危憤怨錄武藤小藤太	三九九
讀辨姦論岩崎秋溟	四三四
小原與市筆記拔書	四三五
佐佐木高行日記抄	五〇五
山川良水筆記	五一五
瑞山平井義比ノ爲メニ宥死ヲ請フ件	五二七
瑞山間崎門田等三士ノ死ヲ救解ノ件	五二九
古稀物語抄	五三一
那須翁招魂碑	五三七

贈從四位那須君招魂碑	五三九
村山可壽母子捕梟ノ事	五四一
天誅見聞談	五四七
五十嵐敬之手記	五五五
間崎滄浪先生手簡	五六一
瑞山の罪案	五六五
瑞山先生の獄中の書畫	五七九
吉田參政暗殺聞書	五八七
反古いじり	五九三
江月齋日乘拔萃	五九九

目次
 樺山資之日記抄
 村井政禮日記拔萃
 一年譜

六〇五
 六〇九
 六三一

目次終

○慶應元年正月二日 (瑞山ヨリ妻富子)

のとけき春ニ相成みあ〜さぬ御きらんよろしく御としのさ〜遊されそ
 かな同様愛度そんしまるらせ候爰元おし年むるへ候先〜めて度そんし
 候

扱春ニなりけしるふぬあた〜りなる事よて候暮よを喜太次参りていゝん
 りなど〜ねんころニま〜先候よし誠ふ〜そんしりけもなき事ニて婦人
 のくることハ決してせらせんよふこそおざつた誠ニ女房ガひそるニあい
 さいたげななど〜万々一玄れたをハ後の世までのもちよて候あいたは事
 さいいでもまをたことなれどこれハさつさり思ひきり可申候誠よ〜
 やまゐらんことぞよ喜太次などハあのよふな人ゆへあとさきのりらんへ
 もなくた〜〜ねんころのあまりニそのよふなことをいうてを〜めても
 決していゝんそよ申までもなく候へともねんのさめくを〜申進候
 竹馬丑五郎などハ時ニよりてハくる事ハまこしも〜氣遣ハなく候へと



もこれさへよく時あひを見合ねならぬ事なり
あゝそや三年といふ年月次越したがいつり見けの目あることぞいななれ
今年ハ櫻の花を見けニなるり又ならぬ目あるろふとおもひ候暮ぐくれ
ハななきをまし春ニなれハ又ななき今年ハむりニめて度よふニ歌をよみ
たゝい目なをし候

初日影よやひ出たるのとけさふ

おもひも春の心あそませ

扱此間潮江の半兵衛と云下番をやり候處酒ともませ候よし大よろこび
ふて候きのふはりきを玉子とちよしてもてきてくは候誠ふふときりきよ
てめつそふよく候れハ誠よ〜此上もなきよき人よてまこしも〜氣
遣なく候誠ニよき人よて候扱又四日の夜喜太次をやり可申候先あら〜
りしく

二日

より太

おと乙どの

(武市家文書)

○慶應元年正月二日 (島村衛吉ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)

扱當年々何も新玉り古の愛度御世と相成夷賊且夷ふ同じき

皇國內之賊も拂候様なれりしと思ニ付元旦ニ祝して

四ツの海なみもまつりよ古へよ立あへるへき千代の初春

御笑奉願候先と御祝詞申上度旁如此御座候尙期永日之時候

正月二日

入道様

浪穂

太郎様

(上田開馬藏文書)

○慶應元年正月五日 (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

昨夜之尊墨且筑葉之圖面等御越し難有奉存候先以御勇健之旨奉賀候御噂

武市瑞山關係文書第二

三

其印、吉永良
吉永良、島村衛

之通り筑葉萩等之勢何とそと明暮心痛之事ニ御坐候扱て良印之應接之事
重英より浪穂へ都て参らばいゝ恥る事欲更ニりてん不參實も良印之言出
等之事ハ心得不申てゐるなる口違ニ相成大事ニ及候事も難計何卒急々
相分候様御頼申候

傳三、曾和傳
左衛門
圓、園村新作

一別紙傳三へ儘に御届被遣奉頼候
一園に書キ付ハ返上仕候

先右迄得御意度如此御坐候頓首

五日

入道様

依太郎

(上田開馬藏文書)

○慶應元年正月五日(瑞山ヨリ曾和傳左衛門へ)
新春之御慶無盡期申納候先以被成御揃御壯剛ニ可被成御越歳愛度奉存候
野生ふじ御安神可被成下候近頃ハ一向御尋も不申不相更御痛心御盡力之

兒組、岡田以
其印、吉永良
吉永良、島村衛
之助、小畑孫
三郎

旨爲國家大慶之至御坐候

然ニ天下國家共甚々敷形勢何とも大息之極申様無御座候扱て○之勢且
又兒組之申出將又良印之應接口等度々入道邊迄尋遣し候處今以不相更實
も良印之言出ニよりてハ孫三初惣分考之入候譯ニ付何卒急々御尋合被下
度御頼申候扱隣窄ト此間内も示談致候處只今も此番手彼是別紙之通ニ
付聊氣遣之筋なく候ニ付喜太郎同道ニ亦乍御苦勞御出被下候ハ惣分之
情實彼是相分り野生等も實ニ安心ニ相成候ニ付何卒御出被下度くれ
御頼申候來ル八日之夜喜太郎出勤ニ付入道之方へ迄日暮頃方差出可申候
間御操合ヲ以入道之方へ迄御出懸ケ被下度御頼申候尤大事之上も大事ニ
付もし都合之あしき事御坐候ハ御用捨被下度八日之夜ハ上番下番共都
合よく候扱大坂之一擧もいゝ候哉只々一日も早くあせりしといのる事
ニ御坐候日夜氣ニ掛ルハ筑紫之義徒よて御坐候
太守様も二日頃彼ノ地御發駕之旨先々恐悦之御事ニ御坐候御咄ハ如山

太守様、藩主
豊範

候へとも先右御座右御相談迄可得御意如此御坐候頓首

正月五日

より太

會傳兄

口印へ御序之節くれく宜御頼申上候實ニ心中を察し何とも申様なくい
る計とそんし候 (上田開馬藏文書)

○慶應元年正月八日 (本田大内藏一件)

同類三人ハ濱
田辰彌(後伯
爵田中光顯)
那須源馬(後
男爵片岡利
和)大橋慎三
等チイフカ

公義御尋者本田大内藏と申仁去々亥年頃大坂南瓦屋丁かまゝ屋九八郎借
家ニ罷在當名石藏屋政右衛門と改メセンザイ養ヲ渡世トシ罷在候得共右
商業ハ名目而已ニ格段仕込不致同類三人相かくまハ形勢相窺罷在處
今正月八日爲操索壬生浪士四人立越矢庭ニ立込暫相戦といへ共大内藏方
孰も手之達者ニ其場切り拔尤壹人ハ深手ヲ負途中ニ乍相倒致自害候
趣右騒動暫之間ニ御町方捕手を初市中御堅メ永井侯織田侯柳生侯お之

御人數又ハ會津家之留守居も御人數引致出張其邊り餘程相騒漸翌九日曉
比相鎮り申候右大内藏初外貳人都合三人未行衛不相分趣右同所ニ銃炮玉
藥其武器少々隠置御坐候右大内藏何方とやふ之諸太夫之趣ニ御坐候
處右同類爲探索壬生人數ニ立越し八軒家清水谷ハ夥敷入込居候様之風聞
ニ御坐候事

丑正月

(伊藤修藏文書)

○慶應元年正月八日 (本田大内藏一件)

一谷川辰吉反覆之事

爰ニ谷川辰吉ト云フ者アリ備中倉敷在ノ産ニシテ時世ニ倣ヒ劍柔ヲ好ミ
有志ノ徒ト交際シ本國ニ於テ嫌疑ヲ被リ大阪へ脱走シ所々ニ潛伏中土州
人片岡源馬 此頃奈須盛 濱田辰彌 後田中氏謙 大村刀三郎 后津井氏道 大橋慎三 多里
貞信田村道太郎等ハ密カニ謀ル處アリテ大坂ニ出道頓堀ナル鳥毛屋某方

瑞山ノ書翰ニ
大坂ノ一擧ト
アカハシコト
フカハシコト
記事ハ誤聞多
シ一史ニ佐維
照動スベシ

ニ滞在ス谷川ニハ其比近藤勇ト交リ深キ備中人谷萬太郎同三十郎兄弟ノ
 松屋町ナル擊劍場ニ同國之因ミヲ以テ尋來リ遂ニ土藩ノ謀議ヲ内通シ志
 操ヲ變シ谷兄弟ト共ニ新選組ニ入隊シ慶應元年正月八日近藤勇三南三郎
 舊敬助^{ヲ改ム}土方歳三以下二手ニ別レコレヲ追捕セント其寓居鳥毛屋方へ押掛
 ケシ處片岡濱田大村大橋以下ニハ夫ト見ルヨリ六連炮ヲ連發シ烟ノ中ヨ
 リ討テ出就中片岡氏ニハ新選組有名ノ劍客谷三十郎ヲ一當ニ突倒シ左リ
 ノ手ヲ切掛ケ又壇王法輪寺^{橋東}ノ僧ノ居合セシガ浪士ヲ切伏セ勢ニ乘シ
 圍ヲ破リテ突キ出一旦四ツ橋邊へ引退ク此時鳥毛屋ハ捕ヘラレ入獄ス扱
 又濱田大橋片岡田村等ハ十津川郷士中西彌三郎ノ案内ニテ和州ニ走リ十
 津川郷湯ノ谷村植西嘉藏方へ落附夫ヨリ小井村清昌寺暫時潛伏セシカ片
 岡氏^{トハ利和}ニハ其後同郷士中井庄五郎ト共ニ猶密カニ出京シ十津川ノ陣
 所ニ潛ミ諸方ノ同志ト通謀アリシ中或時高瀬四條下ル浮連亭ニ於テ一酌
 ノ歸路四條ノ橋際迄來掛リシ處新選組沖田總司齋藤^{ハシメ}一長倉新八ノ三人ト

行違ヒニ目早く浪士ニハ夫レト見認メ直ニ拔劍メ切掛ル片岡中井ハコレ
 ニ應シ接戦ス沖田長倉ハ片岡氏ノ左右ヨリ立狭ミ遂ニ左リノ肩先ト右ノ
 足ニ深疵ヲ員ス中井ハ居合ノ達者ナレド齋藤ニ切立ラレ西ノ方へ追詰メ
 ラル沖田長倉片岡氏ノ斃レタルニ齋藤ノ見ヘサルヲ掛念シ西ノ方へ走セ
 行シ透ヲ得テ深手ナカラ片岡氏ニハ麩屋町姉小路池村久兵衛方へ落來リ
 夫ヨリ下御靈神社裏ナル古木屋ノ坐敷借リ受ケ全快ノ上京師モ極々危殆
 ナルヲ以テ又モヤ十津川郷へ潛ミシモ人相書ヲ以テ其所在地ヲ見廻リ組
 新選組ニハ頻リニ探索ス濱田辰彌氏ニハ郷士田中主馬藏ノ假リニ弟ト成
 リ田中謙助ト改名シテ同郷ニアリ多里貞信ハ其後同藩井原應助外一名ト
 備中ニ於テ暴行シ追跡ニ逢ヒ作州津山在ニテ共自刃シ果ヌ谷川辰吉^{十郎}
 ハ其同志ヲ捕ヘントスルノ功アレト賞スルニ足ラズトテ平士ニ入ル然レ
 ドモ志アル者ハ其反覆ヲ忌ミ惡ミタリ維新後井汲恭平ト姓名ヲ變シ和州
 ニ居ル

(西村兼父著新選組始末記)

○慶應元年正月八日 (本多大内藏一件)

濱田辰彌、後
伯爵田中光顯

茲に又招賢閣を脱せし島浪間、井原應輔、千屋金策、橋本鐵猪、濱田辰彌等は已に昨年十一月二十三日を以て、大阪に達し、繼で那須盛馬、池大六も亦來りて、道頓堀の鳥毛屋に同宿せり、而して同十二月中、島、千屋、井屋の三人は、別に謀る所ありて、更に山陰道地方へ遊説の途に上りけり、而して鳥毛屋も幕吏の指目を免れざるにより、遂に松屋町なる本多大内藏の自宅に一同轉寓し、彼の大和鼎吉も亦京都より來りて之に投せり、偶ま同町に道場を開き居し、備中の劍客谷萬太郎は、亦新選組に加盟せる者なるが、同郷の谷川辰吉より咫尺に土佐浪士の潛伏所ありと聞しかば、萬太郎は直ちに部下を率ゐて、大内藏の家を襲ふ、折しも那須、橋本、濱田の三人は外出中にてありしより、大和鼎吉只一人中山侍従が帯びしと云ふ半太刀を執つて奮闘し、衆寡敵せず亂及の下に斃る、主人大内藏は逸し去つて跡をくらまし、他の三人共の場に見へざるより、新選組は即時に一同の人相書を市中に觸れたるは、即ち慶應元年

乙丑正月八日の出來事なりき、扱て襲撃を免れし那須、濱田の二人は、十津川郷士中中西彌作郎の道案内にて、大和の方へ危難を避け、一時十津川郷小井村の清昌寺に潛居せしが、此の頃よりして橋本鐵猪は大橋慎三又濱田辰彌は田中顯助、那須盛馬は片岡源馬と改名す、而して鼎吉の遺骸は何處に埋められしや詳かならず、然るに不思議にも横死を遂ぐるの前日、左の和歌を口吟む是れぞ全くの辞世にぞある。

元よりの輕き身なれど大君に

心はかりはけふ報ゆなり

右の凶報が土佐に達するや、親戚の者共は昨年三田尻出陣の際に送りし遺髪を高知城西の小高坂山に埋め、碑を建て之を誌す、鼎吉死する時二十四歳なりき、明治十四年五月、勅して靖國神社に合祀し、同三十一年七月、特旨を以て正五位を追贈せらる、因に記す右十津川に潛伏中の那須盛馬は、其の後大膽にも郷士中井庄五郎と出京し、同郷士の本陣とせる中町の丸太町屯所に

寓せしが、或日中井と共に高瀬四條下る浮連亭に鯨飲し、醉步蹣跚として帰路に就くや、四條橋際にて、忽ち新選組の沖田總司、齋藤一、長倉新八の三人が、大手を振りて來るに衝突し、敵は三人味方は二人、互に火花を散らして戦ふうち、中井は居合の達者なれど、齋藤に切り立てられ、爲に那須は沖田、長倉の二人より挾撃せられしに、大酔の事とて、左の肩先と右の足に重傷を負ひしも、其の場より跛歩しながら、兼ねて懇意にせる荻屋町姉小路の書肆、池村久兵衛方へ身をかくし、其の金創療治の爲めに、更に下御靈社の裏手なる、古着商某の一室を借り、暫しが程は潛伏せしが、新選組と見廻組とは、是非ともに那須を捕へんものと、洛中洛外に人相書を觸れ、其の搜索嚴しきより遂に全快の後再び十津川に立ち帰りて、劍道指南に光陰を送りけり、後日に那須は屢々人に語る様、アノ時京の藪醫にグイ〜と焼酎で疵口を洗はれた時は、眞に泣く程の痛さで、今に忘れぬ」と同志傳へ聞きて、夫れこそ鬼の目に涙なれと、皆打ち笑ひ興じたりとかや

（維新土佐勤王史）

横濱探案書云々未考

◎、目付曾傳、曾和傳左衛門

長印、吉永長正路、小畑孫三郎

美稻、小畑孫二郎

○慶應元年正月七日カ（瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ）

五日之夜之尊書且横濱探案書等儘に拜受仕候先以被爲御揃愈御勇健可被成御渡奉存候隨私無事乍憚御安神可被遣候實に幕府之仕業最早絶言語申候然に返る宜しき事欲とも相考申候右等之事件を聞てはいかある俗人もちと憤氣に相成可申候扱◎之勢等も未相分不申曾傳邊へ御引合被遣候よし然ニ日之立事矢之如ニ付何邊之議論等も急々決定致し置不申るこゝや役場相初リ可申ニ付何卒良印杯之事等急々相分り候様御頼申候

別紙之盟之事正路が考を書キ記シテ廻シ來候處前之政府ヲ甚しく言て有リ候ニ付別紙相認正路へ送り申候細字ハ美稻方正路へ送りしナリ此之獄組ハ惣分此之書キ付ノ處辯解之積リニ御坐候間惣分之御考へ承リ置キ申度候尤同志同盟之内ニ人ヲ暗殺し或ハ君父ヲ捨脱走等致ス不義人有之右不義人ト同盟致してヨリ候事ハ不明ニ相違有間敷右不明之處ハ恐レ入テ居る欲ト◎詰られ候時ハ恐レ入テ居ルト云々外ニ仕道ハ有間敷相考申

候子細ハ類族ニ不正之事アリ御上ハ御咎被仰付候時ニ亦も一統恐レ入テ居トハ申譯ニ是等之處も惣分之御論決之處承リ度奉存候

一私江戸ハ歸リ其後出足迄之間盟致し候人之名前荒まし御詮議之上御申越被遣度御頼申候

一大△之三人ハ同盟ニてはあしと云事先達ヲ申出有之候ニ付一統其心得之事宜御頼申候

一此間御頼申候盟書之扣御座候ハ一寸御見せ被遣度奉願候

一扱一昨日海部ハ手紙來リ申候一人神田ハ出る者ニよき人出來候由ニて實ニ〳〵安心仕候先づ〳〵皆〳〵ふじ趣ニ御坐候

大△ハ吉田元吉暗殺ノ三刺客チイフ

海部、檜垣清治、人云々ハ獄番チ云フカ

アベ川、島本、審次郎、海部、檜垣清治、八、三木、森田、三郎

三木
八兒
海部
川

新ノ之様ト申事ニ御座候

井出、田内衛、吉△、大坂ニテ、井上佐一、暗殺一件カ、八兒、岡本次、幕、昨年ノ幕、横目、井上一件

安川喜太次中番

右之通双ニ相成海部ハ八兒ヲセメ候由之所終ニ閉口シテ大ニ後悔致し日夜歎息致し居候趣可笑可憐之至ニ御座候

右之海部之狀ニ八兒ガ云ニ井手ハ知ラぬト辨解シタトカスルトカ云イ候よし依太カバト〇カ被詰テ依太ハ知らぬト辨解シタトカスルトカ云イ候よし依太ハ累ハサヌトカ八兒ガ云イヨルト申事ニ御座候且又右同人之狀ニ幕ニ掛

川町之御トギニ短刀御トガせも有之よし等之事も有之候右八兒ガ云し事ヲ以考合候ハ去暮頻リニ〇カ促しニ來リ候事は△ノ差圖せしと井

手が云たと云し詰問之事ニても有之事哉と相考申候何分〇之儀論御聞合奉頼上候つ〳〵相考見候ハ右小△等事彼是巨魁と見拷之詮議と存申候

一安川も參不申如何と氣遣申候

一會傳ハ相談致し候事御聞被遣候事ト存候アノ事ハ万々氣遣ハ無御座候

へとも安川ガ出ズては被行不申候

扱右御報彼是御頼旁如此御座候頓首

七日

依 太郎

入 道 様

太 郎 様

赤紙之書付御返し申候

(上田開馬藏文書)

前二細字ハ美
稻ヨリ正路ヘ
送シナリトア
ルハ之カ

當時、現今ト
解スヘシ
先朝、吉田元
吉ノ時ノ政府
ノ意
◎目付即チ
監察吏
佐幕ノ
符イ偏

○慶應元年正月月中旬カ (小畑孫二郎(美稻)ヨリ弟孫三郎(正路)ヘ)
誓論至理至當ノ儀ナリ然ルニ吾輩禁錮ノ其起ル所以ヲ深ク考レハ根元尊
王攘夷ノ大議ヲ唱ヘ其余意余弊實ハ實ハ官吏ヲ蔑如シ大臣ヲ禽獸ノ如ク
見シテ無ニ非ス依テ吏ヲ始メ大臣蒙士等怒リヲ起シ居タリシガ時ヲ伺ヒ
様々ト讒言シテ今爰ニ至レリ當時ノ官吏亦尊攘ノ大義ヲ守ル者無ク殊ニ
先朝ノ遺謀ヲツキ居候得ハ決而義理ノ通スルヲ無ク依テ◎ノ對論尊攘ノ
大義ヲ押張り理ヲ以テ詰メ且先朝ヲ謾罵シ大臣ハ勿論惣テイ扁組ヲ非謗

〇、容室ノ

及ハス處、及
ハザル處ノ意
土國、土佐藩
ノ意

スレハ益◎ヲ激怒サスレハ亦大ニ私意ヲ起發シ公へ亦讒シ候テ深ク惡
ミ候勢ト存候依テハ◎ト應對ニハ此頃長々ノ獄舎ニ益上ノ御苦勞ヲ憂ヒ
父母ノ艱難ヲ歎息ニ不堪ノ情ヲ表シ言語杯モ成丈ケ和温ヲ心持チ尊王
ノ言ニ及ハス處ニテハ成丈言ハス只々土國ノ君恩ニ報シ爲ト而已申立
先朝ヲモ決而罵ラズ又大臣イ扁ヲ惡シク不言カ吉キト思フ敵國杯ニトラ
ハレシ時ナレハ顔果卿ヲ學ブヘケレ共今ハ節ヲ屈シサヘセズハ◎ヲ敬ヒ
免角赦免ヲ僥倖シテ君父ノ爲ニ後圖ヲ謀ルニ不及ト思フ○春秋論ヲ引テ
モ周室ノ衰微ヲ歎息勤王ノ爲ト云ハ成丈言ヌカ吉○公武ノ御間不和君
臣ノ名義立ス○幕府有ヲ知テ 天朝在ヲ不知○幕府へ斯クシテハ都合ア
シキト唱ヘシ杯言ハ甚◎ノ忌諱ニ觸候ニテ成丈言ヌ方可善○盟論瑞山
ノ著圭角無之◎ノ激怒ニ觸レス且其盟誓ノ起リ高大ニ無之只私心ノ無キ
爲神ニ誓ヒシト言フ計ニテハ決テ深キ巧ミ心等無之淺々シキ處ニ聞ヘテ
大ニ宜キ也カク、タル譯ヲ以テ不得止誓ヒ杯言フ時ハ自然高臺ニ聞ヘ

候様存候

不明論モ不明ニハ候ヘ共根元誓ノ一實ニ私心ノ無キヲ神ニ誓候一故盟
 セシ人今タレト其人々ニ面會應對議論等ノ上ニテ盟セシ一言ニテ無
 之○美稻杯ハ京師ニテ平收ノ前書シタル誓紙ニ五六人名前有之候得共其
 中一面識モセヌ人勝ニテ有ツレ共其人物ヲモ不問只其席ニ有リシ收等ト
 私心ヲ不起國君ノ爲ニ善ヲ責合三百年來ノ万分一ノ御恩ヲ可報ト言フ
 神ニ誓シ一ニテ再其誓紙ヲモ不願依テ其誓紙ヘ其後加リ候一モ不聞ナ
 レ共追々同志ハ夥多ニ成リト聞左レ其名ハ聞テモ面會セヌ勝ナリ月人杯
 都テシラヌ人多シ依テ誓ノ一至テ淺キ一ニテ決テ深キ巧ミ杯有ル一ニテ
 無之尤其中深ク交リ居候者ニモ不義ノ月人はハ不明ナリ然ルニ左様ノ不
 義有ル寸謹責シテモ私心ヲ出スマイゾト言フ爲ノ盟セシ二月ノ一談ス
 迄モ無ク拔々密々ニテ脱シ又談シ候者ヘハ國恩ヲ忘却スルノ一ヲ以テ諫
 メシニ其時ハ腹シタ面ニテ後ニテ月セシモ有リ道ヲ以答ルツモリ夫ニ付諫
 月人、脱走人
 ノ脱ノ略

メシ者ヲモ却テ不義ノ者同様ノ外見ニモ及ヒアマツサヘ不義ノ事杯起ル
 モ誓ノ言ヲ守テヨリノ一ニテ誓御國害トナリシ杯ノ論モ有之哉ニ聞ユ不
 安次第根元御國恩ヲ思ハヌ者何ゾ忌諱謹責ヲ不恐非分ヲモ不願大臣重役
 ヘ上言等仕ヘケンヤ右彼是ヲ以テ私心ノ無ク赤心ノ處御推察可被仰付ト
 言フツモリナリ勿論誓國ノ爲ニ私心ナキ一ヲ神ニ誓ヒシト言ツテ成丈カ
 ルクナル様言フツモリ又其實モ其一ニタカハズ
 (上田開馬藏文書)

前文ニ所謂別紙カ

○慶應元年正月下旬カ (瑞山ヨリ小畑孫三郎ヘ)

眞足、河野萬壽彌

熟讀仕候至極御尤に相考申候其内盟等之事ニ眞足兄之御考宜様存候愚慮
 左に申述候

◎、目付 一關東を歸り形勢建言せし筋◎ニ不用異端邪說杯と申成し云々等之儀を
 明白に不言方宜敷存候

一〇之令に背き云々等之事決して不宜様存候
一盟之事は元は幕府之失體を起りし事に云も更なれと開關以來未曾有
之事件就るは薩長云々ニ付如何様之大事に及候哉難計

老公、容堂

當公、豊範

當公様御幼年いり計御痛心被爲遊候御事哉實以大非常之時ニ而所謂
主憂る時は臣辱めらる自然之譯ニ人心有もの誰か悲泣せさらんやた
とへ 御上を別段御示等無之ともいつれ其心得可有譯かれと惣分之人
氣奢侈遊惰勝ある事に都て憂心之色無之右に付自然憂國之朋友とも
互ニ誠心を以忠情相勵候義神ニ盟云云と云て〇之きもへ當らぬ様温和
に申解候方万事宜様存候

一野生先達る應接之節盟之事に及其節答に於關東天下之形勢を薩長之義
舉等之事承り其節元敬かと五六人同志之者談話中天下之形勢云々ニ付
るは近々必大事に及可申實以三百年來之御鴻恩可奉報之時節至來ニ付

元敬、大石彌
太郎

下總殿、國老
山内下總

互ニ善ヲ責赤心ヲ以忠誠ヲ盡一點之私意ヲ挾まぬ爲ニ神ニ盟可申ト約
し右赤心之旨趣相認長幼之順を以盟致し候事ニ別子細ナシ
右薩長之勢直様政府へ可申出事ニ付歸國仕り右之途一申出たり其節不
時に歸國致し候故世人頗る不審ニ爾來心易キ者共數人尋參りしナリ
然ニ天下之大事ニ付仮初ニ口外不相成候へとも憂國之人と見てハ具に
談しタリ其後七八日程して〇右事件口外不致様被申聞タリ夫が決し
て口外せば既ニ下總殿の内々使として被尋候へとも右ハ差留之儀ニ付
内々よては口外難出來旨ヲ答へタリ然とも右口外御差留以前ニ見込の
人えは談せし事ゆへ自然ニ廣く相成しなり扱右之盟は江戸が取り歸り
其儘にてさし置有之候處其後
追々太守様御發駕ト申ニ相成其節誰が聞しや平生出會之同志之者右盟
へ加り度由申ニ付勿論子細無之譯ニ數人盟せしナリ實ニ此度之御參
府こそいかる大事も難計孰も決心せし事ナリ私事右御供相蒙り盟書

入道、島村壽之助

武市瑞山關係文書第二

二十二

ハ入道に渡し置しナリ其後京都御滞在中同志之者數人盟せし事アリ尤是ハ平井收盟書相認しナリ其後追々天下之形勢大ニ相改り乍恐老公様も御慎被爲解不而已天下之御大政さへ御預リニ相成大に御盡力被爲遊事と相成先以開愁眉盟書等も入用も無之且草莽之者赤心入御上覽申度相心得御國許を取り寄しナリ其節見候へハ盟に加り候人數人有しナリ夫々直ニ老公様へ入 御上覽候處其節 御意ニ此盟書有りては不宜ニ付取り歸リ燒捨候様被 仰聞直様取下燒捨しナリ依る夫々盟をせぬむかしと相成候事云々

大意右之通答へ致せしなり尙又御考野生も疾相考見可申當座相考候處右之通御推讀可被下候

北 獄 兄

依 太 郎

(上田開馬藏文書)

美稻、小畑孫二郎、老公、容堂

○慶應元年正月月中旬カ (獄外有志ヨリ獄内有志へ)

右瑞山美稻二先生ノ高議一同熟讀最モ圭角無之官府ニ告クルノ体ヲ得タル様覺ユ盟ノ儀ハ今更驚々論スル處ナク 老公ノ御意ヲ奉シ既ニ燒亡シタリ唯々目今ノ處ニテ右本意ヲ惇々告クルニテ官府ノ怒氣ヲサクル上策カ如何サマ彼ノ吏強テ呶々スルトキニ至テハ預メ論決セラレサル處ナラシ就其中不明論ニ至テ聊異論ナキニシモ非ズ依テ左ニ記ス
或士ノ論ニ云我人國家ノ爲志ヲ立テ私意ナク君上ニ報効ナサントテ盟シ譯ニテ某謀主ニテコレ々々ノ事ヲ爲スト云儀モナク此人善彼人惡ト云テ指揮シテ盟セシニモナク朋友互ノ切磋上ヨリ此正心ヲ表スルノ譯ナレハ月人斬客等ノ者ハ全ク此盟ニ背タル所謂不義人ニテ我レニ不明ノ責ハアルマシク彼却る背盟不義ニテ我レハ素心確乎明不明論ス所ニアラスト云高意如何

月人、脱人ノ略

又一論ニ爲國家報効ナサントテ朋友互ニ切磋シ此盟アリサレハ切磋上ノ

武市瑞山關係文書第二

二十三

盟友ニ不義人アリテハ不明ニシテ人ヲ見誤ルノ責メハ聊免カレサル處モ
 アランカ先ツ不明ニ決シテ見ト瑞山先生ノ論ノ如ク一着吏ニ勝ヲ與ヘテ
 恐入テモ大体ノ盟ノ主意ニ關係セスバ可ナランカ盟ノ本意ニ至テハ決テ
 顧慮スルモノナキ儀ハ今更贅言スルニ及ハス既ニ老君上覽ノ節モ御怒ニ
 モ觸レス却懇々御教諭ニ依テ件ノ如ク焼セタリ此等ニテモ彼ノ更心ハ解
 不申哉賢慮如何
 右二條ノ余愚見無之先此邊ヲ以テ懇勸ニシテ多言セス數言ノ間ニテ事ヲ
 辯スル方ヨカラント一同相談シタリ尙高評ヲ冀フノミ

○慶應元年正月月中旬（瑞山ヨリ島村壽之助へ）

扱昨日孫三々畧承り候處此間之詰ハ專盟之事と申事に御坐候さらは盟を
 以罰付候事歟と相考候然に是ハ關係甚廣キ事ゆへよくよく論ヲ詰ておか
 ずては不相成事ニ御坐候勿論盟之事ハ神世々有之事ニ而候へハ朋黨之間友カ

互ニ私心ヲ挾まず誠心ヲ以君忠ヲ盡ス事ニおいて聊あしき事無之候儀ニ
 付百方辨解辯いつ迄も論スル譯ナリ然◎も又種々様々之論ヲ出シテ◎ノ
 勢ヲ以論しかけると尙更私意を起しいつ迄もメラザル道理ナリ又コチも
 あしきと思ねば後悔セズ後悔セテバ恐れ入譯ナシ然ニ右論シ詰候上之處
 之考へ私も未考へ中に御坐候尙此之論シ詰メシ上之處忠臣之ケヂメを付
 ケ可申譯を自分ニよきト心得候上ミカあしきと云詰處ニ而上之云はる
 事無理ともいはれぬ譯歟是等之處よくよく御考へ被遣度奉存候是等
 之筋は一統屹度居りを付置き申サテバならぬ事ニ御座候

（田岡正枝文書）

○慶應元年正月月中旬カ（島村衛吉ヨリ瑞山へ）

弘良、弘田良
 岸圓、岸本圓

弘良岸圓大小目ハ二人三人或ハ壹人定リ無シ詰ハ專岸圓ナリ尤初之出
 シハ弘良外無言

武市瑞山關係文書第二

大河原渡邊等
襲殺事件

楠瀬六衛
森田金三郎
弘光明之助
小笠原保馬
岡田以藏
門野川龍右衛
高松太郎
森山本喜三郎
之進

○是迄毎々御吟味被仰付シガ今日ハ格別ニ御尋被仰付ナリ御自分上之方ニ詰合シ時公儀ノ與力トカ同心トカヲ暗殺シ蹴アゲニ梟首セシト有シ哉△有シ○何月頃デ有シ哉△忘レタリシガ孰君公ノ江戸へ御發駕カ前ト覺ユ○其首ヲ見シ哉△見ニ行シガヲクテ得見ス○連有シカ又首ハ取ノケテデモ有シカ△壹人デハ無シ連ノ人ハ忘レタリ又處ハセマク群集ハヲビタ、敷且首モ竹ノ先キヨリ落テ有シ故不見○トヲ云フデ切リシゾ又書付等ハ無リシカ△トヲ云フカ不知又書付モ不見○其時分御自分ハ何處ニ居シゾ△仙壽院ト申寺ニ居タリ○其寺ニ誰々居タゾ△凡拾七八人モ居シカ誰々ト云フハ忘タリ○大躰誰等ガ居タト覺ユルゾ△楠瀬森田弘松小笠原岡田矢野川高松山本森等カ居タ様ニ覺ユル○其人等ハ皆連判ノ組カ△不知私盟セシ人ハ元五六輩ナリ其後盟書ヲ不見追々承レハ京師ニテ別段ニ盟セシ人モ有ルト聞シガ委敷不知○夫ハ江戸ヨリ歸リテ後御自分ノ手ヨリ段々弘マリ數人ニ及シト半平太ヨリ申出テ居ルカ如何△不知江戸ヨリ

歸シ後盟書不見半平太カ申出テ居ル事ハ間違デ有フ此ト六ヶ敷クリ返シ云シハ壽之助ヤト云テ止ル○同宿ノ内ニ御自分ノ盟セシ人有シヤ△小笠原岡田兩人江戸ニテ盟セシ人ナリ○石部へ立越シ人之内ニ御國人モ有リ殊ニ同盟ノ事ナレハ聞カヌ事ハ有マジ△不聞御國人ノイテヲリシ事只今承リ驚入タリタカデ聞ザリシ○知ラヌ事ハナイ道理ナリ互ニ誓ヲシテ居ル中ニ殊ニ是程ノ大事ヲ云ハヌ事ハ無キナリ△露モ存掛ケナシ同盟ト云ヘ凡時勢ノ替ルニ從ヒ論モ違イ激論ノ者有リ種々有リシナリ其激論ノ者ハ正論ノ者ヲ大先生論或ハ因循論ト云テ笑ナリ私共ハ人ヲ暗殺スル事杯不好ル故大ニ愚ロフセラレタリ又以藏モ道中カ且滯坂中毎々不正ノ一有度々意見ヲ致シタレ共不用却テ大ニ被忌諸事カクス事故半平太杯へも相談ノ上見限り居シ事故何モ不承○夫ハ夫ニシテ目明シ文吉ヲシボリ殺セシト有哉△有シ○トヲ云フゾ又何月頃テ有シゾ又見タカ△不見添テ有シ書付ノ寫ハ見タガドヲ云フデ有タカ忘タリ○只知ラヌト被云ガ知ラヌ道理ハナイ只

一昨年、文久三年

今被申出處ハウツクシウ被申出ガ其時ノ事体ハ背ケハ刺シ又吾モ背ケハ被刺勢也今トハ大分違フナリ△其事体テモ人ヲ殺ス事ヲ不好正論スル故愚ロフセラレタリ又知テ居ル事ヲ不知ト云タトテ身ノ爲ニナラヌ知テ居レハ申上ル譯ナリ能々御明察奉願○然モ一昨年ハ揚屋入ニ被仰付シ上ノ不明ト思フカ只御不審掛ト云テ矢庭ニ御クルメ被仰付タト思フカ△御詮議掛を以テ御クルメ被仰付何モ身ニ覺ハナケレトモ何ソ落チドモ有フカト恐入相慎居ル内毎々御吟味被仰付處一々存掛モ無キ事ナレハ其時々申上ル通りナリ然共同盟ノ者ノ内不義者有故御不審ノ處ハ一々御尤ニ奉存ナリ私赤心ハ是迄申上ル通ナレハ幾重モ厚御詮議奉願又上ヲ不明ノ何ノト思テ奉恨様ナ心毛頭無ナリ○愈知ラヌ事カ尙相考ラレヨ今日ハ是キリ又追テ被召出ト云テ歸ル

(上田開馬藏文書)

○慶應元年正月十一日カ (瑞山ヨリ妻富子)

コノ本文文見ヘズ

かきそへ

一今日わとや腰巻御こしこれでのみのりこひニなり候とたのしみ候
 一美林のこたいのつよみニなり候ニ付おりく御越し
 一なんぞ花ガ又あつたれの御こし
 一々ふのだれも出後役所もとやく引まづりな事よて候
 一もとや時節よてさぬ天氣もあしく候ゆへ竹馬など毎日くたまる
 一まゝとそんし候丑五郎のまぶニ不相替内ニ居候り又東へり居候り
 一こんどの御供などこふもりおせぬりおふるこふもつさろふと存候
 一先のあらくしん
 一十一日むんる
 一より太

おと乙との

一衛吉がとや五十日のよし誠よくとやきものよて又くおもひ出し
 一のにもくくむごきざんねんな事よて候扱水を入るおけの輪りきせ

田内衛吉元治
元年十一月廿八日仰毒自殺

惣七参り候よしあきも近頃をめぐつそふえんせつとしてくれ候
(武市家文書)

田内衛吉元治
元年十一月廿
八日仰毒自殺

○慶應元年正月廿一日カ (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子へ)
此間の御とふく敷又此間中のさへり寒く相成申候先くみか
さぬ御きたんよくめて度そんし私事もふし候ま少も御氣
遣被遣ましくくれ存扱田内よも此間を法事もとこふりなく
致し候事ト存扱此間中役所も初候へとも誠まえづりな事よてま
一人もきんみ出る人もなく候今日も御よりあひ有りしゆへ又明日頃か
初るろふりと存し候此間中も下番やり度候へともとふも都合あしく明日
の喜太次が出るろふと思たのしみおり申候扱去暮廿八日は朝日の出二日
が二ツ出たと申事森山の雄次と云中番が見たと申事又福井の人も見たと
申事たしりな事よて御座候よし誠ま大變と云ふり云よふのなき事よ

て御座候もこや世の中もまみりと存扱先りくたんの事もなく不相
更本を見て日を暮し先ほくくりしく
廿一日の夜
より太

姉上さぬ
おと乙との

古事記

この本内ニあり候ニ付御こし
一この本前へ御とつけ

治部、檜垣清
小孫三、小畑
孫三郎、岡本次
郎八兒

○慶應元年正月廿五日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)
今朝之尊書直ニ拜受仕候先以御捕御勇健可被成御渡奉賀候隨私儀次第
ニ快方ニ罷在候間乍憚御安慮可被仰付候扱◎之論も未格別ニ相分り不
申趣今日ハ海邊下へ参り其跡へ小孫三参り申候孫三ニ一寸承り候ハハ八

三木、森田金
安部川、島本
審次郎後仲道
等ハ獄ノ略

佐人、佐川人
ノ意ニテ濱田
辰彌(後伯爵)
田中光顯(後男
須盛馬(後男
等片岡利和)
大禎、大利鼎
吉、大應元年正月
八日新撰組ノ
徒大坂松屋ノ
本多内蔵ノ
家ヲ偶々出テ
綱等々々出テ
在ラズ郡吉岡
死ス郡吉岡
暗殺一件元吉
符斬罪ノ意

兒も三木も安部川も海部も此度之新ヲへ入候趣ニ御坐候右ニ付る下ニ
と揚り屋ナシニ相成候事ゆへ此以後ハ海部阿部川三木ナドノ事ヲ聞事之
道絶へ候譯ニあるにも残りをしき事ニ御坐候扱又江川之書見ル度毎ニ
おろしく思申候其内佐人且大禎杯之被轉候事ハ幕之手ニ掛る候哉又
會之手ニ掛る候哉いつれ會ニ亦も幕之譯ニ付必御國へ御渡しニ相成可
申もし又御渡しニ不相成時ニ御國ハ御願ニ亦受取ニ相成可申左候時ニ△
之拷問甚しき事ト相察申候右之人々ナド大坂邊ニ亦周旋之筋承りハ大ニ
氣遣居候處果して被召捕實ニ不安次第此者ナド御國へ歸り候ハ、手
ニ掛り首ノのく事ハ疑無之江川ハ其位之心付ケも不致一欲嗚呼大息之至
ニ御坐候將又長州之勢實ニ左も可有之ト相察申候是亦絶言語申候取早神
州之正氣築葉ニ止り申候大坂一舉之事頗ル急務ニ御坐候得共迎も事ハ得
舉ケ申間敷當時ニ至り亦諸侯ニ一人も無御座候哉大息之而已扱御詠
歌難有奉存候私も衛吉ナドニ習ひており、ヤンチャヲ申事ニ御坐候お

中番喜太次

藩廳獄ノ成ヲ
ザルヲ以テ
ニ命ヲシメ
毒殺セシム
トリヨリテ
カチ寄セシ
モ此書

あしやゝ

右御報迄又明後日喜太印出候ニ付其節御咄可申頼首百拜廿五日之夜

入道様

より太

太郎様へよろしく

休日中ニ◎之模様御探り爲御聞奉願候

(上田開馬藏文書)

○慶應元年正月廿七日カ (瑞山ヨリ獄外同志へ)

御懇書拜見いたし候王子之醫之處隨分がてん之事ニ亦候藥ハ床の下々の
ませ申積りニ御坐候此病症ハ十日廿日位藥ヲのミても吞後ても決亦其位
の間ハ死ス事無之御安心可被下候
大奸之腹中となりておもふニ依太巨魁確證ナキ事故口上ニ亦詰上グル
不能又殺しても御政体不立又一ツも罪ナキと云てハ又不立依亦大窮ス
權道ト云て奸黨醫をして一畧を施ス事大上策なるべし右も堂々たる正義

ニサへ權道もアル事ヲ以思ふなり素より死はきらむ候へども奸謀之手はくむぬとおもふ極内内右迄頓首

廿七日

尤醫奸とハ決る不被思候へども用心要ト存居候右ハ内々

依 太郎

内の邊の御方へ

返し

(上田開馬藏文書)

○慶應元年正月廿八日 (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子へ)

此間お御とふく敷又くうとく敷候處みかきぬ御き々んよく先て度そんしり私事まつかくたんの事も御座なくいまにおりハちくいたみ申候されともめしもくゑ又あぢもありふだんのとふりよて少もかゝる事御座なく又つうしもあり出し心地よく候扱きのふハ又く御目附方王子かゝり候様申來り直ニ王子も參り見申候これ

王子、獄醫

醫入交道頓

も入交などのいふとおなし事よてせんじやこしけよて此頃ハよほどつゝをよどり候と申事よて候扱此間入交之事願候處御せんぎ中といふ内ニ入交來候故直ニそふだんいさし御目付方へ申てやり候處又く御せんき中といふ御中ニそや藥をもつて參り候故御目附方ニぶそく申居候處何分それゆへ右の王子ニかゝり候様申來り候事とそんし候今日又此間の弘田かんゆう見ニ來り候處此間見たと同様と申事何分こんな處ニおりてハ中くよふなぬちとく中ぞりナドいさし口ひげともそつたれハよるふとおもふ此事私御目附方へ申出るといふてりへり申候私事やせて大よよそり候へともまぶ三十日や四十日たくまりものまほおり候とても中く死よそふよわ御座なく候ま少もく御氣遣被遣ましくくれくそんしり

醫弘田玄祐カ

前のおぢさん、島村壽之助

扱きのふもだれも出候まづあな事よて候扱又前のおぢさんよひ出しのよしどふしても御預ケゆへせんぎに出ねハ事たふまとふぞくそやく御な

おりよてそやく御出ニ相成候ハ、と存候まゝしなるふ今の世の中の事ゆへ又〜あがりや入ニなるやふえれ不申衛吉などを揚り屋へ入る事なれおぢさんの尙更の事よてありし事なれととふぞ〜そふなふぬよふうとた〜い〜いのる事よて候今のよふよてハ揚り屋入ニなるまゝとそんし候

一王子も々々吉吾ニ咄を聞けハ随分よきいしやよてそふほふニそやるといふ事よて候々ふも見ニ参り候よしなれと役所ひけておりりへり申候明日又くるもほよて候扱々ふあはあさつてハやまみよてまづりに御座候又〜近〜の内下番やり申候先とあ〜めて度りしく

廿八日

依 太

姉 上 さぬ

おと乙との

一この夕前へ御といけ

一字をかき筆一本御こし福鹿よてもよし

○慶應元年正月廿九日カ (瑞山ヨリ獄外同志)

昨夜之御懇書憶ニ相達難有奉存候今日も鬱々敷候處御捕御勇健奉賀候御持疾いゝ御坐候哉些々御全快之氣御坐候候哉承り度奉存候私儀先以同様之内今日も些快髪など取り上ケ手足ナト洗ひ候大分心地よく候毎々氣被尋千々々難有奉存候王子昨日も今日も参り候得共休日故ニ見る事不能無益ニ歸り申候王子之薬も天祥とも不見由其内明日ハ粉薬をくむる筈ニ御坐候扱春同之丸薬御世話被遣由難有奉存候此者ハ潮江小笠原之前ニ住半兵衛と申て眞直人而已な〜及考之有者ニて万々恐ニ及心候付又々差出申候此者明日も出候ニ付其節御越被遣度奉頼上候尙御咄も承り度奉存候先と右迄得御意申度如此御坐候頓首々々

廿九日

(上田開馬藏文書)

王子、獄醫
天祥、毒薬ノ
コト解ハ第一
卷ニアリ

島村壽之助慶
應元年三月下
旬入獄

○慶應元年正月下旬カ (瑞山ヨリ妻富子へ)
々ふあたりを前のおちさんおぶおぶ出るろふとそんし候處出候もし
や又々例のれがせよて御病氣ともでああるまゝいと氣遣申候誠ニ御祖
母さぬ初みあゝさそやゝ御なげきとそんし候されともほんとふを云
へハおちさぬなとと爰元と同時に揚り屋へ入也けよて候三年やど内は御
いてが仕合よて候御預よて内ニおる事なれ何年でもらくな事と存候扱
又近々の下番さし出候りしく
こんむんハ佐藏もこゝよてとまりおり候
明日の吉吾を太郎がおこしてくまゐるろふとたのしみおり候
一この夕前へたしりに御とゞけ

島村壽太郎

○慶應元年正月下旬 (瑞山ヨリ獄外同志へ)
是迄傳ナドノ狀ニ書ハ事ヲ盡サズト有リテ何邊ノコトシカゝ不分過日

美稻、小畑孫
二正路、小畑孫
三正路、小畑孫

ヨキ時合アリテ誰カ一人此ノ所へ來テモロヲタレバト囚組一同談合候處
美稻正路初孰も同意ニテ此所へ忍フ實ニ々々大事ノ極ナレド今ノ時ナ
レバ萬々々々氣遣ナク大丈夫ト囚組同論ノ上ニテ此ノハ傳ニ非ズバト
孰モ申事ニテ其旨傳へ掛ケ合候處折柄子ノ病氣且又甚今大事ノ時ニ付云
々トノ答へアリタリ勿論孰も尤ノト思ヒシナリ
其後安藝ノ人某ト云年五十餘リノ男不計夜分此ノ處へ忍ビ來リ天下ノ事
御國ノ事ナド只々落涙ニテ話ヲ聞キタリ是ハ未知ラザル人ナレド憂國ノ
至情ニテ自然同志ニテ何モ此ノ處へ來テ咄シタテ國家ニ益モナケレド、
自然同志ノ至情ニテ不得止遙々ト安藝分出テ尋テクレシナリ
此人ハ安川ノ叔父ト云一面シキナケレト憂國ノ誠言外ニ顯ハレシナリ
勿論吾ハタトへ此ノト◎へ知レテモ吾ニハ責ノナキ様ニ應接シタリ此
人云ニ口ナド今ハ居ルケンド何ノ益モナイ潮江ノ子ノ助ト云者ハチ
ト役ニ立云云ト話シタリ誠ニ安喜ニ居ルニヨク◎ノトナド知り國事ニ

安川喜多次
中番
◎、大目付
口、田ノ略
濱田真作

目ヲ付テ居ルコト實ニ感心仕リシナリ

○慶應元年正月下旬 (瑞山ヨリ獄外同志)

- 一 御門ハ障子ヲタテ、有ル誰ガ通りテモ不知
- 一 御目附方モ戸ヲタテ、有ル一人モ不居
- 一 小目附方右同様
- 一 牢番ノ詰所右同様
- 一 此ノ揚リ屋ノ番ノ定ハ上番三人中番四人
下番二人ヲズ番ナレド略シテ上番二人中番モ二人下番一人之又當時役
所ナキニツキ上番一人中番一人下番一人ニシテ居ル上番中番共出テイ
テ一人モ居ヌコトサイノアルナリ右ニ付上番ハ誰ガ出テ居ルヤラ中番
モ不知中番モ誰ガ出テ居ルヤラ上番モ不知
- 一 上番ハ [] 時替リニテ夫々自分ノ着座ニ居リテ動かズ直ニ寢ルナリ

一大略左之通りニテ外輪テ考ヘテハ如何ニトノ氣遣有ル譯ナレド萬々々
氣遣ナシ

- 一 中番之積リニテ參リ候ハ、誰ガ參リても聊氣遣なし又外之人よても中
番之内何某へ用事有ルトテ尋子參リ候事も差問へなし
- 一 中番ハ三十日勤たれハ替ルニ付さぬノ色々之人來るなり然ニ前ニ出
よつた人が替りノくるナリ
- 一 此圖面などハ釋加ニ經之譯ニ可可笑候へとも近頃少々替り候處も有之
候ニ付爲念差出申候
- 一 安川と云ハ 喜太次之異名也 (上田開馬藏文書)

○慶應元年正月卅日 (瑞山ヨリ島村壽之助)

守印、濱田守
之丞カ
横目
濱田良作

一 昨日之尊書體ニ拜讀仕候先以御揃御勇健奉賀候隨私無事乍憚御安慮
可被仰付候然ハ太印守印兩人ニ相成候由大幸之至さをれハ口も大ニ力

◎、目付
森權次、野中
シマツ、野中
太内

ヲ得可申◎之模様ちとく相分リ可申奉察候昨日休ニ静ニ御坐候扱
大監ハ一昨日仕舞ヲ見候ニ付森トシマツト計リト申事ニ御坐候◎之模様
御聞合被遣度奉願候

正路、小如孫
三郎

一正路方太印へ一書遣し申候何卒急々慥ニ相達候様奉願候
先右迄得御意度如此御坐候頓首百拜

十日

依 太 郎

入 道 様

昨夜々徒目ナド詰メ切リニテ御坐候ドコカ非常ありし由承り申候
(上田開馬藏文書)

○慶應元年二月一日 (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

別封よろしく御頼申候

口、濱田良作
正路、小如孫
三郎、中番喜
安川、中番喜
◎、目付
太次

一昨日御尊書難有拜見仕候先以愈御勇健可被成御渡奉賀候扱口も出郷之
旨成程此間赤岡へ参り候由安川方承り申候太印と正路ナドノ咄ニ口ナド
カハ才モアリ智モアリ強キ所モアリ吏ノ事ニモナレ居候事故◎之勢もよ
く相サグリ可申ト申事ニ御坐候右ニ付正路方一書ヲ送り申候口も四五日
シタレハ歸ルト申居候由何分太印ノ所ニ開合申度奉存候扱又陽貴山方
紙面之一事可笑事ニ御坐候アレハ彌之事ニ御坐候哉誰か聞へ候事ニ御坐
候哉俗説ニ當月中旬方 御兩殿様御任官之御祝初ると申事此間内度々承
リ申候是等も實事ニ御坐候哉御聞合之上爲御聞奉頼候扱此間陸目ナド朝
迄詰候事ハ丹波殿之内森下ト云人へ桐間之内人瀬之類ノ人醉狂人神山ト
カ云奴不時ニ切り掛ケ夫方森下追付終ニ神山ヲ縛シ丹波殿へ引連レ参リ
候よし

御兩殿、容堂
豐範

シマツ、野中
太内、森權次
林勇、眞邊榮三郎

右之事ト申事ニ御坐候扱一昨日休日ニ候處大監ハ日々朝五ツ時方出勤
ニ御座候シマツ、森林此ノ三人之出勤ト云事ニ御坐候眞榮之出勤之事誰

も不見もしや又引ハ致し間敷哉林勇トカ云人ノ由之是モ只ノ好人物欲ト
も相察申候先右御報迄申上度如此御坐候頓首

二月一日

依 太 郎

入 道 様

御老公、容堂
明日を御寄合ニ付もしや呼出される事欲ト存居申候去年呼出され候節
病氣ニ不_レ出_レ之_レ處 御老公御入_レ之_レ筈御止リニ相成申候此度も何分 老
公ノ御入_レヲ待御節々呼出される事欲ト存居申候 (上田開馬藏文書)

○慶應元年二月三日 (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

此_レ前、瑞山ノ
獄前ノ會所即
チ吟味場
△、吉田元吉
暗殺一件
シム、山本喜
三之進

又鬱々敷天氣御座候處先以御揃御勇健奉賀候然ハ昨日ハ此前へ御出張ノ
旨如何様御長談嘸々御勞ト奉存候御持疾サシテ御倍ニモ相成不申哉扱詰
之筋ハイカ、候哉兼テ御見込之通ニ御座候哉必盟之_レ御在京中△等欲
ト相察申候乍御面倒御應接之旨承_レ度奉存候今日シム出張ニテ未曾有_レ

森山、獄ノ略
佐喜馬一件
海部、槍垣清
治部、淺野家
國老弘尾弘人

高屋友右衛門
子ブ_レリ、方言
居睡_レリ、大目付
五良、後藤長
輔、後伯鶴象次
卿、川原塚
茂太郎、土居彌
之助

王子、獄醫

長談終ニ入_レニ相成候様御座候是亦イカナル筋欲_レハ必森山金ノ_レ欲亦
△モ出候哉ト存候入_レニ相成候事故此ノ應接ハ未相分申間敷哉是モ海部
ノ并へ入候哉又大宰ニ候哉此_レイカ、ト氣遣申候海部ノ并ナレバト祈_レ
ニ御坐候扱藝州之弟左馬之介ト云人弘人殿へ養子ニ來_レリ先日欲千石加増
之上御奉行職トナ_レリシト承_レリ候實ニ御坐候哉扱又_レ高友ノ_レ大_レ○ニ相成
候由是又實ニ御坐候哉扱又五良ハ不相替出勤致シ居候哉此好ハ此頃之
論ハヨキト先日卿戊之書ニ有_レ之候イカナル論ニテ候哉扱又土弥モ又出候
由實ニ御坐候哉右之廉々夫々承_レリ度奉存候扱私事も先以同様ニ罷在申候昨
日ハ庄村良安トカ云老醫來_レリ亦今日ハ坂本有慶來_レリ申候孰も見立同様同
論ニ元ト疝ガ自然衰弱疲勞ノ_レ故ニ此ノ疑_レリハ中々急ニハ解ケン一躰
衰弱ノ_レ故ニ疑_レリヲ解ク而已ヲセラレン第一腹力ヲ輔_レヒ自然ト解ク_レニ
セ子ハイカント申事ニ御坐候王子モ日々來_レリ申候南木丸難有奉存候日々
ヤリ申候王子昨日來_レリ痛ミハイカ、ト云先ッ同前ト申候處夫レハガテン

ガ、イカヌアノ散藥ヲ吞タレハ痛ハナヲル譯ナリ明日ハ子リ藥ヲ持參シテ
手ヅカラ上ケフト云テ歸リ今日ハ定テ持參ト存シ居候處今日參リ取一度
見テ置テ上ケフト存シ今日ハ止タト申候今日有慶ニ右ノ散藥ヲ見セ候處
散藥故何ヤラ分ラント申事ニ候右手ヅカラ吞スニハ引ケ申候可笑ヤ々々
々

西門、門谷貫

一明後日ハ西門モ出勤廻リニテ御坐候處又五日六日ト八日九日ト十一日

ト十三日迄トハ御法事トカ申事ニ御坐候先ハ右迄頓首百拜

三日之夜

眞足、河野萬壽彌

御藏本ノ百人一首一夕話眞足ガ何卒拜見仕度ニ付御相談致し吳候様被
相頼申候間何卒御明キニ相成居候ハ、拜借奉願候尤辨當之時ニ二三卷
ツ、御こし奉願候

大依 太郎

取山入道様

尊下

(上田開馬藏文書)

○慶應元年二月八日カ (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

今日ハ快晴仕候先以御勇健可被成御渡奉賀候御持疾ハいか、御座候哉承
リ度候扱昨日被呼出別紙之通ニ御座候兼る去年來頻リニ急キ參リ居候
事故今度出タルバ何ゾ確證ヲ以直ニ下へ落シ拷問ト存シ居候處案外之事
ニ御座候いか様此度ハジコト詰メ上ケそふ勢ニ見へ申候今日も
が參リ出ル出来ルヤ否ヲ問ニ參リ申候然ニ昨日出候事マダ些無理よて
ありしと見へ昨夜惡寒之氣味ニる少々熱出今日も手足ガズイ、仕候故
先今日之處ハ斷リ申候明日頃ハ又心地次第ニ出ル積リニ御座候今日
こそ是非私が出ねば浪穂か又ハ眞足か誰ソ出ルニ存シ居候處思の外早く
引ケ八ツ半仕舞申候一向がてん不參事ニ御座候
扱盟論ハ實ニ六ヶ敷勿論朋黨ナドも存シ懸ケも無キ事ニる心中ニハ暗キ
所とナク候へども事跡彼是事之跡ヲ以論申候處ニるも千万辨シ難キ所ニ

シコ、徐々ニノ方言

浪穂、島村衛吉、眞足、河野萬壽彌

正路、小畑孫三郎、書付、前書ヲ云、元敬、大石彌太郎

河野萬壽彌、目付ハ升ニテ

御坐候兼、申上候通りニ、此正路ノ書付之所ニ、角ニ不行届位之處ハ云ハねハ、事足り申間敷ト存居申候元敬ナドノ論ヲも急々承リ度奉存候トヲ、ノ論ナレハ論シヨク候へとも下上ヘ對シテ論シ候事ニ、君臣ノ間ニテハ誠ニ辨シ難キものに御坐候疾ト御考慮奉願候
一〇ノ模様且、正路ヘノ返書且又元敬ノ論右急々御廻シ被遣度奉願候別紙眞足ノ應接書キ私ノガ共且又正路美稻ノ書キ付懸御目申候右迄早々頓首

八日認

入道様

依太郎

(上田開馬藏文書)

出府、出庭

○慶應元年二月上旬 (山本喜三之進ヨリ島村壽之助ヘ)
御壯勇奉賀候亦々今日も御苦勞被成候趣僕も久振之出府嬉しくモアリ懼依しくモアリ譬へて申さバ初戀ヲスル心持ニ、御坐候

要事左之通

入道、島村壽之助、不正ノ金云々ハ、武政佐喜馬一件ヲ云フカ

一京師ニ於て入道ニ出合不正ノ金ニアラザル云云之咄シハ何處デシタゾト問ベシ
僕ノ答。問ハテ、所ハイハズ

參著ノ當時

一三條小橋ノ邊ニテ出合乍途中咄しせしなりト言
大兄ニ問フ事アラバ三川屋ノ邊トデモ少シ詞ヲ違ヘテ言ガよし
右之事風ト案し出し候ゆヘ申上置候若又御別慮等御坐候ハ、出刻迄之内可被仰聞様奉存候事

入道様

櫻邊
(上田開馬藏文書)

○慶應元年二月上旬 (瑞山ヨリ島村壽太郎外一人ヘ)

武市瑞山關係文書第二

國老五藤内藏之介

内藏之介殿別ゝ懇ニ初度々呼ニ來リ夜分ニども參リ至る心易終ニ居間ニ、
ゝ烟草どものみ種々出し合せ之咄致し候事有之候

覺馬、横山覺

此之節或時何欲之咄方覺馬今日御免ニ相成タト内藏介殿咄候ニ付夫ハ宜
しうござりましよふいつかも天討誅カヲ加ヘテハイカンナト、云風説ヲ聞タ
様ニ覺エますと云し事あり

是ハ其前ニ其様ナ風説ヲ聞タアアリ素リ眞トハ不思只聞ながし居ゑり
處テ内藏介殿方覺馬御免ト咄し有之しよりふと聞ておる風説之咄ヲシ
タリ

三條様、三條實美

一三條様へ出討幕云々存シ懸ケナシ其余段々高貴之御方様へ心易參殿い
ゑし候へとも討幕等の事ハ人々聞タモナシ

右公卿方ニ不限其余諸藩人々も討幕之事ハ眞ニ不聞

四月、文久三年四月

依太ハ四月ノ初ニ歸リタリ其時分迄ハ攘夷之期限モ立諸藩へ布告ニも
成ておし事ニ不討幕ナトハ眞實論ハナカリシなり

右之ニケ條ヲ以罪ヲ受テ眞ニ〳〵存シ掛ケナシ
初之内藏介之事ヲ或ハ老公へ云々ナド、云可笑可憎内藏介殿ハ御奉行ナ
レ共依太も又御留守居ニ素リ表立て云イ出タト申譯ニ不ナシ只ノ出し
合せ咄ナリ右故内藏介殿方モ色々の咄ヲ聞ておるなり
役外之出し合せ咄ニ取ニ足ぬ事ニ

町人〇、眞邊榮三郎カ

然ニ此事先の頃町人〇カ詰ニ内藏介殿へ云々之事有之候趣ト云て詰タリ
又此間小〇ハ御隠居様へ云云トいふ一向やちがゐい

御隠居様、容

小〇云風説トハ云へ容易ナラヌ事ニ必シカト譯カアルロヲナト、云タリ
答譯ナシ一体其時分ハ無根の流言タラケニテ種々ノアアリタリ依テ右之

小〇、小目付
タラケ、方言
バカリノ意

事も例之無根ト思ヒ聞キ流しゑり素リ風説之事ニ不誰ニ聞タト云事ナシ
右之通内藏介殿方云々と咄有しハ風説ノアアリ別ニ子細ナシ内藏介
殿へ御尋被成度左スレハ巨細相分リ可申ト答ヘタリ
一右は御急キ御坐候ニ付差出申候

出、獄庭ニ出
カシム、森四郎
新太、山本喜
三之進
吉吾、下番新
丁ノ吉吾

今日ハエンユも出頗ル長し未咄ヲ得不聞
シムモ出タリ随分長し
新太モ出タリ随分長し
右之應接書差出申度候間明朝吉吾へ御願にゐわざ、御越可被下候

依太

太郎様
竹意様

今朝之御紙面夫、慥ニ受取申候

○慶應元年二月十日 (瑞山ヨリ獄外同志へ)
其後ハ御物遠奉存候先以稍暖和相成候處各様御揃御壯剛可被成御渡奉賀
候然モ野生先日中少々風邪ニ罷在候處又々センキ氣引起シ少々相煩居申
候尤近頃センハ持疾之様ニ相成居候事ニ付全クさしたる事ハ無御座候間

入道、島村壽
之助
横目

徒目付川崎省
三郎ノ大學ノ
句ヲ引テ河野
萬壽彌ヲ鞠セ
五シコト第一卷
エタリ

○、目付
△、吉田元吉
暗殺一件
△、井上佐一
即殺一件
口、獄吏濱田
良作
囚、未放

御安神可被下候然ニ此間一日ヲシテ吟味ニ出應接之略ハ入道迄差出候
事御見合も被下候事ト奉存候其翌日カ、今日ハ出入調哉否ト毎日々々
尋子參リ申候然ニ右病氣故無據得出不申只々當惑極居候事ニ御座候扱盟
論も勿論天地ニ不耻事ヲ御座候へとも至善ニ止ル云々等ノ論ニ相成候
ゑ其六ヶ敷◎ニハ漢學者ノ能辯有之言葉之上ニゑ余程辨シ難キ事ニ
御坐候素リ朋黨ノ事ハイカニ見付ルト云テ口上ニテハ詰メラレテモ眞ニ
朋黨ニテ無キトニテ證據モ有之事ニ付骨カ折レテモ受ケハ不仕候へトモ
不義ノ人ト同盟シテ居候不明ノ所ノ御不行届ハ負ネバ事不足様ニ相考申
候是等ハ殊ニ數人へ關係之事ニ付又御論も御座候哉急々爲御聞被下度候
將又◎ノ議論ハ△△ノ所何處迄モ糺問ヲ遂グルノ議ニテタトヘ確證ハナ
クトモ何事ニテモ一ト事恐レ入ラシ夫ヨリ付ケ込ミ拷問ノ勢ニ御座候哉
又ハ確證ナキト故ニ不審ノ廉ノ辨解一ト渡リ出來候ハ、盟等之事ヲ以罪
ヲ付ケ蓋ヲ取ルノ論ニゑも御座候哉右◎ノ議ノ主意口囚邊へ極密御尋合

ノ上急々爲御聞被下度奉頼候先右之段御頼申度如此御座候頓首百拜

二月十日

(武市家文書)

叔父様、島村壽之助

○慶應元年二月十日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎)

一昨夜之貴書儘ニ相達致拜見候先以御揃御壯健可被成御渡奉賀候いゝ様叔父様御持疾御惱之由嘸々御難儀被成候事ト奉存候勿論御持疾之事早々御全快之御事ト奉存候随分々々御保養專一之御事奉存候私事風邪之處ハ快候處又々持病之セン引起一昨夜ハ乍憚下リ致し其上腹痛少々いゝし昨晚方今日迄下りも止り居候處又々先刻方二度下リ申候勿論是亦持疾之事ニ付決してさしたる事ハ無御座候間御安慮奉願候然ニ右病氣ニ付吟味ニ得出不申實ニ日々今日迄出入調哉否トカ毎日々々參リ申候此間内ハ外人ノ吟味サツハリ無御座私ノ出ルコト否ヲ尋子出ルコトガ出来ント云ト窄番ナド直ニ歸リ申候何分私ノ吟味ヲ詰夫方外々ニ及フ勢ニ先ツ外ヲ吟

ハ、横目

◎、目付

□、濱田眞作
元敬、大石彌太郎、
三郎、小畑孫

味スルハ無益巨魁サヘ事ツミ候ヘハ外ハ子細ナキトノ見付ノ様ニ被察候尤其筈之事ニ候◎ノ主意ナントモ推察出来不申此ノ因組ニ亦も皆々の推察ハ◎ノ奸政ハ緩ンダト云フ見付ニ候又浪穂ト私トハ全クユルムト云譯ハ有ルマイト見付違ヒ申候何卒急々□囟ノ邊ニ候◎ノ論御サクリ爲御聞被下度奉願候且又元敬ノ論等廻リ候ハ、御越シ被遣度將又此間之正路之論も諸君之考ヘ爲御聞奉願候私も最早コラヘ兼候ニ付明日迄又々ヲシテ出候ト存シ居申候先右迄得御意度如此御座候頓首々々百拜

二月十日

依 太郎

入 道 様

太 郎 様

以前寫シ差出候朋黨論御坐候ハ、一寸借用仕度候

返ス々々も厚御養生被成候様奉存候珍話

老公ノ御屋敷へ綱市御カ、へ貳人扶持ト云又弘岡村之浪人笹村喜馬太

武市瑞山關係文書第二

五十五

ト云男時勢ニ移ラン云々御褒文候^{ホウ}御銀拜領ノ由又御屋敷御造營諸方
良材御仕成之由右之廉々實事之様ニ承リ申候噫呼大息之極

○別封宜御頼申候

(上田開馬藏文書)

○慶應元年二月中旬カ (瑞山ヨリ獄外同志)

(前後ニ省文アルベシ)

且又元敬の不明論も參り居候得は爲御見奉願候

(田岡正枝文書)

元敬、大石彌
太郎

○慶應元年二月十二日 (瑞山ヨリ島村壽太郎)

中須吉藏ノ細書ヲ得○ノ大意ハ分リシナリ如何ニモ其ノ通りナリ然ニ右
文中ニ大概六七月迄ニ叩^{クキ}キ上ルノ勢ニ見ユルト有リ此ノ事更ニ合點ユカ
ズ六七月ト云期限ハ何ヲ以見通シノ一哉甚不審ナリモシヤ間違ニテ十六
七日カ或ハ廿六七日歟ノ事ニテハ有ル間敷哉此頃右書面ノ通りニテ野生

○下番吉藏
目付

ヲ一人見付ケ日々促ニ來リ其余ハ勿論誰モ不出殊ニ平人ノ盜等ノ吟味サ
ヘ止リ居ルト見ヘ此間中一人モ不出此等ノ一ヲ以考ヘ見レハ先ツ外ノ一
ハ何モ方寄セテ置キ野生ヲ初此ノ獄組ノ方ヲ付ケル譯ニテ野生ノ言ツミ
次第御作配有ル事ノ様ニ被察申候

右ノ筋承リ度奉存候且又野生今日頃ノ申解キヲ不當ト云ニ決シ候哉此ノ
上ハ七兒ノ虚言ヲ證トシテオニデモスル一歟又ハ今ノ所ノ云イ出口ヲ以
所置スル一歟野生不明不行届ノ一ハ至シ方ナク誤リ入ルノ居ルナリ將又
外ノ正路ナド罪ナケレハ此上イカハスルゾ何卒委シク承リ度候間急々中
須氏へ御尋子合御報奉待候頓首

二月十二日ノ夜

大建依太郎

鳥山太郎様

鳥山様

大建

急用事

(上田開馬藏文書)

七兒、岡田以
藏、拷問ノ拷
ノ略

○慶應元年二月十三日カ (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)

此間ハ御遠々敷御揃御勇健可被成御渡奉賀候扱ハ御持疾ハいゝ御坐候哉ト日々存候事ニ御坐候私事次第ニ快方ニ相成大ニ安心仕候右ニ付昨日カ出今日も出申候則別紙之通ニ御坐候最早詰ノ節ハ大概相濟候様ニ相考申候此ノ上いゝ相成候事哉ト苦心極居申候何卒昨今ノ私申出之筋◎ノ聞キ込且又此ノ上之所置振之處大急ニ因之處御聞合セサセ之程偏ニ奉願候何分ニも此間ノ因ノ聞キ書ニ六七月迄ニ云——の見通シトハ決シテ不被思誠ニ不日御作配の有りそふな勢ニ御坐候返ヌ々々も急々爲御聞奉願候

何も格別之儀無御坐此頃御安否且又右之筋御頼旁如此御座候頓首々々

十三日

依 太 郎

入 道 様

太 郎 様

◎目付

此ノ囚組ノ所置計リニ◎取リ掛リ居候様儘ニ相見へ申候子細ハ外之平人々之罪人さへ此間内壹人も不出又私之病氣ヲ誠ニ日々促シ參リ快氣スルト直ニ被呼出今日も早くよひ出され申候ぜんたの處を以見るに何分急ニ御作配之事ト此ノ囚組孰も同意ニ御坐候 (上田開馬藏文書)

○慶應元年二月十五日 (瑞山ヨリ島村壽太郎へ)

一昨夜之貴書儘ニ相達致拜讀候先以被成御揃御勇健之旨奉賀候いゝ様御叔父様まゝゝゝ不被成旨いゝ計御難儀ト奉存候今日頃いゝと奉存候扱盟論元敬之書披見愚存ト大ニ違候不行届之段後悔スルコトハ論ノナキ事歟存候則別紙らゝ相認候間御覽可被下候又元敬邊へも御廻し奉頼候扱直々因之事御聞合之御手首尾被下候由もそや大様相分り候哉分り次第貞吾へ誰ぞ参りてござゝ御頼被下度奉願候扱シマテヨフの森山之事急ニ御世話之程奉頼候扱昨日ハ誰カよひ出される歟ト存候處誰も不出

叔父様、島村壽之助、元敬、大石彌太郎

森山之事、武政佐喜馬一件

本精、本間精
一耶一件

五十邊、五十
嵐文吉

野生色々相考候處先ツ自分之罪ハ本精ノ一聞なる心得違ヲ以申出さつ
たと申事よりりと相考申候頭取ナト云へド是は決して受ケル事なし尙以
五十邊之論大様推察之處も爲御聞被下度候取急右迄如此御坐候頓首
十五日

太郎様

(上田開馬藏文書)

おちさぬへよろしく奉願候

前文ニ所謂別紙カ

○慶應元年正月十五日カ (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

元敬、大石彌
太郎

元敬先生ノ細書拜見セリ其内盟ノ弊サへ不行届後悔ト云ノ譯ナキトノ御
論愚慮違候ニ付左ニ記ス
一朋友相互ニ忠義ヲ磨勵セン爲ニ神ニ誓其誠ヲ表センコトニ於テ露アシキ
一ナク天地ニ不耻ハ今更云迄モナシ然ニ脇ヨリ皮膚ヲ見テ異説スル弊ア

公、容堂

◎、目付即チ
監察吏

乾、乾退助後
伯爵板垣退助
頑生、瑞山自
チイフ

レハコン漏泄を慎リナリ然處次キレニ廣クナリ自然漏ルコト故ニ先ンシ
テ其ノ誠ヲ公ニ入御覽御意ヲ畏テ燒キ捨タリ是眞實ナリ右ニ付盟ヲ以朋
黨云々ナト今日誣言セシハ可笑ニテ屈不屈ノ論ナシ是亦云迄モナキコ
レ只後悔ト云ハ弊アル所迄不行届而已ノ事ニテ節義ニ關係セヌト思
フ今◎ニ向ヒ云ニ我々盟ノ一ハ忠誠一片ヨリ生シ後日皮膚ヲ以非難ヲ受
ル迄ハ不行届後悔ト不云テハ不宜ト思フ子細ハ往日入御覽シ節ノ御意ノ
御深意ヲ不知只命ノ重キ而已ヲ以燒キシ様ニ聞ユルナリ既ニ吾輩初テ盟
ノ一ヲ詰セラレシ時ハ赤心ノ趣意ヲ述タリ其後乾カ詰ノ時不審ノ廉々夫
レノ弁解セシ處乾語ナクナリ御益ヲ取ル期ナキヨリ盟ノ一ヲ出シ黨ナ
ド、云イ争論囂シクセシナリ終ニ頑生ヨリ然ハ定テ御公論デコソ有ロウ
私ニ於テ左様不思ニ付尙思慮可仕ト云テ御益ヲ取テモライタリ其後出シ
時種々詰問中ニ盟ノ小口ヲ云イシニ付盟老公へ入御覽シ時御意ニ是人
ガ見テハ不宜ニ付燒キ捨ヨト仰セラレシナリ其節顯ニ不被仰候へトモ追

武市瑞山關係文書第二

六十一

々脇ヨリ人ノ見シ時ハ此ノ至誠至忠ノ心ハ見ズシテ只其皮膚形ヲ見非難
 ヲ受ルコトニナリ折角ノ忠情却テ無ニナルコトモ哉トノ御深意ニテ誠ニ我々
 不肖ノ者御保育御憐恤ノ御意ト恐縮仕リ實ニ難有奉感服早速御意ノ儘焼
 キ捨夫ヨリサツハリセヌ昔トナリシナリ噫呼今日果シテ御先見的中誠ニ
 御高明彌ヨ難有落涙仕ルナリト此様ニ述ヘタリ◎聞キ入りテ其後ハ一ト
 口モ盟ノコトヲ不云ナリ

但ケ様ニ云シ意ハ盟ノコト誠ニ朋黨ナレハ何ソ御留守居ナドノ重役ニヲ
 カンヤ只此ノ弊ヲ御深慮アリシコト明ナリ然ラハ今盟ヲ以黨トセハ黨人
 ヲ知テ重役ニヲキシ君上ノ不智不正又疾ク燒キ捨テ今ハナキコトニテ云
 ハ、既往ノ不行届ト云モノナリ
 イツレ脇ヨリ見レハ誰ガ主誰ガ何ト種々評セラル、弊ノ有コトニテ此ノ弊
 ヲ詰メラレシニ至リ夫レヲ後悔ト云ハヌハ所謂ヤセカマント云者ニテ正
 義トハ云ハレサルコト思フ

五右衛門、馬
未改

△、吉田元吉
暗殺一件
元治元年六月
十三日大石彌
太郎等二十九
人南會所ニ詣
リ上書セシコ
トヲ云フ

一◎ニ向ヒ我徒聖人地ヲ去ル遠キ云々五右衛門デモ馬デモ云々ノコトハ敵
 國ニ囚レシコトナレハ自然ケ様ノ言ニ出ヅレドモ今日官ニ向ヒ言フヘキ詞
 ニアラズト思フナリ◎ヨリイカニ不當ノ言ヲ云イシトテ我ハ益ス君臣ノカ
 禮ヲ盡シ一點不敬不遜ケ間敷コトハ不云ノ居リニテ候
 一吾輩衰弱ノ勢大ニ御配慮難有候實ニ平生ノ軟弱者此頃ニ至リ彌弱リ申
 候此ノ御書面大ニ補藥ニ相成申候扱去年△ノ詰初リシ節愚慮申述候コト先
 日乾ト屏風ガゴイノ時色々ト◎ノ勢ヲ探リ候處大ニアヤマリト思フナリ
 其節兄ナト數人上書ノ筋モ御同意ニ候處乾ヲサグリテ見レバアノ上書モ
 大ニ失策ト思フ之實ニ我不知短才ヲ耻入ルナリあら、おもひの儘申上
 候よろし御とりすて奉願候

依 太郎拜

○慶應元年二月中旬カ (瑞山ヨリ獄外同志へ)

我ニ不明ノ責ハアルマシクトノ御論ハ愚慮トハ大ニ相違セリ子細ハ根元
 盟ニ負ク不義ノ人ト初ニ見タレバ同盟ハセス道理ナリ正義ニテ盟ニ負ク
 様ナ人ニテハ無キト見シ故ニ同盟セシ者ナリ依^{テカ}正義ト見シ人カ反テ不
 義ニテ有リシハ我不明ナリ素リ我心中ニヲイテ正清ナルコトハ不及申不義
 ノ人ヲ正ト見違ヘ居シテ故ニ不明ノ責ハ免カレズ此處尙ヨク御考慮
 奉願候
 勿論人ヲ見ルノ難キハ古人モヤミ^{シカ}レテ此等ノ所ハ◎ノ議ニアルコトナ
 リ

(上田開馬藏文書)

傳、曾和傳左
 衛門、中須賀
 中須賀、中須賀
 出ツル下番吉
 藏

○慶應元年二月廿日 (瑞山ヨリ島村壽太郎へ)
 被成御揃御勇健奉賀候此間ハ傳之書且中須之書共御越し被下儘ニ拜見仕
 候扱其後昨日今日則別紙之通ニ候實ニ今ガ秋ニテ候御察し々々尙◎之模
 様聞へ候ハ、爲御聞奉頼候

シム、山本喜
 三之進

一別紙シムガ参り候間御廻申候
 今夜ハシムへも返事得不仕御序も御坐候ハ、よろしく
 一別紙よろしく御頼申候先取急右迄可得御意如此御坐候頓首

廿日

今日ハ浪穂も呼ニきておりやまり申候明日頃ハ出るろふ

浪穂、島村衛
 吉
 叔父様、島村
 壽之助

叔父様次第ニ御快氣ト奉存候よろしく

依 太郎

太郎 様

廿日認

(上田開馬藏文書)

○慶應元年二月二十五日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)

昨日之尊書儘ニ相達難有奉存候先以皆様御勇健之旨奉賀候いろ様未御全
 快ニ不相成旨嘸や御難儀被成候御事ト奉存候私儀も大分快候處未セン之

武市瑞山關係文書第二

六十五

平、平善之
丞、小南五郎
右衛門、山本喜
三、進、森助太
森助、堀内賢
堀賢、堀内賢
之進、小笠原
鏡川、小笠原
保馬、檜垣清
海部、井上佐一
治、暗殺一件一
郎、目明文
文、目付略
吉、目付略
幸、目付略

痛不快時取りて起り當惑仕候扱萬々一ハト存居候處終ニ瓦解ノ形勿論令
更之事ニ有て無候へとも 公子太夫平小其余同志數輩ニ及候事大息之極
ニ御坐候昨日ハ山喜も入獄ニ相成別之通ニ御坐候必森助堀賢鏡川なども
不遠入獄ニ相成可申其内小橋清太郎之事ハ先日海部之狀ニ問ヒ落サレ虚
言シタと申事有之候是ニ金之遊兵之事欲ト存申候森助ハ文吉之事欲ト存
申候右之内外ハ先ッ氣遣ナキ人ナレド小橋ハ御存シ之通り之人物故何角
問ヒ落サレ可申候依る小橋出府ニ相成候ハ、誰カ一寸出會○ヨリ誰々ガ
白狀ニ有明白云々ナド問ヒ落スヲヨクノ申含メヲキ度事ニ有候
一私事最早才之手順ニ相成候由左も有ルヘキ事ト存申候イカニ相考候も
も獄卒ニ頭へ手ヲ掛ケラレ候も實々難堪又いゝに壹人忍ヒテ才ニ死
候も外々段々乱來候事故何之センモなき事扱又天下之形勢迎も當時
先ッ恢復之期モ見ヘズ時宜之決心御坐候間左様御開置被遣度候噫呼追
々叔父様ニも及ヒ可申是ハ致し方もなき事ニ候何卒太郎殿ニと及ハぬ

叔父様、島村
齋之助、島村
齋太郎殿、島村

様ニくれノ祈事ニ御坐候
兼而御頼申置候私病死仕候ハ、留守之所くれノ宜奉頼候格別之事ハ
無御座只々家内之者とも不義みれんえなき様よくノ御申聞是のミ之
事ニ御坐候

七兒、岡田以

一京ニテ七兒ノ折レシ肥前ノ刀朝尊ニ焼キ直サセ長キ脇指ニコシラヘ置
候來吉歸リ之時取り歸リ有之候ハ、御預ケ申候私留守ヘ置クトよろし
るらば候

和田ノミサキ本間ノ

一石部三崎ナド烈シク詰スルハ矢張り△ノヲニテ件ノ非□ノヲニテ御
坐候

扱御咄ハ如山候へとも先々此之世之御暇乞仕候其内○之事聞候ハ、爲
御聞奉願候私之決心之事ハ時宜ニ隨ヒ申事ニ御坐候間時宜ニより又々
可申上候頓首百拜

武市瑞山關係文書第二

廿五日

依 太郎

入 道 様

太 郎 様

一別封よろしく奉頼上候

(上田開馬藏文書)

本書缺ク

公文藤藏

○慶應元年二月下旬カ (今橋權助?)ヨリ瑞山へ)
 別啓盟書杯致シテ居ルロヲと被尋ニ付私儀も去春正月吉村扁太郎と示談
 仕名前ヲ加へ申候と答へ候處城府東西ニ夥敷人數之趣定テ委細知テ居る
 ロヲト申ニ付キ總テ余人之事ハ存不申自分之名前ハ相加へ申候と答置御
 坐候間藤藏へ此段御通達被仰付度私の答ニテワ須崎邊ノ人ノ事ハ總テ
 らぬへしと答置御坐候間若跡々須崎組ノ名前ヲ申出ル事ニ相成候也私
 の名前ハ引除き候様御申聞被仰付度候間違候も大事ニ御坐候能々相
 心得候様御申遣可被仰付候
 (上田開馬藏文書)

山本喜三之進

○慶應元年二月廿五日カ (瑞山ヨリ姉奈美子へ)
 みあゝさぬ御きたんよくめて度そんしり私事大分こゝろよく候ま
 少も御氣遣被遣ましくくれ存り扱きのふハ山本喜三進も
 獄ニ入り申候これも以藏のなより言た事のよし誠よくこの上たれが入
 るやらしを不申私事もそや拷問ニなる事もあらを候誠まいるに御
 上ミの御いふととも牢番ニあたまへ手をあけらせたくあれておもそや
 それまでの事と存候士と義りと恥との事よて候もそやこの世あいや
 ニなり私もまぶニ少しいたみ御坐候ゆへなをり次第よ出るつもり
 よて御坐候もふ此の上ハ義理ヲふみて死ぬるガ一番よき事と存り私
 事ハ不義な事ゆえなく候ま少も御氣遣被遣ましく又私事ど
 ふなるふが少も御みれんな事のなきよふくれいのりこれ
 まてなんべんも申上候事なれど色々氣づり候ま申上り又
 近くの内下番さし出しりあらめて度

廿五日

姉上まぬ

七十
よ
り
太

○慶應元年二月廿五日 (島村衛吉ヨリ島村壽之助へ)

一筆啓上仕候春暖ニ御座候處先以被遊御揃益御機嫌宜敷被遊御座目出度御儀奉存候隨私儀無事罷在候間乍憚左様御休意被仰付度奉存候然昨昨日山喜入獄仕候昨日御入御座候山喜之話至る長ク御座候石部宿一件之由何分七兒が虚言歟と推察仕候又小橋清太郎も御呼立て相成居申候趣萬一反正も可仕哉と存居申候處此節之模様承り候中々反正杯と思も不寄事實ニ大息之至ニ御座候又石部宿之事も夫々各別相分居候由ニ付追々其人々へも及可申又々揚屋大ニ盛ニ相成可申誠ニ絶言語歎息之至ニ御坐候又薩州も内亂之風説頻ニ御座候由どふそ〜實なれ此上も無事ニ御座候又長州も正邪之合戦御座候正之方勝利有之候趣實ニ可賀事ニ

山喜、山本喜
三之進
御入、容堂ノ
南會所へ臨ム
石部宿一件ハ
幕吏大河原重
藏等暗殺一件
七兒、岡田以

本家兄様、島
村外内真潮

御座候右合戦ニ付五卿方も筑前之方へ御立退ニ相成候由左候時筑前正義歟と奉存候○本家兄様此節如何ニ候哉取早御出足も御調ニ相成候哉承度奉存候然右長州戦争ニ付五卿方筑前へ御立退ニ相成居事なれ此邊も余程騒敷事と奉存候申上迄も無御座候得共尙模様御聞合之上御出足被遊候様奉祈候先右計如此御座候恐惶謹言

二月廿五日

三郎二郎男

渡 様

尊下

二白今日本家へ御無沙汰仕候間御序之節宜奉願候
一過日と其人数人即刻立ニる中路通り出立候趣定る亡命人捕歟と奉存候嗚呼歎息之極ナリ

○慶應元年二月廿六日 (山本喜三之進ヨリ島村壽之助へ)

武市瑞山關係文書第二

七十一

第一卷七二四
頁三三二四
ナ小畑孫二耶
同孫三郎トセ
ルハ島村衛吉
ノ誤

一、横目

入道様

極内々

増、河野萬壽
彌、小畑孫三
孫、島村衛吉
衛、吉田元
罰、吉田元
罰、吉田元

三子、那須信
吾、安岡嘉助、
大石團藏

新吾、山本喜
三之進、
卯月、四月八
日、コトナ指

昨日之使未不返故ニ御返簡未拜見ニ不及不相更御勇論ト奉存候
扱此御祭式ヲ相仕舞候時ハ増孫衛等定る柄ノ字ニ相成可申候續る勢ニ
寄リ御互^{持カ}、同斷之事ト奉存候勿論共ニ死ル^{持カ}と覺悟之^{持カ}處へかれハ論ナシ
然ニ少ニ^{持カ}も被^{持カ}逼候カマチ^{持カ}除候事大事之義ト奉存候附^{持カ}るハかの罰
札之事勢ニ寄リ一番ニ不審ニナルベシ僕何處マデモ不言若又責マケラ
レ吾身壹人三子ト手ヲ組居候ト言トモ決し^{持カ}る人ノ事ハ不言依^{持カ}るト申迄
モ無之候へ共上才組ノ諸賢事ニ偏^{持カ}マリあり候とも決^{持カ}る不可言若此事
ニせまり候時ハ新吾作り認候ト答へ吳る^{持カ}を^{持カ}し僕卯月以前^{持カ}の同志ト言
事ハ政府も合点ノ上なれハ死ハ論^{持カ}をし唯ハサミを^{持カ}除事手段^{持カ}のニ此事尙

ス即チ吉田元
吉晴殺ノ時

天祥樂、毒藥
ノコト
長達、醫田口
文良、莊村文
達、曾和傳左
衛門

覺悟ニ入る事故上ノ才組にも一應明後位迄ニ能キ便御坐候ハ、御沙汰
奉希候

一僕御存之通之卑薄者若事ニ臨み醜態ナド露スニ至候^{持カ}ハ諸君へ面目次
第も無之事ニ付勢ニ寄リ天祥樂ト相居申候何卒良達邊へ^{持カ}度ンマク參
る能キ品御註文明夕迄ニ^{持カ}あふ^{持カ}せ^{持カ}御越し奉希候たとへ御論有之候
とも先此事ハ愚意ニ御任せ置奉願候此間傳^{持カ}にも註文致し候へともま^{持カ}ぶ
お^{持カ}し不吳最中^{持カ}う^{持カ}候へ中ト見へ^{持カ}り
先ハ急用迄草々如此御坐候

廿六日

田開馬藏文書

○慶應元年三月下旬 (山本喜三之進ヨリ島村壽之助へ)

其後は御摸様拜承不仕不相變御勇剛ニ御入可被成ト奉^{持カ}躍^{持カ}雀候扱ハ過日願
上候天祥散之義任尊^{持カ}喻傳へ聞に遣候處別紙之通申越し叱々々小兒輩僕が

橋キ、依岡權
吉後珍慶

心中を不知者へ再ヒ不申遣候間御難澀千萬下は奉存候へ共何卒とふぞし
て御工面成置被遣間敷哉伏而内願申上候勿論尊諭の如く□ハ不學心得
ニ御座候へ共マサカ違へハ是ト申頼之積リ仕度奉存候間何卒々々宜様奉
候先は右之内密申上度草々如此御座候頓首萬拜
尚々明後日くらゐ迄に四郎馬袂權キ袂へ御之まゝ御託し可被遣候哉
(田岡正枝文書)

ノ略、拷問ノ拷
吉、濱穂、島村衛

○慶應元年二月廿七日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)
被成御揃御勇健奉賀候然と御持疾未御全快ニ相成不申候旨嘸や々々御難
儀いか計と奉存候私事も未快氣不仕候故得出不申候空敷暮居申候實とヲ
シテ出候ハ、今日頃隨分相調候へともち之事發言せられし時又々病氣と
申るも千万心地あしく候故先全快之上ニ希出だしたれば死ぬる迄引籠ら
ざる心得ニ御座候(山喜ノ)新も昨日又呼出され則浪穂之狀ニ包ミ有之候石部之事

衛門、曾和傳左
口、濱田良作

ニ希御座候此間ハ傳カ□ニ相尋書キ入其儘御越し被遣其節も御病氣之御
中御懇書被遣且御示教之筋難有奉存候依而先チ之辱ヲ忍ビ骨を折之心得
ニ御座候實と此頃身體衰弱を極手足ナド自分ニ見てあきれる位ニ付強ク
チニ相成候時と長クハ得堪へ不申早く息之絶る事と存居申候病死カハ辱
ヲ忍チ之方ハ反希以後人之爲ニても相成候事欵存居申候
一 小橋清太郎未出府ニ相成不申候哉將又同人ハ之申合等いかハニ御座候
哉承リ度候

一 此間傳カ□へ尋子傳之書キ入之内依太ノ差圖ト七兒モテツシリトハ云
ハント有シコハ△ノ一歎本マノ一歎最一應クワ敷承リ度又新へ◎ヨリ尋
ニ石部ノコハ則同行ノ者ヨリ云イ出テタル長州薩州御國ヨリ收、健、深、其、余
ニモ數人行テタルト云テ死去人ノ名ハ出タレド外ハ只數人ト云テ名ヲ不
云ヨシ
但此ノコ七兒ヨリ逐一ニ云テヲレハ皆々同時ニ獄ニ下ル譯ナレド新計

傳、曾和傳左
依、太、後、八、傳、左
七、兒、瑞、山、以
藏、兒、岡、田、以
方、言、確、シ、ト、ハ
△、テ、言、確、シ、ト、ハ
本、部、一、件、精
一、部、一、件、精
石、部、一、件、精
邊、部、一、件、精
原、部、一、件、精
◎、一、件、精

收、平井收二
那、弘瀬健太
健、松山深藏
深、山本喜三
新、山本喜三
之、山本喜三
虛言ハ白狀ノ
コト反對ニ解
スヘシ
浪穂、島村衛
吉、小畑孫
美、松山深藏
二、千屋菊次郎
松山深藏

丑五郎、瑞山
ノ學僕

リノ名ヲ云テ余ハ不云コト歟又ハ○何歟策ヲ以先一人囚セシコト歟
一△ノコトモ逐一ニハ云ハン者ト見ヘル又本マノコトモ同様歟逐一虚言シタ
レバ浪穂美稻ナト詰ノ有リソヲナ物也
一此後私出候ハ、○ヨリ必石ベノコトニ健深參リテアル同宿ヨリイテアル
コトヲ知ラヌコトハ有ルマイト詰スル譯ナリ此ノ答ハ深健兩人ハ其節ハ彦根
ヨリ越前ノ方ヘ行キ六七日滯留ニテ私ノ宿ニ不居シコトハ儘ニ覺テ居ルナ
リ彦根邊ヘ行キシコトハ彦藩深索且又京師諸品高直ニテ萬人迷惑ニ付越ノ
何ニト云所ヲ切リヌキ水海ヘ通シ北國ノ運送自由ニスル云々ノコト彦藩人
ノ論ニテ地利上見分等ト旁行クト聞シナリ依テ右兩人ハ關係ハナキコト
思フ尤右ノ通り云テ私ヲ偽リシトハ不知
此ノ様ニ答ル合ニテ御坐候間萬一丑五郎ニ色々ノコトヲ尋ルヤラ知レズ
候ニ付ヨク、丑ヘ御申聞置キ奉願候丑ニ問タレハ私ハ何事モ不知深、
健、ハ口ノ二階ニ居タ他國人ガ度々尋テ來タリ或ハ他國人ト同道ニテ出

兎彌太、三原
六衛、楠瀬六

▲ハ坂本瀬平
殺害一件カ

○ヲ行クコトモアリ又夜分ナド戻ラヌコトモアリ七八日戻ラヌコトモアリト誠
ヲ云テヨシ其ノ内右兩人越前ヘ行クト云テイタコトガ有ルカト云テ問ハ
レタレハ有ル様ニ覺ヘル十日程留守ノ時モ有タト云テヨシ依太ノ門出
ニハ私イウデモ共ヲシタ名ハ知ランケンド御公卿様宮様ヘサイ、イ
タト誠ヲ云テヨシカテン行ク様ニ御申聞ヲキ
且又兎彌太六衛ナド大通院邊ニヲリ折、斬奸ノコトヲ聞クト深健ヲ尋テ
問ヒタレハ早ク聞テ居ル故ニ石部ノコトモ風説ヲ聞キシ故右兩人ヲ尋テシ
處越前邊ヘ行タトノコトニテ留守ニテ依太ヨリ聞キタト云テタレテヨシ尤
是等名前ハ出サヌ含ナレト時宜ニ依リ其時分京ニ居テ折、右兩人ヘ出
會シ者ハ知テ居ル人モ有ヘシト云含ニ御座候其時分之人ヘ御咄シ置キ奉
願候
七兒ノ云イ出本間ノコトハ依太ノ差圖ト云テアルカ
又▲ノコトハ何シ、脱カテ居ルゾ

文吉ノハ目
明文吉暗殺一
件

又石部ノコハ何ント云テ居ルゾ
又文吉ノコハ何ント云テ居ルゾ

右最一應クワ敷爲御聞奉願候身ヲノガレンガ爲ニテハ決シテナシ只瓦
解サセン爲而已ナリ獄へ通路無此上恐ルベキコナレド委敷通スモ略ヲ
通スモ同シコ故何卒クワ敷承リ度奉願候又獄裏用心等ハ何時改アリテ
モ万々氣遣ナシ將又此ノ通スル者モ萬々一モ氣遣ナシ御安神々々々
右傳邊へ御頼奉願候右迄早々頓首

廿七日夜

依 太郎

入 道 様

太 郎 様

(上田開馬藏文書)

○慶應元年二月下旬カ (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

◎大目付
山本喜三
新之助
小橋清太
永カ 吉永良吉
カカ 上田楠次
カカ 岡田以
七兒 岡田以
藏 村田忠三
馬喜 久松喜代
右門 横目
右衛門 小南五
略符 獄ノ字ノ
八、岡本次郎
△、井上佐一
△、殺害ノ略符
△、打首ノ意
△、海部楢垣
△、阿部川今
△、橋助
△、三木
△、三郎

◎ノ處ノ勢色々考へ見ルニ心外^{鑑カ}監定出來不申新小永楠ナド遙々呼立候故
兼テシマツノ云ニ七兒忠喜ナド何ノ考モナク一時ノハヤリ氣ニテ人ニヲ
ダテラレ云々ニ付是非指揮シタ主宰有ニ違ヒナシ△ナドノ組シテ居ルヲ
見ルト五郎右門ヲ大ニ疑之凡物ノ位一二三四五ト有右七兒ナトハ三四ノ
處ト思フ云々ナド、屏風ガコイノ時ニ云シコアル故ニ必右ノ一二ノ處ヲ
堀ル積リニテ新小ナド引出候ト存候處今日右兩人詰問シ口ノ違處ヲ合
セナドスルヲ見テハ堀リ上ケル趣意トモ見ヘズ堀リ上ル主意ナレハ口ノ
違處幸ニ直ニオヘ下シ夫ヨリ久兒ノ體ニ云テ居ル處ヲ以拷ニ掛ケ可申筈
ト存候且又△下ヘ行キ七八忠喜ナドノ口ヲ合セ口書ヲ直シナドセシコ是
亦同様ノ上ハ最早△ノコハ此ノ上ノ糺明モナク是限りニテ所置スルコ歟
右所置ハ不殘系ノ手ニ掛ル歟又ハ七兒主トナリ居ルコ且餘罪モアルコ
故ニ七兒ヲ糸トシ餘ハ他國追拂波海阿兩人ハ追拂波三木ハ永カ歟
△ノコ右ノ通り相成候ハ、私眞足ハ△ノコナルヘシ既ニ浪ヲ詰スル處專

國義徒大分憤起ニテ内争有之長も又々勢宜趣右故欲上方筋も些騒々敷過日早追一日ニ兩度欲著候由粗承り申候實事ニ亦も候ハ誠ニ皇國之大幸不過之与奉存候是亦御序之節何卒虚實爲御聞奉願候

一不一方御苦心之御中へ何とも至極申上兼候得共切迫之余り不得止事御相談申上候何卒宜敷情實御憐察之上御救恤被遣度偏ニ奉伏願候實コ小子平常之處ハ御推察も可被仰付且草戊邊よりも委細御承知も可被仰付旁今更事新敷不申上候亦も宜候得共平素頗困窮之上兩人共長々只今之爲休殊ニ物價高直旁宿元之者共日用之處顯然難澁可仕と推察仕甚苦心仕候處昨年五月浪穂君御懇情之御意ニ依る當時之處取繫安心仕候中九月ニ至り又々如何共相成間敷与拾金周旋いし吳度旨艸戊へ相談仕段々盡力周旋仕吳候得共貧生迎も素々小生而已ニ無之外々方も段々相談有之趣ニ亦不一方世話方いし吳漸去暮八兩惠ミ吳候趣然ニ九月艸戊へ相談仕候已來暮迄之間難澁仕種々才覺等を以漸取繫居候様子ニ付

草戊、川原塚茂太郎

亦ハ所謂燒石ニ水与欲申如ク右之分も又々盡果其上先日方家内之者之中少々病人等も有之旁臨時費用等も有之此頃殆何共切迫ニ至リ姑息情御耻ケ敷ハ候得共不一方老父母へ苦心相掛ケ其上又々右一切ニ付艱難爲致候与奉存候亦ハ實以寢食をも得不安甚心痛仕候然ニ右等浪穂君方御惠ミ被遣候義も有之又々此度御相談仕候も余り面之皮之厚きとも可申御取込之程も如何与奉存且只今之御暮殊ニ右一物ニ付亦ハ孰之者も専ら先生を見付御相談仕候由ニ亦御迷惑被成候趣をも内々承知仕候旁如何ニも難申上筋ニ候得共前件之都合ニ付亦ハ余ニ術計無之實ニ以不得止方御迷惑をも不願御相談仕候間右彼是不得止次第不惡様御聞取之上何卒拾兩御救恤被仰付間敷哉伏る奉願上候右御許容被仰付候ハ、御蔭を以當時光陰相送り此上之大慶不過之候何卒宜御許容之程奉祈願候先ハ右御相談計申上度勿々如此御坐候頓首

二月廿八日夜

美 稻

入道先生

政路拜

太郎君

玉机下

尚以次便ニ江印差出可申候間何卒其節申兼候得共一寸御報被仰付度奉願候上

江、江口出身
ノ下番貞吉カ

(上田開馬藏文書)

○慶應元年二月廿九日 (森田金三郎ヨリ島村壽之助)

尚々乍憚端脱カ吉殿方之過日之壹封慥ニ受取申候ニ付御次第之節宜御傳奉

希候

一筆啓上仕候春暖之節御坐候處先以御揃被遊益御機嫌よく可被遊御坐恐悦之至ニ奉存候隨私義無異儀消光仕候間乍憚左様御思召可被仰付候然之先達も御懇書被仰付其後とても色々御世話被仰付御聞等も慥ニ拜受仕誠以難有仕合何とも御禮申上様も無御坐候時々御禮も不申上大ニ御無音

七兒轉申候而
ハ岡田以藏轉
フコトヲ云
岩屋、毒藥ノ
コト
七兒、岡田以
藏、天祥丸、毒
全快、瑞山、石
大建、瑞山、石
石組、石部組
阿部川、島本
吉次郎、島村衛
吉、島村衛
海、檜垣清治

仕候段眞平御仁免奉希候扱長薩共先達と餘々と動申候由此頃京師之勢如何ニ御坐候哉二三日間も早追度々も下著仕申候趣格別之儀相聞へ不申候哉承り度奉存候扱過日以來七兒轉申候近相成居申候岩屋用候ニも大ニ都合宜一兩日大ニ苦心仕申候何り厚思召も御坐有間敷哉彼是外輪之御周旋被仰付度奉存候少シ病發ニも相成申候へ之機會を以天祥丸かと送り可申七兒一日も早く全快仕候得と誠ニ大建初石組ニも大ニ幸ニ御坐候委細之儀ニ阿邊川方も申上候趣ニ付御承知可被仰付候端吉はと海より申上候様子ニ御坐候實ニ天之與處ニ急務々々何卒御思召御巨細之御報奉希上候申上度儀も御坐候へとも今日も大取急右計如此御坐候恐惶謹言

二月廿九日

隈谷松太

入道太夫様

膝下

尚々時下御自愛可被遊候乍末筆殿方様へも宜様御傳奉希候其後石之關

武市瑞山關係文書第二

八十五

係格別無御坐候哉

◎勢も如何哉今日七又々出入仕候實ニ天祥刻を争ひ申候

(上田開馬藏文書)

◎目付
七、岡田以藏
天祥、毒藥

○慶應元年二月廿九日カ (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子へ)

この間々御文被遣有りぬくそんし^り先^くみあ^くさぬ御機嫌よ
くめて度そんし^り私事もまだぬこ^ろよく相成候ま^し少も^も御
氣遣つゝおされましく呉^くそんし^り扱私もまごに出不申このもよ
ふなせのせつく過^こお出るつもりよて御坐候々ふハ又あやふり出ており
ました又何り云事ぞとそんし^りきのふハ衛吉り出ましたなんよもか
くだんの事なくまづりな事よて先^くきづりをしき事も無御座候扱々
ふハ竹馬が辨當をもつて参り候よし丑ハ又りへりましたり色^く氣づり
ハ申候先^くりくだんの事も御坐なくあら^く申上^り扱こんをんを

あふふ、岡田
以藏、宜振
衛吉、島村衛
吉カ

潮江、札幌ノ
實馬下番

潮江の下番出候ま^しためしニ本をりへしま^しこれも誠^まよ^くよき人よて
小笠原のちき^こ前よて候酒さきゆへ御のませ被遣度候^ん月もそやみてま^か
したのふ先^くあら^くし^ら

廿九日の夜

より太

姉上さぬ

おと乙との

一この本前へ御と^け

新町ノ吉吾獄
ノ下番

一この間の吉吾ト云ハ熊太くの近所のものよて誠^まよ^くよきものよて檜
垣などへも時^くいくものよて少も^も氣づり^らなき人ゆへ用事あれハ
御頼よてよく候 (武市家文書)

海部、檜垣清

○慶應元年三月一日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)
先刻と貴墨且海邊之書二通共慥ニ拜受仕候先以御同様之御儀嘸や々々御

武市瑞山關係文書第二

八十七

口、濱田良作

依太、瑞山

難儀と奉存候随分々々御いとひ專一ニ奉存候扱口之聞キ書御越し被遣一向テニヲハ之合ぬ事よて更ニガてん参り不申先日因之聞キ書ニハ何事も依太之差圖トアリ候處吟味口ヲ聞て何事も依太之差圖ト云ておるよふニもなし一向譯ケ分らぬ事故又々尋子候處先刻之口之書ト云ニハ本々石共ニ依太之差圖ト云テハヲラントアリ一向ガテシ不參千万迷惑之心地ニ御坐候今朝も申通りオへ通ズルカラハ密も略も同じ事ゆへ何卒精密ニ爲聞吳候様吳々奉願候誠ニ身ハ輕ンシ居候事ニ候へとも詞ニ窮してハ治り付を就るハ段々連及スルヲ故何卒此之處能々御頼被遣度奉存候小橋之事等分リ次第爲御聞奉頼上候今夜と儘成下番自用ニ御近邊参り候ニ付御返事且右御願迄早々如此御坐候頓首

一日

依太 郎

入道 様

太郎 様

小橋清太郎

シハツテのふ
方旨シツコク

随分々々御いとひ專一〜奉存候

本文之事余リシハツテのふ尋候ニ付るハ嘸るし六ツケ敷思はれ可申且又只身を恐る様ニも被思候欲全ク左様之譯ニ御坐宜奉頼候ケ様之事始終私方御尋申セドモ囚組ハ孰も同様ニ御坐候

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月上旬 (繪垣清治ヨリ瑞山へ)

△云此間内度々御吟味有之ニ斬姦等ハ平素不當ト論シ決る左様ノ事ナシト申セ共顯然同行三人之内一人有ハ如何○左様ノ者有之ハ無存掛由シ有ヲガ有マイガ此一事ヲ同様ノ御見付ハ心外ニ存奉ル又同行二人モ如何様ノ隱事有之カモ人心ノ事ハ不知候得共先愚眼ヲ以其言行ヲ見レハ左様ノ事スル者一人モ無ク思ウツチコチ百方辨ス

△無宿ニスルイツ迄モ不受○侍ノ道路ニ被斬有ヲ捨ルハ御國辱ナリ右同様ノスハリヲ以届尙陸目へ託ス跡ハ不知根元御大事ヲ存奉リ御國ヲ出テ

候時ハ死ヲ塵芥ヨリ輕シ候上ハ勿論道筋ニ於死ヘキ事御座候ハ、寸分惜
 之不^{申脱カ}候得共只今迄ナガラヘ候上ハ狼藉故其時ハ死ハ泰山ヨリ重ク御坐候
 又疵小細ニテ随分斬姦ナレバ手拭ニテモク、リ走ルナリ然共左様ノ事ハ
 天ガ見ヨル故致不申候御察被遣ベシ色々ニ辨ズレ共格別ナシ
 △只三人ノ内一人斬姦ヲシテアル故疑ハ晴レヌ尤ナル事ナラズヤ○至極
 尤ナリ然ニ其一人ヲ不知如前言△小田原ヘ半平太參リ候哉○如何ニモ參
 リタカノ様ニ承リ候得共面會不仕故儘ニ不存△惠吉ハ實弟ノ事故逢タデ
 アロヲ○惠吉ハ半平太宿參リ候ヘバ定る逢モシッロウガ惠ノ他出ヲ不覺
 不申ソレト申ガ小田原ハ番人附内外共猥ニ人ヲ入不申故ニ惠ノ出タモ
 不覺又面會ヲセン故武市モ參リ候フ不覺然ニ何ヤロ申都合テ參タト云ウ
 様ニモ聞テアル横濱一件カ儘ニ不知何モ格別ナシ只届書ノ違イト無宿者
 ニシタト疵故トママルト此三ツヲ以シキリニ詰ナリ中々六ヶ敷上ニモ確
 證ナキ故我カ誠心ヲ以答ウ無根ノ疑故セキ片付難シ愈狼藉ノ處顯レンナ

ラント誓神明ナリ追々手順ヲ以詰有ノハズ

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月二日カ (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)

今日ノ對決口佐扨ハ御聞取爲御聞奉願候

一明朝ハ雄印出勤ニ付夜分一寸遣し申候間彼是爲御聞御返事奉願上候隨
 分々御いとくれ〜奉存候 早々百拜

二日之夜

依 太郎

入 道 様

(上田開馬藏文書)

太 郎 様

○慶應元年三月三日カ (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子へ)

々ふハよき天氣よて御坐候先々みか〜さぬ御機嫌よくめて度そんし
 り私事次第ニころよく相成候まゝ少も々々御氣遣被遣ましくくれ

武市瑞山關係文書第二

九十一

佐扨、佐井寅
 次郎、下番雄
 之雄印、下番雄
 之丞

小橋清太郎
七人のあは
七軒江ノ口村
藏吉、島村衛
吉

くそんし上り扱又きのふも小橋ト七々んのあはふと久松と出居申候又衛吉も出申候なよもかくだんの事も御座なく衛吉などの事又々あ方が何よりうそを云ておりハせんりと氣遣候處思の外先々なよもうそを云ておふんと見へ申候先々かくだんの事も御座なくおふく申上り今夜雄丞出候ま少し用事あるゆへ又々今晚雄之丞をやり申候めて度りし

三月三日

より太

姉上さぬ

おとこの

助前、島村壽之

一この本前へ御とつけ

○慶應元年三月三日 (島村衛吉ヨリ島村壽之助へ)

尙以毎々乍御面倒別封宜奉願候

小孫、小細孫
三郎、横目

又々寒氣ニ御座候處先以相不變御機嫌之由奉恐賀候隨私儀無事御休意奉願候此節御持疾些御快被成御座候哉尙厚御養生奉祈候然と昨年分一昨年建白ノ扣小孫ヲ註文ニ参リ居其後斜目へ相頼御手元迄返上致吳候様相頼申候處未御手元ニ御座候哉御座候ハ、今日之便ニ御越被遣度若小孫ノ宿へ歸シ御座候ハ、何卒御周旋を以今夜中ニ相達候様奉願候實ハ別紙詰書之通之事故此事も忘タト云テハ實ニ不相濟候間今一度見置申度とふそく宜奉願候謹言

三月三日

三郎二郎

入道様

昨日と詰上ケラレ何共返事込リ入申候心外々々

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月四日 (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

被成御揃御勇健可被成御渡奉賀候然ハ又ちと御のほせ之由嘸々御難儀被

横目

成候と奉存候私事も此朔日之夜かちと風邪よて御坐候處果して二日ニ
参り出ル事ハ出来ぬりと余程熱つよく候故斷り申候昨日も又うなびしニ
参り申候今日ハ又上田トカ云醫者ヲ御目付方に見せニおこし申候此模様
にてまよ一兩日ハ出る事不相成心地よて御坐候誠ニ心中ニいろく思
申候今日ハ海部ニ七兒出居申候太印口邊ノ模様ちと相分候ハ、爲御聞且
又元敬之不明論も参り居候ハ、爲御見奉願候右迄早々頓首

海部、樽垣清
七兒、岡田以
藏、濱田良作
元敬、大石彌
太郎

四日

入道様

依太郎

(上田開馬藏文書)

正路、小畑孫三郎

○慶應元年三月五日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)
此間御頼申候正路ハ因へノ書御届被遣候哉昨日之貴墨儘ニ拜受仕候先以
御揃彌御勇健可被成御渡いゝ様御のせ未えあく不被成候旨嘸やく
御難儀被成候事と奉存候随分々々厚御いとひ專一之儀申も疎ニ候也私事

口、濱田良作

も次第ニ快方ニ相成候間乍憚御安神被遣度奉存候此模様ニ御坐候ハ、一
兩日之内ニハ出候事出来候と樂しみ居申候扱口之處も亦因も未相分り不
申趣然ニ此獄組惣分相考候處口因など獄へ之通路之事もしやメリあす間
敷哉ト存候子細ハ因ガ蒙り候もこや余程之日數ニ相成それニ四五日前
ハ耳ヲ立るナド之口氣ハ一向グてん不參獄議之事ハ外輪ニ居候人ニちも
聊心有ル人ハ耳を立候事同志ハ尙更之事夫々右之ニ相成候ち不取敢
耳を立可申譯ニ是ハタトへ同志ニちナクともニ相成候ち獄事ハ
實ニ大事之事ニ付公然ト同役ニ尋テモ可然事ト存申候又獄ノ事ハ先詮
儀ナシニタ、ミテさし置テ有之事ナレハ◎ノ論も不知譯ナレ共今吟味ヲ
シ詮儀ヲシヨル事ニテ同役ニ居テムク聞ヘント口ナト申事更ニカテン不
參候御考ハいゝニ御坐候哉口因邊ノ勢竊ニ御探索奉願候昨日も七兒ハ
ホンノ一寸出テ直ニ歸リ又暫シテ一寸出テ直ニ歸リ候由今日も窄番五人
参り居候處罪人ハ一人参り居不申由ガテンノ行ヌ事ニ御坐候今日ハ貞吾

横目

目付

七兒、岡田以藏

貞吾、下番貞吾

外内方へ參ルト申事故序ニ昨日之御報旁得御意度如此御坐候頓首々々

五日

依 太郎

入道様

太郎様

返ス々々も御持疾御いとひ私もどふもまぶ熱アリテ頭痛イタシ夫ニ物
ノ味クサクテイキマセンヨ

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月五日 (小畑孫二郎同孫三郎ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)

今朝日之尊翰昨夜相達難有拜見仕候先以倍御壯猛且次第ニ御快然之御旨
重疊奉欣喜候扱過日御相談申上候金子之義御親戚初段々御世話方御多端
ニ付るハ悉皆ハ無御據御難澁之御趣然共五兩と早速御惠ミ被遣候御旨誠
ニ以御厚情之段千萬難有御禮難盡紙上奉存候兼右御世話方御多端之義
ハ内々承知仕候得共不得止御相談仕候處右等早速御許容被仰付乍此上大

草茂、川原塚
茂太郎、門田爲
之助

ニ憂苦を散し大悦仕候將又跡五兩之處ハ草茂廿爲之邊へ周旋之儀御引合
被仰付候思召之御旨是亦誠ニ以御懇志之段千萬難有奉謝候只々何角御煩
し申上至極恐入候得共何卒思召之如ク跡五兩之處ハ右兩人へ周旋いとし
吳候様御引合被仰付度宜奉願上候將又先生ハ御惠ミ被遣候御分何卒愚
弟共之中へ御渡被仰付度は亦宜様奉願候先ハ右御禮且跡々之處御頼旁勿
々如此御坐候頓首

三月五日

美 稻
正 路 拜

入道先生
太郎君

(上田開馬藏文書)

玉机下

○慶應元年三月六日 (小畑孫二郎ヨリ島村壽之助へ)

武市瑞山關係文書第二

九十七

三原兄、三原
免彌太
星祭、岡田以
藏毒殺ノコト

易者、同志ノ
監察吏

ヒル、蒜
ヒトモジ、葱
サエン類、野
菜類

易者神職、監
察吏職卒

益々御勇健之御赴奉欣喜候隨私儀無異ニ謹慎仕居申候乍憚左様御安神被仰付度奉願上候扱過日と金之儀ニ付御相談申上候處厚ク御聞込被仰付御蔭ヲ以三原兄ヨリ四圓愚弟へ御渡被仰付候趣申來リ實ニ難有とも何とも御禮之申上様も無御坐候老父之極困危急をも相凌キ於私ハ囚中之本望何事不如之難有仕合ニ奉存候尙此上宜御頼申上候追々御挨拶可申上候扱星祭リ之儀ニ付る御世話被仰付千万御苦勞ニ奉存候追々祭リ方仕初ニ相成候得と爲御聞被仰付度候

彼星過日以來三四度往來仕ニ付又々如何様ナル祟リヲナシ候程モ難計易者ニ爲占候處何共相分リ不申候相分リ次第御通達可仕候間左様思召被仰付度奉存候易者申ニ星ヲ祭ルニハ・ヒル・ヒトモジ・ノ類ハ惣シテ臭キ物ハ御キライ之趣ニ御坐候外ノサエン類ハ御キライ無之趣ニ御坐候過日以來折々菓肴ヲ奉リ候る祟リ星ノ御心ヲ御和メ申候處惣シテ臭キ者ハ御キライ之趣易者神職ヨリ承リ申候尙御厚慮奉願上候尙後便ニ御返事奉願

上候謹言

三月六日

仕成好ノ山師

小 介

鳥小屋

孝右衛門様

星變動且七星坐處ノ圖御覽ニ入申候

(上田開馬藏文書)

第一卷六七三
頁ニ小介ヲ河
野萬壽彌トセ
ルハ小畑孫二
郎ノ誤

星變動ハ居獄
ノ七星坐處ハ岡
田以藏ノ居ル
所

○慶應元年三月七日 (瑞山ヨリ妻富子へ)
々ふもとうとく敷候へともみかゝさば御き々んよくそあふふじめて度
ぞんじ候爰元きのふあら下りもとまりねつも少しさめこゝろよく候少も
く氣遣ほるましくくれく存候扱々ふハ又安岡格之助揚り屋入ニ相成
山本と一所の獄へ入申候誠よく○のむりちくくくいつこふい
うよふもなき事よて候たくくあきれあやり申候外ニ下あらも又この處

武市瑞山關係文書第二

九十九

安岡覺之助正
美誠皆山
山本喜三之進
◎登目付

あらも誰も出返えづりな事よて候
夕へのみたしゐにとゞき候

先く何もかくだんの事もなくあらく申入候めて度りしく

明ナラズ

七日

より太

おと乙との

一 いうべ状ヲ入てやり候きぬの袋ハ烟草道具ヲ入るものゆへ又く御返
し

一 めしのさみニ肴のみそづけのよふなものハ誠よくめつそふんまよ

あれハなんといふものぞ

一 御姉上さはへよろしく

おこともきたけなのふ元衛も次第ニ成人するよしめて度し

○慶應元年三月八日 (瑞山ヨリ妻富子へ)

意ぬくうハ暖ノ

りへまも氣遣無用ニ候

ゆふべの文たしりにとゞき候々ふわ大分ぬくう相成候處みかさぬ御き々
んとくそなふじのよしめて度そんし候爰元先くかくだんの事もなく
候扱めつそふ氣遣げあがなんよもきづかう事をこしもなく候たあ
いせんしやよていたみもほんのまこしの事よてさしてめぬくといふほ
どの事もなく候扱いしやの事御申越誠よそのとふりよて萩原ハ實をきよ
入不申されどもまぐにりへるもつこふあしき事ゆへ少し見合せ其上よて
入交りニりへ可申候衛吉なども萩原とふぞりへてとまきりに申候一ト
まじりもして同し事なれハりへ申候扱又出養生の事入交も溝淵もい候
よしこれハどふも願ふてもいくまとおもひ候されともだんくれいの
有事ゆへもしやいゝん事もあるまじりいづれ六ツケ敷事とそんし候一ト
度出てもそやまぐに又入らんらんとおもうと出るもづきもなく候され
とも出養生の出きる事なれハみあくの顔を見度事ゆへまこしでも出度

醫入交道碩

醫萩原醒庵

候先^らく^くめて度^もと

八日夜

お富との

一此狀前へたしりに御とつけ

姉上さぬへもよろしく

(武市家文書)

○慶應元年三月八日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)

今日御兩殿様ノ御入り御座候

昨夜之尊書體ニ相違難有奉存候先以御揃御勇健可被成御渡愛度奉存候い
る様御持疾未御同様之御旨嘸々御難儀可被成ト奉存候随分々々厚御厭專
要ニ奉存候随私儀先同様ニる當惑仕候扱醫之論等巨細御申聞被遣難有
奉存候御噂之通り入ハ甚大切ニ取扱候様ニ聞へ申候實ハ此間入ニ替へ度
入、入交道頓
存へノ二字行
カ

御兩殿様、容
堂豐範

靜坊、萩原醒
庵、獄ノ略

西山直次、後
志澄

◎、目付

へ中へ不計靜坊來り候ニ付幸ヒ替へ申候いにも靜ハ御噂之通りニ奉候
故誠ニ信合不仕殊ニ坐^{上脱カ}探索ト承り候も實ニ不安今日も先刻不之口迄來
り容躰ヲ尋候ニ付申處今日と見ズともよるふ又明後日頃見ニこふ今日
そ外ニ御用有りて參り候故序ニ御尋申スト云て歸り申候彼ノ座上探索ノ
御用欲ト存シおのしく候昨日血ヲ取り候處返テカタヘツカヘル様ニ御坐
候又腹の下の凝モ未トケズ又痛テクルヲモ同様ニテ候ヘトモセメテ一ト
廻リハ藥ヲ用ント千萬不都合候故一ト回リモシテ矢張同様ナレハ入エカ
、リ可申候一昨日西山直次ノ親此ノ番ニ出居候處同人ノ二男入ノタト申
事承リ申候又入ノ今朝倉町ニ居ルヲモ承リ申候

一出養生ノヲハ誠ニ六ツケ敷ヲニテ迎モイクマイ欲ト相考申候然ニ例之
多キヲ故モシヤ御聞届ニ成ルヲモ可有哉右出養生ヲ願テ見タレハ◎ノ
勢相分リ可申相考申候

一此間ノ蜀ノ三人義ヲ結云云ノ書ヲ傳ナドへ御見セノ由甚ヨロシキト

存候タトへ不平ヲイダイテモアノ通りニ違ヒナキヲ故不平ノ色ハ得々
出スマイト存候又不平ニテ害ヲスレハ則我身ヲ害スナリ是ニ不平ヲ以
害ヲスルハ弥小人ト相考申候色々云解キモ有ルヲ利屈ヲコシラヘテ
云へハ何トニテモ又云イ様ハアレド前後ノ口ノ合ヌ所ニ於テ責ハマス
ガレマシ

廿、五十風文
□、濱田良作

一右ニ付昨夜ハ廿□ナド會シ候由イカ、御座候哉兒組ノ云出又◎ノ勢チ
ト相分リ候哉承リ度候

浪、島村衛吉
△、吉田元吉
暗殺一件

一今日モ又浪出則別紙之通りニ候是又確證ハナキヲニテ候考へ見ルニ◎
ノ糺明スル所ノ主意ハ△ノコニテ是ガギリノ候故取初ニ是ヲ詰
シタレド確證ナキ故ニ詰マズ依テ色々枝葉ノコヲ監察シホリ出シ恐レ
入ラセ夫ヨリシテ右ノ根本ノ所ヘクヒ込積リニテ是迄色々枝葉ノ處ヲ
以詰問シタレド是又確證ナキ故詰メ上ルヲ出來ズ故ニ又初へ戻リ只ノ
形容ヲ以テ詰スコト察申候然ニ是モ藤駿屹度虚言セシニモアラヌコトニ

テ矢張云テ見ヅクト相考へ
紙相認申候是モ取早日長ケタコカトハ存候へ共先々諸賢へ御相談仕候
宜奉頼候 八日ノ夜

より太再拜

入道様
太郎様

○慶應元年三月上旬 (瑞山ヨリ獄外同志ヘカ)

眞ニ確證ノ有ルコナレハ只御目通り而已ノコヲ以詰スルコハアルマジ頭
デテツシリ證ヲ上ケ二言ト云ハサヌ譯ナルヘシ何分是亦形容ノ疑ヒ欲ト
愚察仕候何卒々々口之邊ニテ證ノ有無御聞キ合奉願候
一若ヤ反覆人ノアリシコナレハ森四ナルヘシ若ヤ孕ノ山本カ且又其余ノ
人ノ反シタコナレハ第一入道曾江川艸戌ナド初數人囚トナルヘシ◎ノ

□、監察吏濱
田良作
森四、森四郎
入道、島村衛
之助

處ヨク御探索奉願候

一神ニ承リ候ハ、森◎ハシマツト同時ニ御免ノ由驚入候依テ今ハ◎三

人ノ由大町人實ニ御揃之ニ木ハ役ニ立マイ兩人林ノ次第ナルヘシ

(上田開馬藏文書)

曾、曾和傳左
江門、未考
江川、川原塚
神茂、眞邊
大町人、眞邊
榮三郎、林勇晴
定二木

○慶應元年三月八日カ (島村衛吉ヨリ瑞山へ)

大目貳人或三人小目壹人或貳人陸目ハ定坐ニ見エス詰ハシマツ壹人

外無言

シマツ、野中
太内

○其方江戸表ニテ長州人ニ出會時勢ノ事ヲ聞歸國ノ上申出シケ條ハ如何
ゾ△長人云ニ神世以來例無キ夷人ニ辱ヲ受實ニ不安心アル者ハ安閑トシ
テハ居ラレヌ○夫ガ一ケ條ソシテ△和宮様御東下ノ事モ關東ハ迫テ願下
シタリ○夫デニケ條ソシテ△交易 勅許ヲ受スシテ私ニ條約取結ヒ且公
武ノ御爲盡力セシ御大名方ヲ押込メ實ニ幕府ノ御所置脱カ甚不正故ニ諸浪士共

上卷四一頁
六〇七頁
五〇七頁
六〇七頁
ハ或ハコノ分
キノ下ニ在ルベ

憤起シテ居ルト云事杯承リ足元ニ變ノアル事計ラレス故右之事申出リ尤
月年ヲ經候ニ付忘レシ事モ有リ○長人盡力スルトハドコカラドヲ手初ヲ
スルト言シゾ△夫ハ不承只公武ノ御合体其上攘夷ノ
敬慮貫徹スル様ニ盡力セテハナラヌト申事承シナリ○夫ハ合点ノ行ヌ事
只盡力ヲスルト云テモ何ヨリ何ヲトヲシテト云順ノアル者ナリ夫ヲ聞ヌ
事ハ有マシ△不承右之通り承リシ計ナリ此事至テヤカマシ○同盟ノ人數
何人位有ソ△過日モ申上ル通り江戸ハ歸シ後盟書不見何人有カ不知○夫
テハ合ヌ事アリ其方ノ宅ニテ盟セシ者モアル様子ジヤガ夫ハ夫ニシテ置
キ其盟書序文ガ有ドノ位ノ長サゾ△半切ニテ半紙ノ長サ貳枚位カト覺ユ
ル○其趣意ハ如何△大抵文意ヲ云タリ○太守様ノ御供ノ蒙口ハ如何△御
雇御臨時御用御蒙シナリ○其御用脱カ内ニテ誰等ト別シテ心易セシソ△久喜
阿部岡以高松森田杯合宿ヲ行シ故心易クセシナリ又半平太ハ師匠ノ事別
シテ親シクシタリ○夫ヨリ京師へ上リ他藩人出會シタカ△應接役ノ外他

太守様、豊範

久松喜代馬
阿部多司馬
岡田以藏
高松太郎
森田金三郎

久坂玄瑞

寺島忠三郎
長峯内藏太
槽崎彌八郎

藩人出會御差止ニ付不出會○其方應接役デ無リシカ△左様○久坂ニハ不
逢リシカ△京著否一度尋シナリ○其外長人ニハ不逢ヤリシカ△江戸表ニ
テ傳奏屋敷ヘ寺島長峯ナラ崎三人參リ居毎々逢タリ○京且江戸表ニテ存
寄申出シ事有ヤ△江戸ニテ一度御女義様御引取御急被遊度ト申出シ事ア
リ○御目通り願シ事ハ無カ△一度願タリ其時ハ同意ノ者惣代ニ出テ私ハ
不出サリシナリ○其趣意ハ如何成ル事ゾ△只今失念シタリ○夫ハウロケ
タ事ナリ言路御開キトハ言ナカラ輕格ノ身トシテ直ニ存寄申出ルハ一通
リ不成事ナリ夫ヲ忘タトハ余リ事ナリ半平太衛吉トテ天下ノ人ニモ被知
タル者ナリ夫ヲ失念ト云ヘト實ハ今ハ云ヘマイ其時ハ數人申合上ヘ追テ
我儘ヲスル積テ有ツロフ△全左様ノ心ナシ頗ルキヲカ惡敷實ニ忘タリ○
其方ノ云處テハ一ツモ罪狀ナシ自身ノ服^{腹カ}ハ如何思テ居ルゾ△存ガケ無
ナレ共不調法者ノ事故何ゾ惡敷事テモ有フカト存テ居マス内御不審被仰
付シ事ハ存掛ナキ事前々申上ル通り○其御不審トハ何ノ事ソ△四月八日

四月八日、吉
件 田元吉暗殺一

ノ事ナリ○夫計ト思カ△左様ナリ○マタ、アル其方ドモノ連判シ親シ
クスル者小田原大坂石部野根山一々數ヘ立ル又長州ハ朝敵夫ヘ組シテ居
ルモ多ク同盟ノ者ナリ又久坂ハ兼テ暴發ノ論アルニ夫ト終始心安クスル
ナリ自身ニハ一度尋子タニモセヨ其方ノ師匠ニテ別テ親敷半平太抔カ其
通りナリ忠儀ノ爲ニ誓シト云ヘトソフデ有マイ反逆テモ企ル積リテ有ツ
ロフ△同盟同盟ト云ヘトモ是迄申上ル通り時トシテ論違フナリ私共ハ左
様ノ心毛頭ナシ厚御明察奉願ナリ○形ニ於テハ其通ナレトモ心ニ於テハ
不忠ノ心ナシト云其方ハ大事ノ存寄ヲ御目通り願イ申上シ事忘タト云様
ナ心テハ中々其心頼ニナラヌ御聞取ニナラヌ△御尤千萬ナレト高ガ不調
法者其上キヲク惡敷誠ニ是程ノ事忘レタト申テハ不濟事ナレモ實ニ忘タ
ラ故仕方ナシ○又追テ被召出立タツシヤレト云テ歸ル

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月上旬カ (島村衛吉ヨリ島村壽太郎ニ)

一矢野川龍右衛門盟書上京前拙宅ニテ名前相加候處過日以來出張之節盟

書江戸カ歸ル後不見ト申出候ニ付若右同人ハ問合等有之候ハ、其考ヲ

以答致吳候様御通シ置被下度奉願候又尾源モ野生持參ニテ加リ候事ニ

付万一問合等有之時ハ都合能答吳候様是又宜奉願候實ハ此兩人ニ及

事ハ決シテ有間敷存候へとも爲念申上置候

浪穂

太郎様

(上田開馬藏文書)

尾崎源八、後男爵忠治

七、岡田以藏

○慶應元年三月上旬 (島村壽之助ヨリ森田金三郎ニ)

二月廿九日之貴墨懐ニトキ拜し、先々相るに御旨御めて度存

御留守も御同様御きまよ候間御氣遣被成間敷奉存候其已來ハ

御無音失禮仕候扱七御隣へ參リ候由實々大幸ニテ喜躍之至ニ御坐候

安部川、島本
書次郎、星之次、
岡田以藏ノナ
祭方、毒殺主
祭主、毒殺主
父、岡田以藏
ノ父

○過日安部川カも申越候ハ是迄段々之御惱も皆星之次ヨリニ付速ニ祭方
致候様申越候いゝも尤千萬誠ニ數人ハ、事をなす事なれ急速悪星消滅
ニ至リ候様致度右祭主も相談致候所先達之通なれハ決り子細なき事ト
存居候早速呼付ケ談候處存之外異論ニテト角父も相談右之趣ニ付どふ
も受千事悪く候色々論候得共とふも受悪く候實ニ耻ヲまふぬにも入り入
申候然れ共トニ角ニ此儀ハ祭主愈納得ならてハ悪星消滅ニハ至りぬと
ニ付色々申聞セ置候是カも小兒の父ニ焼付ル積リニテ御坐候尙又得と相
考何卒してやり付ねぬならぬと苦心致し相極メ居申候

(上田開馬藏文書)

小兒、岡田以
藏ノ弟チイフ
カ

○慶應元年三月上旬 (瑞山ヨリ山本喜三之進ニ)

一御考御尤ニ存候然ニ醫者ハ何野某ト慥ナル同志之内ノ醫ニアラズテハ

工面アシキヲニテ候誠ニ同志之内ニ醫者アリタレハ其方へ急々通シテ

武市瑞山關係文書第二

百十一

キテ御考之通り云イ候へハ子細アルマジク候左モナク同志デモナキ醫
ノ名ヲ出シテハ反テヨロシカラヌト相考候

清治、檜垣清
◎、目付

一清治ヨリ回番ヲ頼マレテ勤メタト云フ害ニハナルマジク候ヘトモ死去
人ノ事故證據トハ◎ニ受取マジク又誰ヲ以テ頼フデ來タゾ又誰ト相番
シタゾナド、詰スヘシ是ハ如何様トモ答ヘハ出來ルナレド屹度證據ト
ハナルマジク相考候

一私ノ知ラヌ證據何欲ト存シ色々考ヘ見レド別ニ證ナシ依テ私ノ同宿ニ
テ罷在シ者一人々々御聞キ糺シ被下度 太守様御東下前迄下痢仕リテ
他出モセザリシトハ同宿ノ者多分存知ノト思フ之是ヨリ外ニ是ト申
證據思ヒ得ス右ヲ急々御監察奉仰云云

但此ノトハ人ノ名ヲ出スナレト是非トモ云フベキト相考候是ヲ
云ハント尙更疑ノアルト相考候尤此ノトヲ云ヘハ急ニ御同宿之同
志ヘ掛合ヲキ致フニテ御坐候明夜ハタヨリ御坐候間京ニテ御同宿之

手、拷問ノ略

人々名前御記シ今夜御越し可被成候且又御留守へ之御用も御坐候ハ
御越し

まづ明日直ニオニも相成申間敷相考候然レトモいつれ六ツケ敷事ト相
考申候

一土居弥之助又々陸目ニ相成候由之

依 太 郎記

新 太 様

一右ニ同意ニテ御座候以上

浪 穂

(上田開馬藏文書)

島村衛吉ノ附
書

○慶應元年三月上旬 (山本喜三之進ヨリ獄外同志へ)

一田順死去之後御宿替リ不申哉過日小生詰之節被尋御同宿と答候へ共實
ハ北ノ間明ケ候後ハ御宿と存不申候御序之御申越奉願候委細ハ過日御

武市瑞山關係文書第二

百十三

覽ニ入候詰書之通りニ御座候間クヒ違イ不申様奉願候

東南ノ三疊ニ 南裏ニ

● 島村泰助。森金 楠六 弘松源治

西裏ニ 又西裏ニ

田那邊。小保。● 七兒。浪穂。矢野川。柏原。高松。中平

北ノ間ニ

● 山本。森助。田順。浪越。岡崎。三原。筒井

● 清治尤後一人部屋ニ居ス 右之内後ニ宿替 リシ人モアリ

右○之分名前ヲ云イ候間急々御掛合置被下度奉願候尤島泰ヨ岡圓トハ掛合出來不申候

七兒、岡田以藏

僕申出ルニ七兒ハ毎度夜分ニ歸ラサルヲアリ皆々度々異見ヲセシナレド中々スカニクギ故終ニ皆々見限り居タト申スニ付孰モ其御含ニテ若ヤ

◎ヨリ間ニ參リタレハ其ノ通り御考ヘ合ニテ御答被下度奉願候

新 太拜

(上田開馬氏藏文書)

外 諸 賢 兄

[別ニ端紙]

○慶應元年三月上旬 (山本喜三之進ヨリ島村壽太郎へ)

愈御壯勇奉賀候次ニ拙今日迄無事ニ罷在候間御省念可被仰付候別紙一通宜御頼申上候若吾郷郡ノ者ハ僕ハ參ル者有之候得々新丁ノ吉吾ト申下番ハ頼御越し可被下候不具

新 太

(上田開馬藏文書)

太 郎 様

▲吉田元吉

暗殺一件

遠矢、未改、

石部、幕吏

○慶應元年三月上旬カ (瑞山島村衛吉ヨリ島村壽之助等へ)

一御尋申セシハ▲而已ニ非ズ。遠矢ノヲ石ノヲ▲ノヲ三廉之又七兒ノ虚

武市瑞山關係文書第二

百十五

殺一件
井上佐一
郎暗殺一件
七兒、岡田以
藏、目付

言ト久兒組ノ虚言ト云

一不審シタハ因ノ聞キ書ニ七兒云皆々依ノ指揮トアリ夫ヨリ◎ノ會ニ出シ處遠矢ノ一ハ既ニ七兒ヨリ云云ト云トテ其余ヲ不言右ニ付因ノ聞キ書ト合ズ故ニ又々御尋セシ處今大事ノ時ニ付勇剛確乎トアリテ右御尋ノ筋シカク不分故ニ又尋候處七兒云依ノ指揮トハテツシリ云テ居ラントノ答アリタリ尙合点ユカズ故ニ又遠矢ノ一ハ云云云ノ一ハ云云石ノ一ハ云云ト通ズルカラハ精モ略モ同シトニ付何卒委敷承リ度ト御尋シタリ然處右前後言ノ不同ノ筋ハ則昨夜ノ會中ナドノ書ニテヨク分リタリ然ニ云ノ一七兒云云ト云ノ一迄アリテ其ノ答ナシ大ニ不審ナリ反テ云イデモヨキ確乎或誰カオニ堪ヘ人ガホメルナド實ニ抱腹ニ堪ヘヌト云

一上番撰替ノ一云云未實事ニ不顯之上番ハ高九人ナリ其内二人病氣ニテ引候ニ付去暮以來幾度ト云一ナク云イ出ルナレド一向出來ズ其内ニ又

引人モアリ日々セハリヨヲ一此間一人出來タリ但此出來ヌトハ御人鮮故ノ一明白ナリ賦リ方ハ小頭ナリ

一中番ハ三十日勤タレハ替ナリ然ニ未初テノ人ハ不來始終前ニ勤メ居シ人ガ幾度モ々々カ入替ルナリ

一下番ハ先ノ頃三人替リタレド奸或目明シラシキ者ハナキ云

右勤方ハ上ハ三人ツ、中ハ四人ツ、下ハ三人ツ、ノ法ニテ寢ズ番ニ然ニ法ノ通りハ不出來トニテ皆々内々略シ上ハ二人中モ二人下モ二人或ハ一人ノ時モマ、アリテ番所ヨ晝サヘテルナリ

一画ノ一是ハ譬ヘ顯レテモサシテ憂ナシ吾ヨリ求シトニ非ズ上番中ニ下々ノ内ノ者ヨリ頼ニ付書キシハ明ニ依テモシモ◎ヘ知レ不審ノ時ハ其番人が罪セラル、ナリ吾ハ未囚中ニテ何ハセラレント云御作法ハ聞カヌナリ

十市村ノ住茂二郎ト云男以前此ノ番ニ來リ居シ者ニ此者先ノ頃ヨリ

猫狗カニナリテ居ルナリ依テ若シヤ画ノヲ知リテ居ルカモ知レズ然ニ奴
ハ云タレハ自分モ罪セラル、ナリ此ノ者ハ正義人ト見テ居ルニ

一〇等ハ囚ヘ計ハ通ヲ止ルカ又余同志ヘモ◎ノ法ノ通り密ニシテ通ゼ
ント云フカ此間ノ書止レハサツハリ止ルカヨシト申遣リ候故ニ幸トシ
タルヲ欲右ハ云フノ筋カ立ヌ故申遣リシノニ然ヲ幸トシテ今止ルハ瓦
解ヲマテクノフニ深ク思ヘハ止ルカハ出来ンナレド一日ノ偷安ト聞
ユ

一〇、濱田良作 一右ノ通り故口等ハ兎角意ノ違フナレハ其儘ニシテ余ハヤハリ通シテハ
イカ、候哉

依 太
浪 穂 百拜

島村善之助 叔父様
島村善太郎 太郎様

島村外内 外様
楠瀬六衛 六様
三原兎彌太 三様
小笠原保馬 保様

(上田開馬氏藏文書)

〇慶應元年三月十日 (山本喜三之進ヨリ島村善太郎門田爲之助等へ)
愈御壯勇御座可被成奉賀候扱愚思フニ盟ノ一件僕京ニテ盟シタト云タレ
ハ口必ス何某ノ宿ニテ盟タソト問ウロウ其時私平收ニテ盟シタト云テハ
先達希ヨリノ云出ニ違イ又依先生ノ宿ニテ盟フタト云タレハ先生へ害ヲ
増様ナ者故盟ハ致サヌト云カ可宜様愚慮仕候猶御高慮被仰付度若御同意
も被遣候得々御序之節一同へ御咄し奉願候先右計頓首百拜

太郎様

新 太

口、監察吏
平收、平井收
次郎、瑞山
依先生、瑞山

元 敬 様

盟ノ一ハ僕エハ問イハスマイ。カト奉存候得共若問タ時ニハ右之通り答
ヘマスカラ御開置被仰付度奉存候不具

。明日ニテモ

新 太

十日認

研 様
太 郎 様
為 様

新 太

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月十日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)

兵之助、山内
豊積

静坊、登萩原
醒庵

傳、曾和傳左
衛門
依太、瑞山

◎、目付

今日ハ兵之助様御著恐悦ニ奉存候幸休日ニ付又々申上候
昨日之尊書夫々慥ニ拜見仕候先以被成御揃御勇健愛度奉賀候扱今以迄
不被成由嗚々御難儀と奉存候就るも静坊ニ御見せ候由誠ニ御噂之通
リ此之處に参りても自慢甚しく實ニ挨拶出来不申候藥も心合せぬ故一
向キ、不申先々同様之事ニ御座候誠ニさしたる事ハ無御坐候へとも最
一兩日見合其上ニ入ニ替へ候ト存居申候誠ニ形容疲衰候へともタカノ
處痛之事故決る々々御氣遣被遣間敷くれ〜奉存候

一傳ハ返事出来ぬと申事いゝ取る譯ニ御坐候哉前後之口合ぬ事故面目な
き事欲又とピンツ、タ下欲又と依太を見限りぬ之事欲一向暗愚物不解
事ニ御坐候思事ハ云ダ本意ニぬと無欲素リ平生之愚物長々暗室ニ屈居
致し居候事故時々之文面ニも不都合之事も有へし不當之事も有へし左
候時ハ其不都合不當之筋を解キ忠告致し吳候コソ眞之同志ニぬと無御
坐候哉根元◎ノ勢且兒組ノ云イ出ヲ尋候處前後不同之返事ニ付野生一

兒組、岡田以藏等自白組

人之不審ニ由ル正路ナドニ吏之勤事之様ヲ聞囚組一統之事ニ疑念ヲ生シ候故其筋有之儘相記し差出候事ニ付右前後不同之事間違ニ候ヘ其間違之筋御申越被下候ハ、孰も安心仕候處右之通り返事出來ぬト申ニ至リ尙更不審仕候事ニ御坐候實ニ是迄眞ニ憂國之忠士ト思ヘハコソ心服ヲ解キ世話ニ成リ又乍不及力之及限リ之世話も致し眞ニ異體同心よて爲國家盡力致し居候處かゝる次第ニ立至リ候上モ尙更深切ニ致し候事本意欲と相考申候地ヲ易へ相考へ候ヘ誠ニ書狀ハおろり獄外へも忍ひ直ニ談話も致し度程ニ相考候處右返事も出來んと申ハいなる子細欲愈輕薄不義之疑を生し申候右ニ付何卒返事之出來んと云譯と又過日以來之處前後不同之譯御聞糺被遣度奉頼候

一先夜貴家へ什傳ナド參リ私之不審之處無理ト云カ理ト云カイツレ何卒咄ハ有之候譯ニ付右廿ナド之咄爲御聞被遣度奉頼候

誠ニシハツケのふ御尋申事全ク余念も無御坐がてん參らぬ故ニ候間

シハツケのふ方言執拗

此之處ヨク御被遣度候

一私傳ナド之交リハ不義と見て見限り遠ザカル位之處ニ亦も無御坐候私事兼而申通りニ至リ候事故才ニ苦死スルカ終ニオヲ堪ヘヌキ永ヲニ相成欲イツレニツ合之事ニ亦此之世ヲ去も不遠事故愈不義ト見ルナレハ存生之内義絶致し置キ申度相考候間前文之處よく御聞糺之上尙御高慮承リ度奉存候

才、持ノ略

一カク度々下番ヲヤリ候事勿論万々々々氣遣ハ無候へとも實ニ不好事ナレド事之譯相分らば候故不得止事ニ御坐候間私之心事も御察被遣度候一今日も才ニ苦死スルノ期ニ至リ居ル人ト又俗用も多く酒宴發聲等致し世之風俗ニ隨ひ嫌疑ヲサケテ居ル人トと思ふ處之違も有欲然レトモ同志ハ違ハレン譯之處がてん不參何卒々々右御面倒委敷爲御聞奉願候早々頓首

十日

よ

入道様

太郎様

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月上旬 (今橋權助?ヨリ瑞山へ)

口、濱田真作
る、獄ノ略

一口等ヨリ申來分ニ干要ノ處ハ兩人有ル故承リ合スルトカ何トカ有リ都テ不解干要ノ處ハオへ告來ル様カ左ナクハ何ノ爲ゾ若ハオ組ノ詰ヲ聞テ外へ告ルカ熟思フニ万一ノ時ニ云々故今日ノ道路ヲ止ムルト云ハ更ニ合点不行今日道路ヲ止面々一己ノ考ニテ申出ル時ハ忽チ間違生シ瓦解ニ至ル譯ナリ又此上万一ノ時ハ最早一モ二モ無キ譯欲ト思フ何分ニモ一大事ト云ハ今日ニアルナリ嗚呼々々

拙劣ナレト今一度申遣度奉存候

中須、中須賀
出身ノ下番吉藏

一中須ハ疾ヨリハ實ハ見限居申候兼テ彼ハイカン奴ト思ヒ候處美稻兄弟大買故僕愚眼欲ト存居申候處先達テ以來全躰懶惰ノ由相聞候事有之美

美稻兄弟、小
如孫二耶、同
孫三耶

稻兄弟モサツハリ見限り大ニ後悔致居申候都合ニ候處今度モサツハリ見限果申候實ニ何卒今一度御幸を蒙リ彼等ノ面ニ唾キセテバ遺憾ニ希御坐候先生ニハドウテゴサリマスゾ實ニ心外テハコザリマセンカ

中オカ

先生様

口因テ如何ニモ入道君ノ御見恕ノ如ク今度ノ通路止メ來候ハ有故トト奉存候嗚呼實ニ口因テハ扱置是等ノ處論破忠告スル者同志間ニ一人モ無之哉ト思エバ、只々落涙々々 (上田開馬藏文書)

○慶應元年三月十三日 (瑞山等ヨリ曾和慎入耶外一人へ)

口ハ獄ノ中番
濱田真作ノ田
ノ字ノ略符
作ハ勤王家ニ
氣脈ヲ通ズル
モナリ獄中
獄外ノ通信ノ

此頃○ニ通路ノ疑盛ニテ既ニ番人ノ撰等云々テ通信ヲ絶云々トノ事誠ニ口ハ素ヨリ諸君御痛心イカ計トイカニモ、可恐ノ極ニ然ニ今日サツバリ止ルカハ眞ニ不宜ト思フ是迄ハ譬へ通セストモ今ハ何卒シテ通セテハ

武市瑞山關係文書第二

百二十五

秘漸ク現ハ
レ向アリメ
コトナリメ
リ注意アリ
大議論ナレ
ルナリ
七兒、岡田
八兒、岡本
曾君、曾和
八郎

プツスリ方
一音モ云ハ
◎ノ意目付

村兒、村田
三郎

ナラヌ時ト思フ子細ハ今糺明ノ最中ニテ銘々口カ違フ時ハ夫々口ノ合フ迄糺ス譯ニテ銘々口合ヘハ余^{餘カ}ニ糺様ナキ之口合子ハイツ迄モホリ入譯ニテ其内ニハ又失言モハカラレス且又口ノ合ハヌニ付テハ◎モ亦不好トモ余人ヲ引出スコニナルハ見前ニテ今既ニ余人ニ連及ノ勢ナリ其内ニハ又一ツノ七兒ノ生スルコ必然ナリ八兒ヲ見テ知ルベシ
曾君ナト只確乎々々ト云フ素ヨリ氣遣ノ至情ニテ忝ナケレト是ハ存外ノ事ノイカニ軟弱ト雖モ恐ラク同志ヲ辱ハセヌナリ宮井ノ淫婦スラ數度ノ拷ニプツスリ共云ハヌナリ談スル所ハ茲等ノコニ非ス然ニ詞ハ大事ニテ◎ヨリ問ヘハ答ヘ子ハナラズ又答ヲスレハ只小兒ノ様ナコ云ハル、者ニ非ズ大概筋ヲ立テ前後ノツマツジガ合ハ子バナラズ依テ詞ニ窮シテハ剛氣ナル人モツイ失言スマイ者ニ非ス村兒ヲ見テ知ルヘシ全ク死ヲ畏ル、人ニ非ス是等ノコハ申迄モナケレドヨクヨクヨク熟考アリタシ依テ通路ハ只今要ノ時ニテ今通路ヲ止テ銘々思フ處ヲ云フ時ハハヤハ瓦解

揚屋中番門谷
貫助

スルコ疑ヒナシ今深切ニ氣ヲ付ケ精密ニ相通シ候時ハ千ニ一ツ今ノ囚組ニ止テ治スルコ有リト思フ之絶信ノ書中ニ口等ヲ失フテハ萬一ノ時ニ云々トアリ此ノ万一ハ追々連及瓦解ノ時歟其期ニ至リテハ一モ二モ有ルマシク思フ諸君イカナル策アルヤ右ノ筋ニテ今ハ是非トモ通シテハナラヌ時之然ニ◎ニ通路ノコヲカギ氣ヲ付ル其中ニテ通スルハ俗ニ云フ角ヲ直ヲサン爲メ牛ヲ殺スノ譬ニテ所謂身ヲ引ケハ皮ガイタイト云フ譯ナリ然ル處下番ナトヲ以テスル時ハ氣遣ナキト雖萬々一危キ之今ハ幸ニ貫助ト云フ男出勤スルナリ是ハ是迄度々往復シテ居ル人ニテ同志ナリ些疎暴ナレト義ト耻トハ慥ニ知ツテ居ルナリ則是亦天幸ニテカ、ル人ノ有ルカラハ要ノコハ相通シテイカハ權道ヲ以テスレハ權道ヲ以テ終ヲ付ケテハナラヌト思フナリ

右ハ御考ノ筋ト相違ニ付囚中ノ愚慮相記シ申候素リ不文拙筆難分候ヘトモヨク御推讀ノ上眞意御汲取被下度若モ御同意被下候ハ、國家

助助ハ前ノ貫
助下同人

浪穂、島村衛
吉太、山本喜
三之進、河野萬
眞足、瑞山
治徳、瑞山
開ハ廿符ニシ
テハ廿代町ニ住
ルニ五十五嵐文
吉ニ宛タルモ
曾君、曾和儀
八郎

之大幸ト奉存候又御同意モ不被下候ハ、別ニ愚慮御坐候ニ付來ル十六
日勘助出勤ニ付必御報承リ度奉存候御不同意ニ候ハ、御報ニ及セ不申
候百拜

三月十三日

開 君
曾 君
足下

浪穂
新太
眞足
治徳

○慶應元年三月十三日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)

此間之貴墨夫々相達難有拜見仕候先以被成御揃愈御勇健可被成御渡奉賀
候然モ◎之模様ニ付通信ヲ止候様之御掛合誠以御尤千万ニ奉存候然ニ今
日ハ大事之時ニ奉幸勘助出勤之事故要事ハ不相更相通候るといふ御坐
候哉則別紙貳通囚一統之考ニ御坐候間曾廿邊御達被遣度奉頼候獄裏尙又

◎、目付
下番勘助

念入何時改有之候亦も聊差問へ無之候間返ヌ々々御安心可被仰付候先モ
右迄早々頓首

十三日

入 道 様
太 郎 様

依 太 郎
(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月中旬 (瑞山ヨリ同志)

愚者亦愚ナリノ見ノ有ル者ニテ抑カタナル始ヨリ其罪跡コソ岐度見識ハ
立サレ共概終ル處ハ推知セシヲニテ今ニ至リ全ク怪ニ足ザルヲハ云モ更
ナリ往日囚以來空シク憂苦ノ中不計通信ノ道ヲ得實以嬉踊無物可比大ニ
力ヲ得是誠ニ天幸ト不覺落涙セシナリ夫ヨリ天下國家形勢移替ノ狀ヲモ
承リ其内有慮ヲモ申述ヨトノヲモアリ愚ヲ省ミス服、臟ヲ申述シヲモアリ
追々糺明ノヲ初シ慮云々ノヲニテ亦愚慮ヲモ申述諸君ノ御論ニ同意セシ

◎、目付
七兒、岡田以藏

□、四ノ積リ
ナラシカニテ
ハ監察吏濱田
其作ノ瑞山等
ハ鳳ノ瑞山等
ニ聲息ヲ通セ
ルモ、岡田、
兒組、久松等
岡本、

ナリ其後◎ノ變動モ有ニ付テハ度々愚慮モ申述シテアリ又諸君ノ御示教ニ依テ是迄無別條消日セシナリ然處七兒ノ慮ヨリ起リテ余ニ連及シ今ハ追々廣クナル姿ニ相成リ依テ今日ノ憂慮ハ只ニ此ノ囚ニ止リ余ニ連及瓦解セヌ様而已ノコト余念更ニ無之蟹ノ穴ヨリ堤ノ潰ノ論ニテ◎ハ其穴ヲ窺フテ故成ル丈ケ精密ニ相通シ口ヲ合シ飽迄モ瓦解サセヌコト要ト存シ時々ノ詰ノ旨ハ◎ノ勢ノ見ユルコトニテ外ノ心得ニモナリ且又失言ノコトモアルニ付外ノ力ヲ得テ夫ヲ補フテユクコトニテ今迄是程往復シテサヘ失言等アリテ其穴ヲ覘ハル、一故ニ今日外通ヲ絶シタレハ速ニ瓦解スルコト必然ナリ根元不得止ノ權道故ニ今不得止通路ニ正ヲ以云ハハ瓦解ガ則正ニテ一モ二モ論ナキニ□等モ一刻今ノ處ニ居ルコトナシ又余ノ同志モ同様ニテ嫌ヲサケ知ラヌフリニテ居ルコトナキニ是誠ニ不本意至極ノ様ナレド忽國亂トナルコト故ニ亦不得止ノ權道ニテ□等ハ◎ノ勢ヲ探リ或ハ兒組ノ云處ヲ聞キ彼是相通シ余モ相互ニ周旋盡力シ何處迄モ事ヲ瓦解サセヌ爲ニ

助、門谷實

テ□等此虎狼ノ口中ニ入りテ盡カスル其心中ハ中々囚人ナトノ苦心ハモノカハト思ヒテハ又常ニ苦心スルコト之實ニ瓦解トナリテハ上ハ公子ニ係リ下ハ同志過半死スルニ至ル豈悲慟セザランヤ何トモ詞ナシ當時ハ不本意ノ様ナレド同志ハノガル、ダケハ落殘リ時ヲ見テ再興シ堂々タル御正義ニ御立戻リ被爲遊候様何處迄モ盡カスルコト誠忠欲ト相考候
通路ヲ絶シタレハ右申如ク忽瓦解ナリ然ニ諸君ノ御見識通路ノ爲ニ反テ瓦解ストノコト誠ニ誠ニ々々御尤至極イカニモ可恐ノ極ナリ然ニ別紙申如ク幸今同志貫助出勤ノコト故ニ是ヲ以スル時ハ決シテ恐ル、ニ足ラズ若又此男ヲモ疑テ恐ル、ト云ハバ余ノ同志皆同ジク之然時ハ瓦解ヲ待一統死スルノ外業ナキニ諸君繰返シ御熟考奉願候

諸賢兄

足下

囚者

兩口、濱田良
作、門谷實助

○慶應元年三月十五日 (五十嵐文吉ヨリ在獄同志へ)
 前日兩口ノ請ヒニ由テ往復漏泄ヲ戒懼シ且悲哀ヲモ贅書シテ奉呈セシ處
 例ノ迂文禿筆故果シテ諸賢ノ高意ニ貫徹セス却テ縷々御示諭ノ二書ヲ得
 テ反覆捧讀委曲服膺セリ然ルニ高意ニ不稱ノ處ハ執筆者ノ僉暴ナラント
 存スルユヘ尙一二言ヲ記シテ以今日幸便ニ諸賢ニ呈セントス尤來教ノ二
 書ハ曾子ノ批評ヲ待テ全ク貴報ニ及フヘシ廿生前書ヲ認ム全ク斷然絶信
 ノ意ニアラス兩口其官ニ居テ此等ノ妄ヲ聞キ忠告シ來ル日ニハ其意ヲ以
 テ諸賢ノ高耳ニ達之戒懼スル處ハ飽迄イマシメ嫌疑スル處ハ飽迄モサケ
 ンコヲ欲スル之口等モ亦一妄懸念アレハ憂友ノ義ヲ以告ケ來ル其意味ハ
 迂生ノ言ヲ不待シテ御推知アルコトニ贅セス
 根元前書ノ愚考ハ禍ヲ未萌ニ防キ嫌疑ヲ未起ニ避ケントノ意ニテ是迄ノ
 通り密書ヲ彼處ヘ投シ此處ヘ贈リ或ハ此人持來リ彼人取飯ル様ノ姿ニテ
 ハ自然ニ其余波盟外ヘ及フノ恐レアリ已ニ一妄其跡アリ實ニ可慎ノ至ナ

曾子、曾和傳
左衛門

實生、門谷貫
助、濱田良
作、云フカ

ルヘシ貴論ニモアル通即今糺ノ最中ニ候ヘハ吏ノ心ヲ用ル至ラサル處ナ
 カラン依テ今斷然絶信トイウニハアラサルモ此處彼處ヘ來タスコトヲ止メ
 テ嚴密ノ一策ヲ設ケ最モ簡易ニ往復イタシ度コト此レ僕ノ素念ナリ故ニ
 兩口ノ請ニ乘シ曾子ト談シ終ニ前書ヲ記シ奉呈セシコトノ畢竟嫌ヲサケン
 爲暫時御見合ノ義申上候處斷然絶信ノ様御取込ニテ噬臍ノ悔今更如何セ
 ン筆者罪有リ請恕セヨ斷絶元ヨリ好マサル處干要ハ是非共通シテハ不成
 コトニテ同意不同意ナトハ不言シテ相分リ候コトナラン其後貫生復職トキ、
 實ニ幸甚トイウヘシバ生ハ御見込モ有之義ナレハ以後此ノ者一人ニ取極
 メ又外トヘ來ル處モ一處トシ其他下番ナトハ一切通セシメザル様ニナレ
 ハ是迄ト違ヒ一際嚴格ニナリ僕輩口邊モ先ツ安堵ノ思ヲ爲スヘク且一人
 一處ナレハ往復意味モ自ラマチノナラス時ニ了然ナランカ高意如何
 右ハ二尊書ヲ得テ諸賢ニ僕ガ意ノ通底セザル處アルニ驚キ只取急キ僕一
 己ノ辨解ヲ爲シテ執筆陋書ノ過チヲ告ケン爲メニ此書ヲ奉呈ス尙此文モ

口邊、同志ノ
田、察吏即チ濱
門、谷等

亦例ノ迂僻徐々御推覽ヲ玉ハンヲ庶フノミ

三月十五夜三更

廿生拜

諸賢丈足下

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月十四日カ (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子ニ)

この間を御とふく敷次第ニ暮しよく相成候處先くみかくさぬ御き
たんよくめて度存り私事少々つゝもこゝろよく候へともまふふだ
んのそらニ不相成いたみもさしての事ハなく候へともそや五日ほどつう
じなくそれゆへちと又こゝちあしく今どんハつうじそふな心持よて候少
もく氣遣無用ニ候ほどよより又入交ニ見てもらおゝるとおもひおり候
扱此間内ハ衛吉もだれも出せ候きのふハ今橋り出ており候へともまづり
な事よて候まつくなよもかくだんの事もなく又く近くの佐藏さし
出しりゝゝらゝくめて度

醫入交道碩
島村衛吉
今橋權助

十四日

姉上さぬ

より太

(武市家文書)

おと乙との

○慶應元年三月十五日 (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子ニ)

この間を御とふく敷今日も又うとく敷先くみかくさぬ御きたん
よくめて度そんしり私事夕へあら下り三度々ふも又下りちとく下
りまぎたゞくたびれ申候されともめしもくゑ又あちもありなんよも
かくだんの事もなく候まゝ少もく御氣遣被遣ましく呉くそんしまる
らせ候萩原ハもふくめりこみ申候きのふハ春同もきてくれ申候これハ
何分下しと見るハと申事又此間かハちとくやせたよふなと申事よて候
明日ハ入交りニ見せるつもりおて候このよふこいふと色々御氣遣なれと
とふぞ御氣遣ハ御無用ニそんしり扱々ふハ休日よてけしゝらぬまづ

醫萩原醒庵
醫楠瀬春同

醫入交道碩

りな事まで候先く々なよもかくだんの御もなしもなくあらく申上りし
めて度りしく

三月十五日夜

一これハそてつのみふて候せんじやニ妙薬ミョウヤクと申事まで上番ニもらひ申候
これをこれなりよやかんでおろして粉ニして白ざとふをませせてのむと
申事まで候たれぞへたのミ楠瀬へでもいておろして御こし
一ふとん二ツ内一ツハふとん 御ちへし申候
とりあへて御こし
先ほらくりしく

依 太 郎

姉 上 さ ぬ

おと乙との

一この文前へ御とゞけ

(武市家文書)

醫萩原醒庵
醫入交道碩

○慶應元年三月十六日 (瑞山ヨリ妻富子へ)

々ふもうとく敷先みあく御きぢんめて度そんし候爰元先くかくだ
んの事もなく今朝を萩原來り見てむりむたにふよきといふおあしやく
誠よみよふな人まで入交に見てもらうといふた處が大よきかんにるく夫
か入交を願候處ちりといふきた萩原りいふふを大分よきと云ごころも
ちちとふそといふゆへ先同前といふてくじしくよふだれをなしたまご
入交がかのふてこんよ萩原が色々又ままんをして御目附方へいふたと見
へるそれを御目附方誠とおもふておるろふけさの七ツ頃かいたみしわ
この間よりちちとゑらあつた又こりもとけたよふな萩原ハもふこの
こりもありこのこりさへとけたれハゑといふおあしやく萩原ハか
りたわ大やりそあなにおあしやく々ふもまづりな事なふもそあしあし
今夜ハふとんハ雨がふるきよ先くやめ申候又々次こりへし候りしく

十六日

よ り 太

おと乙との

(武市家文書)

○慶應元年三月十九日カ (無名氏ヨリ島村壽之助へ)

過日又々尊答被投難有拜見被仰越候義夫々承知仕候扱町田方彼一條三付
申越候義有之即右之答別紙ニ相記差立申候間何卒至極申兼候得共同人へ
迄御渡し被遣度先右御願迄匂々頓首

十九日

入道大人机下

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月廿日 (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子へ)

この間と御とふく敷先くみかくさぬ御き々んよくめて度そんしり
私事まづくかくだんの事も御座あくおとつれハよふく安方いしやを
やめ誠ふくくつろき申候入交も先くかくだんの事もなきと申事きう

安方いしや
萩原履庵カ
醫入交道頓

島村新書重除
慶應元年三月
廿三日拷問
下ニ吐血シ
死ス

にち中くなをらんと申事よて御坐候又弘田と云おのしげな醫者参り仰
山ニ申候されどもかくだんの事もなくめしもくゑ味もありなんよもかく
だんの事もなく候まゝ少もく御氣遣被遣ましくそんしり扱々ふハ
衛吉も下へ落され誠ふくなんともくく申よふもなく又々拷問ニ相
成可申たらく落涙の事よて候
一この品を衛吉が内く品の品よて候まゝ衛吉方へ御とゞげ
一此多前へ御とゞげ
先ハあらく又々佐藏出候ハやり申候めて度りしく

三月廿日

より 太

姉 上

おと乙との

半兵衛ハ又明日も出候ニ付一筆御返し御こしこの本の中へ入て大事の本
ゆへよくく氣をつけてたしりにとゞけてくれへと云て御頼被成度少も

武市瑞山關係文書第二

百三十九

氣遣ハなく候りしく

(武市家文書)

○慶應元年三月廿三日 (瑞山ヨリ妻富子へ)

衛吉、島村衛

みあゝさぬ御きたんよくめて度そんしゝ私事まふかくだんなく
されとも小便の通しも澤山よて大分こゝちよく相成申候少も御氣遣
被遣ましくくれ願上り扱きのふ衛吉出二度拷問御坐候今日又出
て大拷問よてまめころされ申候誠まうなり聲を聞てでいて世話し
てやり度候へともとふもならはたゞ立たり居たりさぞやみあゝ
きもふつぶまろふとそんし候先ハかくだんの事もなくあらゝめて度り
しく
あさつての晩佐藏出候まゝやり申候私事少も御氣遣御無用

廿三日

この狀前へ御とゞけ

るすへ
ふじ

より太

○慶應元年三月廿三日 (島村外内へ實弟衛吉ノ死骸ヲ下附ノ際藩廳ヨリ申渡書)

先達て揚屋入被仰付度々被召出途吟味候處難遁事蹟夫々不及白狀追て令
牢死候段於存命は屹度被仰付筈之處令死失に付死體無別儀被仰付之

(瑞山會文書)

○慶應元年三月廿五日 (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子へ)

この間を御とふ敷又うと敷候處みあゝさぬ御きたんよく
めて度存り私事先かくだんの事もなく其内左り之方のこりハ大

島村衛吉重隆
ヨクノ意

醫入交道碩
島村衛吉、慶
應元年三月廿
三日持問ニテ
殺サル
太守様、豊範

分とけ申候又つうじもおとつぬの心んニあり大分こゝろよく御座候まゝ
少も御氣遣被遣ましくれくそんしり、授誠ニ衛吉が事ゑ、ま
まを不申た、ゆ先のよふニ存候一所同様ニおり候事ゆへ下へ行ても
おりくふと物次おもひ出しものをいをとおもふとほに下へいたとさ
ぬくそんし候事よて誠よくなんともいよふもなく候授衛吉も私も
おなじ事よて衛吉がまめころされる事なれハ私を尙さの事よて候まゝ
もふく拷問の手ぶさハとり申候夫ゆへとふぞくそやく病をなをし度
そんしり、病がなをるとまぐに又まめころさるゝとおもうと薬をのむ
きおいもなく候へとも病て死ぬるよりまめころされ方がよろしくそん
し候まゝた、そやく全快いさし度存、きのふも入交参り候へと
も先く同前と申事よて中く急々よわなをふぬ事とそんしり、授夕
へと衛吉もそふくもまみ候よし先くつろぎ候授きのふハ太守様
の御入りあり候へとも下あふもたれも出不申候又く廿八日九日と御法

事のよしニ付下番やり申候先ハかくたんの事も御座なくほらくめて度
りしく

廿五日

依 太郎

姉 上 さぬ

おと乙との

一この夕前へたしりに御とけ

一ちと又辨當のとき白ざとふ御こし

一今晚も雨ふるゆへふとんハやめ申候

(武市家文書)

○慶應元年三月廿五日カ (瑞山ヨリ妻富子)

扱どふも世の中もいあんよふニおもひ候これまでなんべんも云とふり
人々人の道を守らねハちくしよふ同様よてなんぼゑよふニ暮してもそ
づべき事又死ぬる生るハ天の命と云ものよてた、義を守り人の道

武市瑞山關係文書第二

百四十三

治徳、瑞山ノ
隠名

我ふみて死ぬるほどよき事ハなく候まゝ此の上爰元死しのふがどふしよ
ふがとふぞくみれん人よ見ら見れぬよふ治徳の女房と人ふもいと
れ候よふくれくそんし候たゞこのことをありおもひ候又く近
くの内下番やり候あらくしく

廿五日

より 太

おと乙との

まごそらのいふまゝせんゆへさつそりなをり次第出るつもりふ
て候

そらハ少しの事ゆへ氣遣あるましくそんし候

一この本前へ御とゞけ

(武市家文書)

○慶應三年三月二十五日 (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

爵々敷天氣ニ御座候處被成御捕御勇健奉賀候隨ち私事先以同様ニ罷在申

浪穂、島村衛
吉重殿

つろふ方言、
アアツタラフ
ノ意、目付

駿、藤本駿馬

候尤左り之方之疑少々解候處其替り又目ダそれ或ハ又リンシツ之様を置
梅にて一体之處先同前ニ御座候扱思ふてもく難堪ハ浪穂の事ニ御候
必一昨日も速ニ通じざつろふと存候此之處ニ死去とト不言矢張病
氣ト◎ニ唱へ置昨日頃病死と披露しつろふと存候殺したと云てト世
上の人氣ニも掛る事故必左様と存候然ニ昨夜も内へ取り仮葬式等ニも相
成候事哉と存候勿論中間中死候迎も御威光を以てする事ゆへ仔細ハ有間
敷候へども屹度確證の乍有白状せぬ事かれハ左も有べくかれども全ク確
證ハ有間敷矢張是迄之通り之形容而已ト存候駿ナド之事も皎然とした事
なれハ對決をも致させ可申譯なるに都る其様を事もかく只々無理無たハ
ある事ニ御苛政と云ふり實にく言語同断之事と存候此處之上番之内山
本池内など三人ハ數年横目ヲして横目ハ名字ヲ名乗りし人ニ御候處孰も
く只くあきれ申候是迄盜賊かと明白ある事を白状せぬ者ハ素りまも
強クしてたま〜フサグ者ハあれど未ダ殺したと申事ハ聞んと申事ニ御

御座候私事も殺さるゝ手形をとれ申候浪サへ右之通りなれば私ハ申すに及ハぬ事と存候勿論兼る居り^{據カ}よて手に忍びずよて死スル積りニ候處私ハ先キへ浪が殺されふとハ誠ニ存掛けもなき事ニ私も日々一日も早く殺され浪と同道致度頻に存候事ニ御座候然ニ只今之處ニ私も乍憚此之内ニ小便に立候もこやたれる位之事ニ候故ナニ及候ハ一トコタへも得せ候事ト存じ余り心外ニ存じ未決心も得不仕只々煩乱罷在候

一昨日海部方來り候八兒之^{十七日頃ノ此ノ書ハ御覽も被成候ト存候}應接書等ヲ見候付ハ大分

◎ニもがんづき決る連類もホラズ只是ナリニ寛大之御所置ニも相成候哉

ト存シ又七兒之口書も見タトアリ是も存外脇々へ關係之事ハ云て居ぬ平

日七兒之咄ス處ト符合スト有之候ニもしや左も有之事故ト存昨朝又海

部方報御坐候處又々々カ四人來タトアリ惣分乏摸様もよき様ナトモアリ

又七兒之書モ包込テヲコシ申候此之^四四人之内ニ^四ト云印アリ是ハ彼ノ

海部、繪垣清
八兒、岡本次
七兒、岡田次

ハ、横目

源藏、下横目
久兒、久松喜
代馬、村田忠
三郎

浪穂、島村衛
吉、濱田良作
口、濱田良作

新、山本喜三
之進、小橋清太
小、永吉
永、吉永良吉

虚言、相場ノ
極ツタノ意
斬罪ノ意

トヲマテ有ふと存候

右之通り兩度^ハノ參リし事初ハ源藏ナド云よき^ハ參リテ七兒ヲ初久兒村

兒八兒へ銘々ノ口書キ迄見セ都合之よき様ニ取リ繕ヒ夫々口チ書ヲ書キ

改メ始末ヲ付テ歸リ候由之處其後又^ハ四人參リシラ^ハ候由其内ニトヲマ

杯參リ候事ガてん不參源藏ナド始末ヲ付て參りし事なれハもふ又四人も

參る事ハ有間敷右浪穂之事ガ又此事を思ひ見れハ是亦大ニ奸謀ニ有

間敷哉ト大ニ疑念ヲ生ズル事ニ御座候御賢慮い^ハ候哉承り度候口ナ

ド之處ニ^ハ此等之趣意とよく相分り居事ト相考へ申候

一昨日も新小永印出居候趣新小ハ四度程出又永印ト一所^ヨも出タ様ナト

申事ニ御坐候是等もい^ハ様之詰欲承り度事ニ御坐候

一七兒ハ八兒之書ニ是迄之不義改心血ヲ出して云云トアリ然ニ是ハ又例

之大虚ニ^ハサラハ之場ニ至リ候^ハ譬へ^ハ等も無クとも如何様之虚言

も難計候故是コソ直段之成タ者之事故此之上手之手ニ掛り長のふてニ

御祭、毒殺ノ
意

武市瑞山關係文書第二

百四十八

不鼻セラル、方ハ寧御祭ヲ致し候事骨肉之人といへとも上々策ト存候
虚言して御國乱之端ヲ開ク且數人へ迷惑ヲ掛ヌコ此之上御上ミへ御
苦勞ヲ掛ヌコ之辱ヲ受ケヌコ就ルハ親類へ此之上之辱ヲ掛ヌコ今早
く御祭リニ相成候ハ、右之廉々ヲ免レ申候勿論是等ハ申迄もなき事定
る此之事ニ御骨折御盡力ト奉存候いるなる勢ニ候哉承リ度奉存候
一取早御承知も可被仰付候往復之事ハ貫助ヲ以艸戊へ致ス筈もしや廿へ
致ス事も有之ト相成候間折々艸戊之處へ迄御手紙御頼越し被遣度奉願
候來ル廿八日出ニ不御坐候間廿七日夜迄ニ艸へ迄御廻し被遣候ハ、よ
ろしく候尤此間艸之書ニ無益ナコハ成ル丈ケ取り省キ手ミジカク認テ
ト有リ候様覺へ申候是ハ兼不^ク申ス通り十件^ク増ても廿件^ク増ても
細ク認候ハ、さして不都合之事ハ無キ事故何分ニも精密ニ希候事ニ御
坐候漢文風ニテ事ヲ省キ短ク書シ文ハ愚ハ得サトラザル事有之候ニ付
左候不^ク何之詮もなき事ニ不候間此之事ハ又御序も御坐候ハ、廿邊初

貫助、西門ニ
同シ門谷貫助
艸戊、河原塚
茂太郎
吉、五十嵐文

十件、十行

惣分へ御傳へ置被遣度奉頼候

先右迄申上度早々如此御坐候頓首

廿五日

入道様

依太郎

尙以浪穂之葬式彼是且又○之處之勢も相分居候御坐候ハ、爲御聞奉願
候

別封御序之節御頼申候百拜

(上田開馬藏文書)

○慶應元年三月廿五日 (瑞山ヨリ島村壽之助同壽太郎へ)

鬱々敷候處被成御揃愈御勇健可被成御渡奉賀候隨私儀先々同前ニ罷在
居申候其内昨日ハ○カ王子ト云醫ニ療治ヲ受候様申來リ即王子來見申候
素リ見立ハ先孰もト同様ニ御坐候矢張疔トコシケトノコト云且又腸ニ毒
有之欲舌甚アシク且衰弱ノ甚シキコ故ニ下シタリ或ハ血ヲ取リタリハ存

○、目付
王子、獄醫

武市瑞山關係文書第二

百四十九

シ掛ケナシ今ノ處何事ヨリ事輔藥ヲ用ヒ申度云々ト存外仰山ニ申候
 右入交ヲ◎カ替シコハ合点不參尤此間入交ヲ願候處一向御聞届ニ不相成
 候故又々セハリ居候中入交來リ候故ニ御聞届ニ相成候と存シ直ニ療治ヲ
 頼夫カ其旨ヲ以◎カ届出候處矢張御詮儀中ト云其内モや藥ヲ取り來リ日
 々持參之事ニ◎カ又々入交ニ◎カいつゝあへたぞいつゝあへたぞ入交之藥ヲ吞ぞ
 ナド、上番ナトへ願ニ尋來リ居申候此之事ハ此之番人も落度ナレド◎カも
 又落度有之候事故シイテ詰上ルコト不能ナリ何分右ニ付リへ候様ニ察申候
 今日ハ亦件ノ弘田來リ見テ先々同前ト云且云何分此ノ所ニ只此儘居候
 ◎カ快氣之期有間敷些サカイクヲソリ口髭ナドソリ候ハ、可宜然ニ此之儀
 ハ◎カ之御詮儀振ニ寄事ニ付私之考ル處ハ◎カ申出ルト申事ニ御坐候
 扱此間ハ◎カ御呼立ラレノ由然ニ未御同前ニテ御出張ニ不相成旨何分ニ
 モ厚御加養專一ニ奉存候安覺モ同様之旨イカナル筋ヲ詰スルコト必々只
 ノ形容而已ト察申候然ニ御考之通り此ノ上四トナルコト不被計子細ハイヅ

弘田玄佑

サカイク、月

安覺、安岡覺
之助

浪印、浪穂即
ナ島村衛吉
海部、檜垣清
治、藤本駿馬

シマツ、野中
太内、良輔、後
伯好、長藤象次
耶

レ浪印ナドカハ御名ハ寂早上ミニ出居候事も不計候故イカ、ト氣遣申候
 一今日海部ノ書來リ候處浪穂之詰ノコト相分リ申候果シテ確證ナシ詰スル
 所ハ盟ノコトト駿ノコトノ由之盟ノコトハ勿論論ナシ駿ノコト是又皎然タル
 コトナレハ對決致サセ候事當然ナリ然ニ曖昧タルコト故ニ其事不能依る只
 之形容而已之事之形容而已ヲ以テ致シ而已ナラス責殺スト云法有之
 哉於茲實ニ論ナキコト欲ト存候諸先生之論イカ、之事故
 一◎カ之聞書御内々拜見難有奉存候是ハイカニモ誠ト存候此之上之處何卒
 幸ヲ祈申事ニ御坐候

一シマツ退役ニテ良奸又出候由實ニ大變々々然ニ右良印此頃之論ハヨキ
 ト云更ニ不解事ニ御坐候
 先ハ右迄得御意申度如此御坐候頓首百拜

三月廿五日

依 太郎

入 道 様

太 郎 様

武市瑞山關係文書第二

(上田開馬藏文書)

百五十一

包表カ
取山入道様

大建依太郎

肩皮下

下横目岡林源藏

○慶應元年三月廿八日 (瑞山ヨリ獄外同志)

一、源藏^ハ來リ病症ヲ尋ヌ逐一答^ハ云今日も御出張いかいと御尋申様ニと申事なれど其御模様にては中々出來ますまい答て委敷^ハ○へ申吳候様云歸る

下横目惣右衛門御入、容堂ノ法廷ニ臨ムコト

一、次に惣^ハ來リ此刻源へ御咄之處達へ申出候處今日は御入り被遊且又御奉行中も被出御吟味御聞被遊ニ付無理にとりつくろい出る様ニと被云、答出ても應答不出來ニ付無益此旨クワ敷申吳候様申候處又暫して來り達々申出候處小^ハ○中此處被出御吟味出來候哉と申事答て今日は此模様にては相調不申と答候處暫して又來り、只今之處申出候處何分小^ハ○中被參候趣

御意、容堂ノ

師、後藤象次郎云

ニ付致し方ナシト云テ歸る暫して小^ハ○三人來り、今日は御病氣旨なれど是非とも出候様御意ニ付心得ヨト云、夫々些々色々の事尋候付夫々答いたし其跡ニ先刻御意承知仕候へとも御見受之通りにて御意にちも調兼候間此旨御役場へ御届ケ申スト云候處達々申上候處今日は是非とも一度出候様之御意ニ付左様心得ヨト云テ歸る夫々直に呼出シニ來リ又敷ぶとんナト獄卒持參にて兩人之肩にかゝり出候處^ハ○惣揃外皆々堂々タルコト師云是迄御上々段々御吟味被仰付候處僞リヲ申何ン年江戸表黨ヲ結ヒ御上ヲ輕蔑シ京都ニ於ては高貴之御方へ出種々事ヲ申出御上之御耳ニ入り候事も有之且又御隠居様へ非禮ナ事なと度々申上色々申はるけヲ被云出へとも最早御聞取ハ不被仰付此之上當罰被仰付候間其分ニ心得ラレヨ右之通云々様ニ覺申候素リ痛強ク無言ニ答ハ出來不申候處小^ハ○カ答ハイカト云候へとも無言にて居候處立れよと云て又々獄卒之肩ニかゝりよふく歸り申候無法と云ても實にくく絶言語申候

一、申開ハ御開取^{開カ}ハナイ當罰ト云ヘハ致シ方ナキト
 一、必當夜下ヘ行き打首カ割腹カト居リ居候處其様ニも無御座多分皆々同
 様ニ申付て置て同時ニ所置スル^ト缺ト存候

(田岡正枝文書)

御いんき様
山内容堂

○慶應元年三月廿八日 (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子)
 みあゝさぬ御き々んよく候とそんし^り私事先^くかくだんの事も
 なく候處々ふハ御いんき様御入^りてむり^り出よと申來り候ニ付むり^り
 出たち^いぬみり^りおこりてきた時^も物をいふ事^が出來んと申てこと^と
 り候處又^く小[○]付など參り何分御意^も付ねへておつてもとふしてもせ
 ひ^く出よと申事^もてなんとも^もまみちもなく出候處^もこれまで色^く御吟
 味被仰付處色^くうそを云^ニ付もふ云^もける^けハ御開取り^ハな^ハニ付京都
 よて高貴^之御方様へ出色^くの事申上又御隱居様へも色^くくたらん事

前のちちさん
島村壽之助

小畑孫三郎正
路

など申上候ニ付御見付^よて當罰^ト被仰付^ニ付其通り心得よと申事^もて候私
 む又いたみ候ニ付御受もせ^ば候處[○]あみあ^く引入^りそれ^らりへり申候
 誠^まく^くけし^らぬ事^もて言^さる^けハもふ聞^えんといふとどふも相
 成不申實^ふく^くむり^むた^れて^げも^くゑ^らん事^もて候今
 夜^ハお^ろる^さ打首^り又切服^りと存候處先^く役所^も引^ケ申候々^ふハ前^の
 おち^{さん}と揚^り屋^入のよし^さき^また^ごる御聲^をて^たい^くゆ^あしく^おも
 ひ候先^も出^た時^ニおち^{さん}を見^よふと思候處一寸牢番^がおち^{さん}のおる
 處の戸^をた^て候ゆ^へる^見ば^{さん}ねん^ニそんし候定^め小畑^のなら^びへ御
 入り^とそんし候扱^おち^{さん}も今更揚^り屋^へ入^る事^ゆお^ろる^ゑら^ん事^と
 そんし候誠^まく^くい^らよ^もま^んが^な事^もて候^もや明日^ハど^ふなる
 や^らま^れま^もふ^くこれ^がや^んの御いとま^こひ^とそんし^り申^迄な
 く候へとも私事^どふ^{なり}てもみ^まん^な事^のなき^よふ^くま^くそんし^り
 外^まな^あも^いのこ^ま事^も御座^{なく}御き^んよく御暮^し被遊^度そんし

りりしく

廿八日夜

姉上さぬ

おと乙との

一 小笠原姉上さぬお琴へも又外へもよろしく願上りりしく
 一 もし明日もまぶ御さそいのなき事なれハ明をん佐印さし出候
 一 今晩雄平をやるふとそんし候處どふもさむおしく候故さしひるへ候
 一 前の御ささぬあさそく御なかきとそんし候 (武市家文書)

○慶應元年三月廿九日 (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子へ)

夕へお御多被遣有りあくふくそんしりり今日も又くうとく敷候處み
 あくさぬ御きたんよくめて度そんじりり私事今日も大分よろしく髪
 をゆひゆなどつあひこおよく候誠よくやちもなく御氣遣被遣候よし

それゆへ尙更病がまし候色く御まんまの上ニこのよふにむるうて大
 ゃく御氣遣をあけるとおもふと尙更氣をいため病まし候まどふぞ
 く御氣遣つあむされましくくれく存りり私事誠よくそれほどの
 事よてわなく半兵衛などよも御尋被遣度存りりむるなれハむるいと申
 上候ま又其時ハ御氣遣もつあむされ度そんしりり先ハあはく申上
 りりめて度りしく

廿九日

あも上さぬ

より太

きのふもなふも王子がきたたんど役所なきゆへ見る事出来ほりへり申候
 明後日見にくるもほよてりへり申候
 王子ノ薬も春同などが見てさしあゑる薬といへハ春同ニかつておるも
 先く同様の事ゆへくまりもせゑだしてのむつもりよて候
 誠よくめしのよふくゑる事ハ三つでも四つてもくハ申候扱きのふより

島村衛吉、慶
應元年三月廿
三日拷問ニテ
死ス

セや衛吉が初七日あゝくくくむこやくくくくゑるしなるが衛吉も
爰元も同じ事ぞよそれゆへなをり次第よまめころされることこそほんも
ふとなみぶなるふにおもひ候先ハるふくくくし

より太

一此久前へ御とけ明日又半兵衛出候ま、前々の返し御こし

○慶應三年三月廿九日カ (瑞山ヨリ獄外同志へ)

好物之尤奸タルハ師直が昨日云ニ粟田ノ宮様へ様くの事ヲ申上てお
る又御隠居様へも様く云まじき事ヲ申上ておると云て黨ヲ結び云々殊
ニ粟田宮へ云々と頗る仰山ニ此之處へ深く罪ヲ付申候○然ニ粟田ノ宮様
へ出てツマラン事ヲ申上ゲシ事真ニナキ事之故ニ何ニヲ言上シタゾ承リ
度シ實ニツマラン事言上シタナシト相尋候處夫ハ御隠居様が御聞キが

師直、大監察
後藤象二、郎
栗田ノ宮、後
王久瀬宮朝彦親

御隠居様、容

有て居ル然レ共御隠居様ニモ時々其事ヲ書キ付て御イテハ無キ事故何と
申事は御わすれなれど様くの事を云ておるとの御意之又御隠居様へ
言上シタハ何之事ニ哉ト尋候處色々申スマジキ事ヲ言上シテおると云申
候

右○印之處カハ○へ云ル前ニ小○來りて粟田宮云々の云シ時之大略之
右之事ハ赤心無キ事ニ不實ニ無失といふかげにもひどき事にて候小○等
がたゞ御隠居様へ申上タ事ハ是ハアナタガ云はんと云ても上ニ御聞が有
ておるアナタが知らんと云と御隠居様立ヌ自分^{居脱カ}が立て御上が立イデハすむ
まいなど、無理無たいに罪ヲシイ付ケ申候此之事小○ト應接之
○へ出タ時ハ今朝さ出候通り之
右之粟田宮云々ナド之事ハヤ獄卒ナドハ聞キヨツテモ誠かとおもふろ
ふと存候

小○、監察場
無失、冤枉ノ
意

○慶應元年三月下旬 (河野萬壽彌ヨリ瑞山へ)

御書附ヲ見テ不審ノ廉々奉伺候

古兒、村田忠
三郎、岡田以
藏七兒、岡田以
正路、小畑孫
三郎、國老山
内下總

一古兒ハ左モアルベシ七兒ハ如何是杯モ法ニ置ニテ六ヶ敷筈歟ト思フ
一正路下總公ニテ暴論ノ一ヲ以罪ヲ鳴スト云フ甚不解夫ハ僕等モ同行ニ
テ有之シ也既ニ美稻モ同行ナリ尤モ發言ハ正路ナレド根元同意ノ一ハ
顯然故其處ニワカチハ無キ道理歟不而已其暴論ト云ハ自訴スル云々御
名前モ出ル或ハ杜鵑ノ一條サヘ御同意ナルニ云云ナドト咄ニセシナリ
然レ是ガ出ル日ニハ下公モ只ハスマス譯大變ニ至ル筈ナリ

杜鵑ノ一條、
四月八日吉田
元吉暗殺一條
下公、山内下
總公

右ハ若僕等同行ノ時ヨリ外ニ有シ一ナレバ不知如何先生御存意御座

候哉

◎、目付
森金、森田金
三郎

一◎え得手勝手甚哉々々無理ニ罪ヲ附ル日ニハ又夫レナリノ道ヲ立ベキ
ニ森金杯ハ決テ◎モ疑ノ晴タト云ニハ有マシ夫ヲ寛ニ處スルニハヅカ
ノ見附位ニテ酷罰ニ處セントスル何事ゾ又入道君ヲ頭取トテ罰スレバ

元敬ハ一番ナルベキニ是又沙汰ナシハ如何
一先生無益ナガラ今度御病隙候得モ御勉強被成御吟味願出給ひて今一度
御申辨被成ても如何と奉存候
尤も是モ私の老婆心歟

西門、門谷貫
助、川原塚
草茂、川原塚
茂太郎
吉香、下善吉
吉香、下善吉
海部、楡垣清
治

一西門實ニヤチガ御座リ升センノウシ
一草茂カラ返事有ソウナモノデ御座リ升ガ不相更因循歟
一昨夜吉吾ハ御聞可被成海部之書狀モ早々と云事ニ有之由なれば其心
得ニおおこしそふなものなり頓首

シム、山本喜
三之進

今日ハシムガ出申候

先生様

ま 拜
(上田開馬藏文書)

○慶應元年四月三日 (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子へ)

前、島村壽之助方

先くみかきぬ御き々んめて度そんし私事もついでよろしくこのもよふなれハ明日頃ハ出るつもりにて御座候先くかくだんの事も無御座候前へ用事あり候まゝさし出らるらうと

三日

よりた

姉上さぬ

おと乙との

一この状前へ御といけ

一くろせき 明日よても明後日よても御こし

丑りいで竹など毎日くの事よて雨ともふるとたまるまはと脱カ候

(武市家文書)

○慶應元年四月六日カ (瑞山ヨリ妻富子へ)

おとついの晩の多慥ニとく候々ふのよき天氣候處又くあぢニさむき事ニ候みかきぬ御き々んよくそあふふじめて度存候爰元かくだんの

前のおちさま、島村壽之助

王子、獄警

事もなく候へとも次第ニいふとふのきこれたけのよく相成めしもくゑまきるほどくゑ候まゝ少もく氣遣無用ニ候扱前のおちさま先くかくだんの御ふしんもなきよし大よくつろぎ申候もふくさしたる事もあるましくとそんし候きのふ々ふハまづつりな事よて字どもかき申候扱きのふも王子参り先くかくだんの事なく御同前といふ事よて候王子のきものゝとだぎのゑりを見候處アカハ丑のよふニなりそれダやおれてきてており候これよてやぶいとをとおもひおろしく候されとも王子よかゝりさしてよふもなふされとも又包るうもなふ候ゆへ先くりへぬつもりよて候自分よかへても又目附方やめてきたりまゝゆへもふく次第よしておろふとおもひおり候又く長くなをかねの又醫者候へるろふとおもひ候先く死よそふまをこしもなくほこりやとも氣遣ハなく候衛吉の事よてもふまぢくこの前よてまめころしておき衛吉の内へハ下もへもどりせんじやとりんよて病死といふていき候よし御國中

島村衛吉

中島作次後ノ
男爵中島信行

の人のうそをいふをたゞま○がうそをいふてハたまふんく明白ニ拷問
をしようて死んだと云へハよまうそをいふたちいくものりこの前で
死だ事ハみかへ見て知ておる事おのしや御○かうそをいふて國ダ
おさまるものり扱このりき付の去年西之中島作次といふ人の出ほんを
る時よりきおたのよし誠まじづり十九位よてこの位の事をりき此りんダ
へハリんしんよて候ゆへ一寸うつし候保馬よでもよませ御聞これまでハ
るより人ハ水戸邊ざりあるとおもひおり候處御國よもこのよふな
人たんとあり候ニ御上のおさめあるさびるきゆへ誠まじづりさんねんな事
よて候扱又く近くの内下番やり申候先ハるくめて度りしく

六日

より太

おと乙との

一この夕前へたしりに御とけ
一姉上さぬへもよろしくとふそく氣遣のなきよふくれくそんなし候

扱出よふしよふもとゝくにいゝんげあそのまほのことそんなし候今出よ
ふしよふむるよりせんがよく候出て又も入バどふもうるさく候ころさ
るより又も出る事なれハやんとふも出るがよく候 (武市家文書)

○慶應元年四月五日 (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

一昨夜之尊書且西門へノ御書共慥ニ拜受仕候先以今日も又々寒事御坐候
處被成御揃御勇健可被成御渡奉賀候隨私先同様ニ罷在候間御安心可被
仰付候扱御應接書拜見いゝ取る事扱○之勢更ニ不解事ニ御坐候京師御在
勤且又森山金等之事全ク罪を程之事ハ有之間敷三年之御預今更呼立右
等之詰問ハ何事ぞ三年之御預ケ一向不引合之事ニ尤此後之詰等之事ニ
至り候程難計候へともを以詰スル事なれハ必揚り屋入と可相成之處其
事なく候上と取早此事ハ有間敷扱と愚慮仕候又盟之事ハ連類廣く候故是
又出さぬ事扱と存候然も何扱小過ヲ掘り夫ヲ以罪する事扱いつれ屹度罪

西門、門谷實
助

◎、目付
森山金、武政
佐喜馬一件

△、吉田元吉
暗殺一件

海部、檜垣清
治、横目
阿部、即阿
部川本書次
郎、判決
卷開、濱田良作

名を聲ス事ハたとへバ殺しても虚言ハせぬ事ゆへ○
左それハ是迄之先例ハなれとも矢張監察罰として大赦ニ掛ケ候事欲當
時非常之場合ニ付夫を口實として監察罰ニ是る欲左右せねハ小過ヲ以
赦ニ掛候ハ、もふ罰せる事ハなく相成候故察ニ罰を付る事欲或ハ又小
過形容ヲ以恐れ入ルせ夫を仰山ニ罰を付置て赦ニ掛ケる事欲何とも
監定出来不申候昨日海部之書來り候處又々二人參り海部ト阿部ト之口
書ヲ以月日或刻限等之違之處ヲ口ヲ合せ候由いつれ不遠卷開ト相成候事
欲○之勢も些々凶なと聞へそふな物と存候いる様□同意之輩五人位も
有之由實ニ々々々々大幸千万ニ御坐候
先格別無御座右御報旁如此御坐候頓首々々

四月六日

依 太

島 道 様

坐 下

(武市家藏文書)

太守様、豊範
おちさん、島
村壽之助

河野萬壽彌

○慶應元年四月八日 (瑞山ヨリ妻富子へ)
々々の多たしりにと、き候々ふも不相更うと、敷候へともみか、御
き々んそあふじめて度そんし候爰元大分こ、ろよく相成候ま、少も少
も氣遣あるまし、くれ、そんし候扱々ふ、太守様の御入遊されちき
に御歸座ニ相成申候扱又おちさんぬも御出よて々ふのふしぎに二度御顔を
見うせし、不覺涙出申候々ふもおちさんぬも御出よて々ふのふしぎに二度御顔を
不相更むりな事とそんし候又川野も二度出申候どふりと氣遣候處先、
ふじにて其外誰も出候えづりな事よて候扱たそこを入るものちと、よ
そき申候ゆんなもの入ておつて、ナトきた時ニ外へ出さんといひんた
そこをのむさへ、えん、扱又めしのさ、ふも玉子とちめつそ
ふむまりつた扱々ふも川野へむりむた、何分近、の内ニさ
みまると見へ申候先、かくたんの事もなく、めて度りし、
明晩ハ佐藏出候ハ、又、さし出候

八日

よ り た

おと乙との

姉上さぬへもよろしく

一この多前へ急ニ御とつけ

(武市家文書)

園村新作元治
元年四月八日
入獄

一番よき人、
一番正義ノ人、
ノ意申候、下
番ヲ使ニヤル
ノ意

○慶應元年四月八日カ (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子ニ)
先くみあくさぬ御きらんよくめて度存候私事まつくかむる事もな
く少しハよきよふニ御座候まゝ少もく御氣遣つる見されましく呉く
存りく扱々ふハ又もるく追手筋おてすぢのその村此南うふへ入申候誠ま
けしるらぬ事マて候まごなんの事やふむあり不申これハ誠ま士でわ
一番よき人なるにどふゆふ事やふむあり不申氣の毒千方ニ御座候扱先
くかくだんのもなしもなく前へ用事あり候まゝ又く十一日かやまみ
と申事ゆへ其内よむやり申候先福くくめて度りしく

○慶應元年四月八日夜

太

前、島村家

姉上さぬ

神掛リ、園村
新作ノコト
□、監察吏濱
田良作ノ隠符
其作ハ勤王黨
ニ聲息ヲ通ズ
ルモノナリ
西門、牢ノ中
番門谷貫助

一この多前へたしりに御とつけ
○慶應元年四月八日 (瑞山ヨリ島村壽之助へ)
御揃被成御勇健ト奉存候随私先々同様御安神可被仰付候扱今日ハ不料
神掛リ隣リへ入り驚入申候此ノ人ハ今日晝頃迄外輪物頭相勤居候由晝過
御免ニナリ直ニ御預ケ直ニ揚屋入直ニ吟味ニ出申候詰ノ筋ハ則別紙の通
リ神掛リ之書ニテ御座候是亦全ク確證アリテノト不被思□ノ邊些々何
扱相分リ候哉且又其後ハ呼ニモ參リ不申候哉承リ度來ル十一日ハ西門ノ
出廻リニ御座候間何角承リ度先ハ右申上度如此御座候頓首

武市瑞山關係文書第二

百六十九

八日ノ夜

依 太郎

取山入道様
極内々

(上田開馬藏文書)

前二別紙ハコ
レカ
下總殿、國老
山内下總

○慶應元年四月上旬 (圖村新作ヨリ瑞山へ)
御うゑさの處委細承知今日御詮義 二之御丸へ申上を◎不審何故ニ申上
候やト申候ニ付谷龜之丞下總殿馬場ニ希吉田元吉を切候者有之趣咄御坐
候いゝ事も合点の行ぬ咄向論開捨置候處不日成大事有亦々外役人も不殘
切候様説有之趣承右故直様御目通り之上右之通申出ハあより委敷候事御
不審とモ相察候得共島村壽之助ハ委敷申上候様申候ニ付荒方之處申出余
ニモ格別之詮義も無之幾度出るも外云様無之先當分病氣

(上田開馬藏文書)

○慶應元年四月十日カ (瑞山ヨリ同志へ圖村新作ト獄吏トノ問答ヲ報スル書)

才、獄ノ略符
神、圖村新
◎作、目付

△、吉田元吉
暗殺ノ時トイ
フ符號
主公、藩主山
内豐範
總州、國老山
内下總

國老、深尾弘
人

一昨日歎九ツ頃獄卒來リ隣ノ明キヲ改テ是テヨキト云テ歸ル依
テ入才アルト心得居候處豈料ン神ン之暫シテ◎之會へ出ル夫ヨリ歸リ
承シ處左之通リ

一△ノ時ニ 主公へ拜謁シ存慮言上セシハ誰カ聞キシゾト詰ス神ン答ニ
總州之馬場ニテ谷龜カ聞ク素カ不信居候處豈料ン眞ニ大變アリ驚キ入
居候内又々同所ニテ同人又々其ノ役人不殘切ルケナト承シ故實ニ不安
事ト存シ不取敢御前ヲ願右之風説有之候ニ付一ト先皆退ト被遊候方此
爲ト愚存之儘言上シタリ

◎詰テ云其切ルト云人ノ名ハ誰ソ定テ聞キツロウ
答ニ不聞

◎云ケ程ノ大事ノヲ言上スルニ其名モ聞キ糺サス甚聞ヘン夫ハ虚テ
有ロウ

答今考候而ハ御噂ノ通リナレド其節ハイカナルト歎弘人殿ナド舉家廻

武市瑞山關係文書第二

百七十一

番ト云程ノコニ實ニ騒ケ敷種々心中ニ疑モ生シ候故聞キ糺ス方言上ヲ急キシ之云々

ハ、横目、ウケハ、方、言、題、々、シトノ、意

一右之一事計リ叟々タル由之◎組總揃之内ニテ師直一人外ハ無言
依太甚氣遣候故ニ先ツ神ノ心中ヲ聞キ糺シヨク固メテ置迄ハト
存シ明日ハ病氣ニテ先ツ出ナト申シ通シ候處神ノモ幸少し病氣ニテ夫
カ不出然ニ日々促ニ來リ或ハ醫ヲツレテ來ルヤラウゲ一おかしや

一階、未改、或ハ一層、此、上ニモナドノ、意カ

一應接中人ノ名ハ勿論不言◎亦余人ノ名云ハサル由之
一此ノ休日中ニ固メ申候然ニ異表之考モアリ
一トクセ有ル流其上愚之固メル故大役之大概ニ動カサヌ積リ之先御
安心然ニ受ケ合ハ出來不申候故尙諸君モ申迄ハナケレド一階◎之處へ
開耳カヲ御立奉願候拜

依 太記ス

諸兄坐下

海部、檜垣清、治八兒、岡本次、郎

一海部之書八兒之書入道之書共夫々慥ニ拜受夫々慥ニ破壊仕候間御安心
可被下候 (上田開馬藏文書)

○慶應元年四月上旬カ (園村新作ヨリ瑞山)

一先刻御申越夫々承知御考之處待^{待カ}の本意大に力を得たる心得になり候

一しづかに落付て云ふ事承知

一つめ上げられても恐れ入られん事承知

○慶應元年四月十日カ (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子)

御多^御有るもくそんし先々みか々々御きんよくめて度そ
んし^り私事少しづつころよく候ま、少も御氣遣つる見されま
しぬくれ存^り扱きのふハ園村ガちも見る候ていしや参り候々

園村新作尙實

王子、獄醫
むら、方言病
ノ激變ノ意

雨森源右衛門

ふむ王子も参りきのふハ御むふでもあつた^{マ、カと}とひ申候私を又外のいし
やダ見え來と王子とおもふたと見へ申候園村もやんの當時の事よて候
これハ兼るる人殊ニ又よき人物故色ノ^下のそなしいさし候これも殿様
へ存じよりを云た事と申事誠ニ〜もとや言ふもなき世の中よて候と
んと雨森のとふりよて候扱又園村の女房ハ雨の森がいており候これも誠
にふしあせの人と存し候自分の親も三年牢ニ入又てハしゆり牢へ入色
〜世の中あふし弱^マ世な人もあるものま^下其上ニ兄弟ハ去年東へつ
〜ほふニおており此間出はんいたし候よしよてさとつハ園村ガ御目
附へとつけて行候よし氣のどく〜園村ハ誠ニやんとふの人ゆへそかし
も間ガあひ何へんつごふよく茶もすみも一所ニし毎日〜かしなともふ
ハ候扱先〜かくだんの御咄もなし又明日ハやまみのよしニ付其内よ
又〜やり申候めて度りしく〜
十日
より太

姉上さぬ

おと乙との

今日よき^{こめ}参り醫しやも入交りでもたれでも御自分のよき人ニかゝると
云て参り申候夫ゆへ近〜の内又入交りニりへ申つもりよて候
一この久前へ御と、け
(武市家文書)

依太、瑞山、
十三、士、
十、村、二、
小、島、之、
野、村、孫、
同、孫、三、
野、助、三、
村、次、三、
垣、治、三、
権、助、山、
三、郎、本、
三、郎、安、
覺、之、助、
吉、之、助、
吉、之、助、
作、吉、
團、新、

醫師入交道頑
二道生ニ
作ル横目
前、島村家

○慶應元年四月十一日 (因獄同志ヨリ川原塚茂太郎へ)
細翰儘ニ拜受先以諸兄御壯健不相更御盡力御苦心い^り計ト奉存候暗地孰
も無事御安神可被下候
一^{圖ノ}神^マニ之事一入御氣遣御尤千万ニ候幸依太ノ隣ニテイカ様トモ咄
出来申候則別紙之通ニ候間先々御安心被下度候
一近日十三士ハ皆解ノ由實ニ々々々々國家ノ幸ニ御座候右之内西弘前要
トハ誰ガ事ニ御坐候哉承リ度候

武佐、武政佐喜馬
○ノ直リシ時目付ノ改替セシ時ノ意

一武佐ノ一氣遣居候處病氣ナレハ決テ氣遣有間敷其内ニシム御作配アリ
タレハ子細^{ナ脱カ}シ安心々々武佐ハイツ迄モ先ツ病氣ヒテヨシ◎^リ直リシ時
快氣ニテヨキト存候

海組、榎垣清
内衛手ノ虚、田
古川、村田忠
三郎、岡本次郎
久松喜代
馬、容堂公
公、濱田良作

一海組井手ノ虚ニ決候依太ハ閉口々々然ニ是亦虚ヲ咄氣遣ナシ古川ノ處
ハ其筈ト存候岡久限位ハ大幸ニ

美稻、小細孫
二郎、河野萬
真足、河野萬
毒彌
松之丞、渡邊
松之丞

一公御行跡日々皎然ト聞胸フサガリ何トモ言語同斷之奸黨乍其筈荒ヒ
様甚シ死シテ後恨ヲ報シ主公ヲ護ルノ外暗組ハ無御座血涙々々
一公ノ盡力嬉シキ極リナシ既ニ昨日源家初テ見舞ニ來リ醫ノ事盡力シ
テ吳候ヨシ承ル自然ト正ニ歸シ可申大幸々々

美稻、小細孫
二郎、河野萬
真足、河野萬
毒彌
松之丞、渡邊
松之丞

一長ノ勢動キ候説是亦幸ニ至リニ
一同時ノ美稻ノ解ケルニ真足ノ解ケヌハイカナル道理ゾ真足ノハ何ヲ以
詰スゾ實ニ不正之甚キ之尙又是等ノ處巨細御聞キ糺シ奉願候
一松ノ丞ノ一事左モアルヘシ御諸君別ニ策モナキ物歟

海部、榎垣清
七兒、岡田以
藏、後藤長
師直、後藤長
輔、後藤長
二郎、後藤長
才、後藤長
森、後藤長
太内、野中
吉田元吉
暗殺一件

一海部ノ書ニ七兒ノ師直ノ妓遊謾言ヲ開口ノ暗組ハ同意ニ素リ諸君ノ
高慮ノ通り益ハナケレドオニ至ニナレハ右ノ事ヲ論ス論セン違有ルマ
シ若師直退キタレハ大ニヨキニ
一先達以來◎ニ應接スルニ森トシマツトハ同意様ニ聞ヘタリ大町人ハ青
酷ヲ好ミ△ヲホル勢ナレド
右ノ兩人ハ左ナキ様ニ見ヘ候故片一方ハ何レゾ退ト存シ居候處果シテ
シマツト森ト退キタリシマツトハ真ニ此頃ノ勢ハヨキ様ニ思フニ口ナド
ノ論イカド
一思フニ今ハサツハリ奸黨計トナリシ様ナリ森ノキ候故ニ此後ハ奸ノ略
謀行ナハレ可申大息々々
先右御報迄早々頓首

十一日認ム

卿 君

暗 方

依太ノ病氣御懇ニ難有時々御尋先ハ格別無ク候其内痛ハ遠ノキ候處其替
リ惣身ノシビレル増シ申候然ニ當時死ソヲニハ決テナク候間御懇念被
下間敷奉存候
(上田開馬藏文書)

○慶應元年四月十三日カ (瑞山ヨリ姉奈美子及妻富子)

この間お御とふく敷又く今日もうとく敷候處みあくさぬ御きり
んよくめて度そんしり私事も大分ころよく相成候ま少もく御
氣遣被遣ましく脱カ存り扱一兩日休日よてけしおらぬまづりな事
園村もちとむる候處もふだんのとふりニ相成日くそなしなど仕候
これハ武藤などハちのひ内おら時くんまきものおこし時くもらぬ
申候扱今月ハまご休日ガたんと有よし十五日十七日廿三日廿五日廿七日
九日御法事これほど御座候よしきのふ横目ニ聞申候扱月日の立ハそやきものよ
てはたるの時節ニ相成そや又ほふるをもらぬ申候今年ハこむんもむる人

園村新作尙實

武藤小藤太
んまきもの
滋味

内村元衛、瑞
山ノ甥

おみち、おこ
や共ニ瑞山の
姪

なぐた紙へ包ミ有之候扱竹馬も毎日くたまるまゆ仲吉もよふせを
出はろふと存候扱又内村元衛ハ御目見へをしましたるまごて御坐候哉
先の頃内村の近より下番出候ニ付きのふ一寸寄てくれへと頼候處今日
参り承り候へハきのふより候處みあく御きりんよきと申事承り申候
おみちおこやなともよふ手ならぬもいきまはろふ又田内のおとさんな
とみあく御同様の御事とそんしり
扱おとつハ園村り入交ニり入り入交り来り一寸あひ誠よねんごろニ申
候扱王子もむるぶんよろしく又見立も入交なとも同し事よて替へてもさ
して替る事も有まゆりと存居申候まつく當時王子のくむりをのみ又聞
ねハ入交へりるもほよて御坐候先くなんよもりくだんのもなし御座
なく又二三日の中下番さし出しり先ハはらくめて度く

十三日

よ 太

姉上さぬ

武市瑞山關係文書第二

百七十九

おと乙との

一このみ前へたしりに御とゞけ

一この間濱の人々こんな歌おこし申候

歌調カ

(武市家文書)

西門、門谷貫

◎、目付
神、園村新
作

○慶應元年四月十三日 (瑞山ヨリ島村壽之助へ)

一昨日西門に御託之尊書儘ニ拜受先以又々鬱々敷候處被成御捕御勇健奉
賀候隨ち私先同様御坐候間御安慮可被仰付候先一兩日と休日ニお替事も
無御座候◎之勢些々相分り候哉承り度候扱神ン御存之通り之僻人故異論
ヲ出しあけ固メルニ甚六ツケ敷口ニテ論シ候事出来候ハ、都合ヨク候へ
とも密なる事ハ口述ニ相互ニ談シ候事番人ハ不都合故ニ其事出来不申書
面ニテ往復スルヲ故ニ千万六ツケ敷殊ニ神ンモ中間之愚筆故考之筋之
不相分當或千万ニ御坐候明日ハ出る勢ニ御坐候先々氣遣ハなく候へ
とも實ハ薄氷之心地ニ御坐候實ハ不都合なれと小供ニ教へ候様ニ申聞

傳、曾和傳左
衛門、上田楠次
補、川原塚茂
太、虚吐キ出
郎、白ノ意

候辱シメタリ憤ラセタリ或ハ泣セタリ骨ヲ折申候私ト同詹ニ相成候事此
之上之仕合ト存居申候實ハ神ンハ傳楠茂ナト初大抵名モ知リ事實明白ニ
付虚ヲ吐キ出シテハ瓦解之噫呼心痛々々
別紙神ン之失言尙御考慮爲御聞奉頼候先別事無御座右迄得御意度如此御
坐候頓首百拜

十三日

よりカ

入道様

横目

今月之休日昨日來リ直ニ尋候處左之通り

定 祭リ 御祈禱 定

御法事

十五日十七日廿三日廿五日廿八日廿九日之由其内明日神ン出候ハ、應接

之事明後之休日ニ差出可申候

一私病氣痛ハ遠フキ候へとも未疑リ解ケズ惣身之シビレ候ヲ増シ申候余

武市瑞山關係文書第二

百八十一

王子、賦醫
入交道碩

ニアシキ所ハナク候王子ノ云所ヨク、堀リ入聞キ糺シ候處入交ナト
之云所ト同様ニテ赤心ニ療治ノ處見届候故今暫ク服藥仕候ト存申候
惣身ノシビレルハ衰弱疲勞故ト云々然ル時ハ人參ブシ等ノ輔藥ヲ可用
款トイヘハ今ノ處ニテ右兩藥等ノ強キヲ用ユル時ハ此凝リ必癱トナル
一癱トナリテハ大變ニ付今ハ輔ト凝リヲ解クト兩様ヲジツハリヤリ立氣
長クソロ、ヤラテハイカント云云當時死ニソヲニハ決シテナク候間
必々御懸念被遣間敷奉存候拜

ツツハリ、方
言柔カニ

一別色々ノ書キ付御覽ニ入ル者てハなぐれと其儘差出申候

ゴドチ、方言
呆レルコト

神ノ書ノ分カラニハゴトヲよざたと有りマ、
タレド破リ申候今有リ合入御覽申候

一別封海部之留守へ慥ニ届候様御頼之事奉願候

(上田開馬藏文書)

海部、檜垣清
治

○慶應元年九月中旬カ (瑞山ヨリ獄外同志へ)

一神ノ之失言左之通

神ノ、園村新
作

△、吉田元吉
暗殺ノ

◎、目付

△ノ時御目通言上ノ終ニ今日私ノ言上仕候事ヲ役人ヨリ 御上ミエ伺ヒ
候ハ、御參勤之事時勢イカ、敷候ニ付得ト御考慮被爲遊候様申出タトデ
モ御意被遊度ト申上相仕舞候由ノ處◎此ノコトヲ 御上ヨリ此頃有ノ儘拜
承シテ居テイカナル譯ニテケ様ノ偽ヲ御意被遊様ニ言上シタゾ御幼年ノ
君上へ偽ヲ教ヘテ言ハスルハイカナル主意ゾ云々ト大ニ詰セラレテ大窮
シ自分ノ身ガコイニ申上タニ違ヒナシトカ答へ候由ニ

此ノコト只今甚後悔シ何トゾ取り直シ様ハ有ルマイカト申事

一此間ノ勢◎ゼンタイ不意ニ呼立大ニ權威ヲ強ク頗ル嘸々ト云候由ニテ

神ノハ師直ヲ見ルト早目カ見ヘサツタト申事夫故前後忘却ノ由之ジコ

考ヘヨリテ右ノ失言ヲ思ヒ出シ後悔此ノ一事ト申事ニ

右ノ失言色々愚慮仕候得共云イ放シタルコト故ニ何トモ不相成些、ヲカ

師直、後藤象
二郎

シキ申分ナレド左ノ通り云イ直シテハイカバト存シ神ンへ談シ候處神ン同意之

此後◎ヨリ右ノコトヲ專ラ詰スルコト疑ナシ其時ニ私身カコイ云々ト此ノ間申上候得其實ハ左ニ非ズ彼ノ騒々タル時ニテ右ノ愚存申上候處乍恐御幼年様之御事故ニ一入御心痛被爲遊候様奉伺イヅレ言上ノ筋余ノ事ト違ヒ御役人云々ノコト故ニ有ノ儘其御役人ニ御意被爲遊候事御迷惑被爲遊候ト奉恐察候ニ付時宜ノ愚慮ヲ以云々言上仕タリ此ノ間私身ガコイト計リ申上候コトハ御上ミ之義ヲ申コト故ニイカ、ト存シ只身カコイト而已申出候處因中尙得ト相考候處今日右ノ事件糺明ニ付テハ事實腹臆ヲ申出ズテハ冤角不相成事ト存シ候故今日明白ニ申上ルナリ別ニ子細ナク候

ヘゴナ、方言
マズイノ意

◎之詰スルニハ身ヲカコウ譯ヲ正スニ違ヒナキコト故右之通ヘゴナリ申候ヘハ心得違位トナルベシ

(上田開馬藏文書)

○慶應元年四月中旬 (瑞山ヨリ島村壽之助)

只今之事ハ明日御答可仕候此ハ先刻認居候事故其まゝ

一 毎度委細ニ御書記ニ得ト承知ニハ候得共只今ノ様ニある年々月々ニ忠臣義士ハ次第ニ無クナリ奸物ハ日ニ増シ追々頭立候忠士之者残り少ナニ成リ毎度ノ御書記ハ御尤ニ存候然ルニ只今之内何ソ御考ハ無之哉 貴人ニ數々義人有之カラハ輕格ヨリ神命ヲ勉テ貴人へ頼ミ大変ニ及時奸物ハ取ノケ候まト愚考致シ先日モ三郎公之說承候處御手本ノ者ヲ御手打ニ相成ヨリ多人數御屋敷に罷出私共御手打之者寸分不替同意之者故御手打願候處御家考一人罷出テ御國主ヲ御差置右之次第ニ付押穩居ト申說承已ニ御^{不明}弟衛吉杯之様數々ハテ候得共義士残り少弥亡國必定也ハ其上世上ヲ見ルニ若士共ハ只今之處弥正義ト存込候者此節多し 一 當世デハ小子見付無し見付ノナキニ死ヲヲシマンハ却る愚カトモ存候 一 兩年ヘテ大変ニ及カ義士多キ内大変ニ及カラカシキ成リニ只行コトナ

三郎公、島津
久光蓋シ此事
風説

レハトモ角モイヅレ見付ノ無キコナレハ死ヲヲシマズシテ益無シ病ヲ
サヅカレハ療治スルコト當然ニ

能々御推察候御返事いつでも御こし奉頼候

只今忠臣多キト云厄奸物ヲ得不殘年立候程ノケルコト六ヶ敷

神ノ、園村新
作

依太郎云此ノ付ケナド神ノ主意各様ナント御聞キ取被成候哉實ニ分カ
ランチャ御座リマセンカ

おぢさん

(上田開馬藏文書)

前ニコノ付ナ
ド、アルハコ
レカ

○慶應元年四月中旬カ (園村新作ヨリ瑞山へ)

一御スワリ之處實ニ申分無シ待^{侍カ}ノ當然也實ニ御同心然ニ神ノ幸ハ難頼已

ニ昔シ和氣ノ清丸ト申大難有リ若ミヤノ節御同心ノ者數十人有之趣コ
レ則神ノ幸也

一有間敷事ナカラ萬一牢死しては通セヌコカ

前野悦文

小南五郎右衛

門、目付

萩原、醫師萩

原、(一ニ

清庵ニ作ル)

一早崎ハ昨年ハ勤番ニ而大坂詰未歸リ不申

一前野ハ京ハ歸リ兩三度參リ候得共得々不逢

一小南ハ勤事扣中ニ病死致候ト◎見付ル由長長のトト察候事

一貴様御事も長々入牢ノ事故ツマリ病死スト云見付ト兼而承候事先日の

萩原些手合せ無キカトウタカフ也

一數人ノ名ヲ出シナハ大クヅレトナリラチ明キ候カトヲカシキ考出シ實

赤面此義御安心

林勇

△、吉田元吉

一先日林の咄ニ村田馬太郎トヤラ申者何故敷小子ノ名ヲ拷問ノ節出シタ

ト咄先日承候小子方へ△切ラレル前一兩度參リ候様ニモ覺申候勿論深

敷キ存慮ハ申そふ筈無し

^{右裏ニ瑞山ノ添書}
只今差出す積リニテわすれており申候神ノ書

○慶應元年四月中旬 (園村新作ヨリ瑞山へ)

武市瑞山關係文書第二